



勝木グループ

Katsuki Group

# 年報

2019・2020年度

教育推進会議  
学術・年報分科会

特定医療法人社団 勝木会

公益財団法人 北陸体力科学研究所



## ～コロナ禍を超えていこう～

勝木グループ 代表 勝木保夫

2019 年 11 月に、勝木グループがリハビリテーション合同ケア研究大会 in 金沢 2019 を主管して開催できたことは、大きな幸いでした。振り返ってみれば Covid-19 感染症が拡がるわずか 3 か月前であったため、現地開催ができたぎりぎりのタイミングでした。

学会発表や論文執筆は、論理的思考を養うこと、自分たちの実績を振り返り分析して次に活かせること、プレゼンテーションや文書作成能力が向上することなど、これらすべてが個人や組織の力量をあげて成長できる大きな収穫につながります。また、その学会運営のマネジメントは、携わったメンバーやその部署にとって、通常業務とは違う形での経験と実績が積み上げられることとなります。

このような学会活動は労力も大きいですが、準備に 3 年をかけ、グループスタッフ 88 名が中心となり、全国から 2260 名が集う学会を石川県県立音楽堂で現地開催できたことは、私たちに大きな収穫となりました。学会スタッフの皆さん、ありがとうございました。

2020 年 2 月からの Covid-19 感染症の波は、当初の世間の予測を大きく超え、社会生活に著しい混乱が生じる大災害となり、2 年が経過した 2022 年 1 月現在にもなおその波のうねりは大きく続いています。

私たちもその波に揉まれ、2020 年度は感染症対策やクラスター対応に追われ、医療・介護・健康増進の健康サービスが普段通りには行えませんでした。このため、実績が低迷したほか、学会参加や講演活動の制限などのため、研究への情熱を維持し研鑽に携わる時間を確保することが、精神的にも肉体的にも大変困難な年月でした。

未だ衰えない Covid-19 感染症は、早く収束させねばなりません。このため私たちは Covid-19 への直接対応も行いながらも、一方ではフレイルをはじめとする新しい健康問題、健康経営への課題など、健康サービスを提供するうえで日々の尽きぬ課題への対応が求められます。研鑽にはこれでよいという終点はないのです。

ここに、2019 年年度から 2020 年度の実績と研究成果をまとめ、お届けします。2 年間の研究や発表、講演活動などの業績を記録し、自らの振り返りと励ましとします。今後も私たちは、医療・介護・福祉・健康増進を担うオピニオンリーダーとして活動していくことが使命です。研鑽の結果を勝木グループ職員相互へ、あるいは地域社会へ還元していくように期待します。コロナ禍を超えて、2022 年寅年は、新しいことにレッツ、とらい！！

2019年、2020年を境に世界は変わってしまいました。COVID-19パンデミックのため、これまで当たり前のように出来ていた遠隔地における学会参加、志を同じくする仲間との直接対面での情報交換が出来なくなり Web を通した受講、パソコンのモニターに向かっての学会発表が中心となりました。

場所と時間を選ばず教育講演を受講することができる、時間帯が重なってどちらか一つの聴講を諦めざるを得なかったのが、後からオンデマンドで聴く事ができる、など Web による学会開催のメリットを享受することができるようになりました。しかしパソコンに向かって独り言のようにしゃべり、他者とのコミュニケーションの無い研究発表からは、その後の発展に繋げることが出来ませんでした。そして志を同じくする全国の仲間と懇談し、本音で語りあうことで生まれた創意工夫のアイディアは得られにくくなりました。

医療を行うには大きく分けてテクニカルスキルとノン・テクニカルスキルが必要であると言われていています。テクニカルスキルとは検査結果や心電図を読み取ることができるなど客観的にも評価が可能な知識や技術です。これに対してノン・テクニカルスキルはコミュニケーション能力、リーダーシップ能力など客観的には評価が難しいスキルと考えられています。時間と場所を選ばず Web から一方的に提供される知識はテクニカルスキルを身につけるには有利だが、ノン・テクニカルスキルは人間同士が直接対面するコミュニケーション無しには身につけるのが難しい、ということに気がつきました。

幸か不幸か COVID-19パンデミックの影響で、以前よりもテクニカルスキルを身につけることは容易な時代となりました。しかしノン・テクニカルスキル無しに医療は成り立ちません。テクニカルスキルとノン・テクニカルスキルを両立させ新たな発展に繋げるためにはどうすればよいのか？今回の年報にはそのヒントが豊富に含まれていると感じました。ぜひお読み下さい。

教育推進会議 学術・年報部門  
委員長 池永 康規



# 特 集



# リハビリテーション・ケア 合同研究大会 金沢 2019

## 響生

チームで奏でる保健・医療・福祉のハーモニー

開催日 2019年11月21日(木)～22日(金)

### 2019年大会抄録集

大会長 | **勝木 保夫** (特定医療法人社団勝木会 理事長)

副大会長 | **影近 謙治** (富山県リハビリテーション病院こども支援センター 病院長)

**勝木 達夫** (やわたメディカルセンター 院長)

**西村 一志** (やわたメディカルセンター 副院長)

実行委員長 | **池永 康規** (やわたメディカルセンター リハビリテーション科 科長)

主催 | 一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会  
一般社団法人 回復期リハビリテーション病棟協会  
一般社団法人 全国デイ・ケア協会  
一般社団法人 日本訪問リハビリテーション協会  
全国地域リハビリテーション研究会  
全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会

写真提供：金沢市



大会事務局／特定医療法人社団勝木会 やわたメディカルセンター  
〒923-8551 石川県小松市八幡イ12番地7 TEL:0761-47-1212 FAX:0761-47-1941  
rehacare2019@katsuki-g.com

運営事務局／株式会社 オトムラ  
〒920-0342 金沢市畷田西4丁目67番地 TEL:076-268-3737 FAX:076-268-0212



▲HPはこちら

開会式 9:30～9:45

大会長講演 10:00～11:00

「地域で取り組む健康社会 ～地域と保健・医療・福祉の響生～」

座長：宮井 一郎(森之宮病院 院長代理)  
 演者：勝木 保夫(特定医療法人社団勝木会 理事長)

講演② リハ・ケア 11:00～12:00

「リハビリテーション・マインド」

座長：西村 一志(やわたメディカルセンター 副院長)  
 演者：石川 誠(医療法人社団輝生会 会長)

主催団体企画① 12:30～14:00

(回復期リハビリテーション病棟協会)

回復期リハビリテーション病棟の退院支援～看護・介護の役割と多職種協働～

座長：一宮 禎美氏(NTT東日本伊豆病院 看護部長)(回復期リハビリテーション病棟協会 看護介護委員長)  
 シンポジスト：稲垣 奈美氏(善常会リハビリテーション病院 看護部病棟副主任)  
 船橋 亮平氏(藤田医科大学 七栗記念病院 介護主任)  
 藤井由記代氏(森之宮病院 診療部医療社会事業課 副部長)

講演④ リハ・ケア 14:00～15:00

「地域共生社会に向けたリハ・ケアの課題と展望」

座長：勝木 達夫(やわたメディカルセンター 院長)  
 演者：斉藤 正身(医療法人真正会霞ヶ関南病院 理事長)

講演⑤ 医療 15:00～16:00

「がんとロコモティブシンドローム(がんロコモ)」

座長：竹内 尚人(医療法人社団光仁会 木島病院理事長・院長)  
 演者：土屋 弘行(金沢大学大学院整形外科科学講座 教授)

講演⑥ 社会づくり 16:00～17:00

「災害時の生活不活発対策と早期自立・復興支援」

座長：角田 賢(錦海リハビリテーション病院 院長)  
 演者：栗原 正紀(一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院 理事長・院長)

講演⑦ 社会づくり 17:00～18:00

「共に生きる」

座長：大井 清文(公益財団法人いわてリハビリテーションセンター 理事長・センター長)  
 演者：青木 隆明(高野山沙門 岐阜大学大学院 医学系研究科 骨関節再建外科学先端医療講座 リハビリテーション科 特任准教授)

講演① 社会づくり

10:00～11:00

「高次脳機能障害および認知症患者の自動車運転」

座長:柳 尚夫(兵庫県豊岡保健所 所長)  
 演者:武原 格(東京都リハビリテーション病院 リハビリテーション部長)

講演③ 医療

11:00～12:00

「『地域の中にあつたらいいな』の実現を目指して  
 ～地域栄養ケアを極めるコミュニティナースの役割～」

座長:伊東由美子(長崎リハビリテーション病院 臨床支援統括)  
 演者:中村 悦子(社会福祉法人 弘和会 訪問看護ステーションみなぎ 管理者)

主催団体企画②

12:30～14:00

(全国デイ・ケア協会)

通所リハビリテーションにおけるサービスの質の向上をめざした業務改善を考える

座長:岡野 英樹氏(一般社団法人 全国デイ・ケア協会 理事)  
 指定発言:長江 翔平氏(厚生労働省 老健局 老人保健課 課長補佐)  
 シンポジスト:高橋 洋子氏(小倉リハビリテーション病院 南小倉デイケアセンター 主任)  
 山本江吏子氏(介護老人保健施設鴻池荘 リハビリテーション部 課長)  
 外口 徳秀氏(医療法人真正会 通所リハビリテーションデイリビング マネジャー)

主催団体企画③

14:00～15:30

(日本訪問リハビリテーション協会)

地域共生社会の実現に向けた訪問リハビリテーションの役割

座長:宮田 昌司氏(医療法人社団輝生会 初台リハビリテーション病院 教育研修部長)  
 シンポジスト:永来 努氏(株式会社コンパス)  
 中森 清孝氏(医療法人社団長久会 介護老人保健施設加賀のぞみ園・訪問看護ステーション加賀)  
 森 志勇士氏(訪問看護ステーション 開く)

主催団体企画④

15:30～17:00

(全国地域リハビリテーション研究会)

『地域包括ケアと共生社会の実現』

座長:柳 尚夫氏(兵庫県但馬県民局豊岡健康福祉事務所)(全国地域リハビリテーション研究会 会長)  
 村井 千賀氏(石川県立高松病院)(全国地域リハビリテーション研究会 世話人)  
 シンポジスト:藤島 健一氏(金沢QOL支援センター株式会社)  
 林 博道氏(一般社団法人 創舎会 理事長)  
 障害当事者

講演⑧ 医療

17:00～18:00

「相手の心に響く言葉選び」

座長:安田 忍(やわたメディカルセンター 看護部長)  
 演者:北岡 和代(公立小松大学 保健医療学部 学部長)

シンポジウム1

10:10～12:00

「共生社会の実現に向けた私たちのチャレンジ」

座長:松坂 誠應(一般社団法人是真会在宅支援リハビリテーションセンターぎんや センター長)

シンポジスト:

「いま、ごちゃまぜがおもしろい!～地域共生社会の持つ可能性～」

雄谷 良成(社会福祉法人佛子園 理事長)

「あったか地域の大家族」～富山型デイサービスの26年～」

惣万佳代子(特定非営利活動法人デイサービス このゆびとーまれ 理事長)

「リハビリテーションを核とした街づくりへのチャレンジ」

松井 一人(株式会社ほっとリハビリシステムズ 代表取締役)

シンポジウム2

12:30～14:30

「地域の人々と響きあう～共生社会のために医療機関ができること～」

座長:山鹿眞紀夫(熊本リハビリテーション病院 名誉顧問)

シンポジスト:

「2040年を見据えた持続可能なリハビリテーションのあり方」

石川 賀代(社会医療法人石川記念会 理事長 石川ヘルスケアグループ 総院長)

「生きる力を引き出し、つなげるために」

室谷ゆかり(医療法人社団アルペン会 アルペンリハビリテーション病院 理事長)

「地域の人々と響きあう～共生社会のために医療機関ができること～」

岡本 隆嗣(医療法人社団朋和会 西広島リハビリテーション病院 理事長)

シンポジウム3

14:30～16:30

「これからの診療・介護報酬改定に向けたリハ・ケアのあり方」

座長:影近 謙治(富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 病院長)

シンポジスト:

「回復期リハビリ病棟が医療・介護制度のなかで果たすべき役割」

園田 茂(藤田医科大学 七栗記念病院 病院長)

「地域包括ケア病棟の在宅復帰支援」

仲井 培雄(医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院 理事長)(地域包括ケア病棟協会 会長)

「『慢性期医療におけるリハビリテーション・ケアの課題と展望』

～令和時代に生き残るための意識改革とは?～」

池端 幸彦(医療法人池慶会 池端病院 理事長)

日本リハビリテーション病院・施設協会 特別報告

16:30～17:00

「平成30年度回復期から生活期までのリハビリテーション効果に関する実態調査」報告

～生活期において医師・療法士は有効なリハビリテーションを提供しているか?～

座 長:徳永 能治氏(日本リハビリテーション病院・施設協会 調査・検証委員会 委員長)

演 者:前田 和崇氏(日本リハビリテーション病院・施設協会 調査・検証委員会 委員)

川上 途行氏(日本リハビリテーション病院・施設協会 調査・検証委員会 委員)

主催団体企画⑤

9:00～10:30

(日本リハビリテーション病院・施設協会)

動き出そう！明日からできる地域リハビリテーションの実践 ―地域リハ塾の取り組みから―

座長：菊地 尚久氏(千葉リハビリテーションセンター)  
 澤潟 昌樹氏(在宅総合ケアセンター元浅草)  
 指定発言：斉藤 正身氏(日本リハビリテーション病院・施設協会 会長)  
 シンポジスト：佐藤 英雄氏(いわてリハビリテーションセンター)  
 前田 和崇氏(長崎県島原病院)  
 寺田 千秀氏(アマノリハビリテーション病院)

主催団体企画⑥

10:30～12:00

(全国地域リハビリテーション支援事業 連絡協議会)

地域包括ケア体制に必要な地域づくり ～地域リハビリテーションの理念と戦略から考える～

座長：松坂 誠應氏(全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会 会長)  
 (一般社団法人是真会 法人本部 地域リハビリテーション統括)  
 (在宅支援リハビリテーションセンターぎんや センター長)  
 村上 重紀氏(公立みつぎ総合病院 リハビリ部 参与)  
 演者：畑山 浩志氏(洲本市役所 健康福祉部介護福祉課)  
 北谷 正浩氏(羽咋郡市広域圏事務組合 公立羽咋病院 リハビリテーション科)  
 村山 謙治氏(国民健康保険 平戸市民病院 リハビリテーション科)

講演⑩ リハ・ケア

13:00～14:00

超高齢社会におけるリハビリテーションへの期待

座長：水間 正澄(医療法人社団輝生会 理事長)  
 演者：眞鍋 馨(厚生労働省老健局老人保健課 課長)

公開講座①

15:00～15:50

「いきいき元気な高齢社会」

座長：林 正岳(一般財団法人新田塚医療福祉センター 理事長)  
 演者：大田 仁史(茨城県立健康プラザ 管理者)

公開講座②

16:00～17:00

「働く幸せ実現のために『社員から教わったこと』」

座長：勝木 保夫(特定医療法人社団勝木会 理事長)  
 演者：大山 隆久(日本理化学工業株式会社 取締役社長)

閉会式

17:30～18:00

講演⑨ リハ・ケア

9:00～10:00

「地域包括ケアに資する地域リハビリテーション ―病院・施設の地域づくり活動を中心に―

座長:三橋 尚志(京都大原記念病院 副院長)

演者:浜村 明德(医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院 名誉院長)

シンポジウム4

10:00～12:00

「共生社会における医療経営のあり方」

座長:宮里 好一(医療法人タビック 沖縄リハビリテーションセンター病院 理事長)

シンポジスト:

「共生社会における医療経営のあり方

地域リハビリテーション活動を強みとして医療経営を考える」

高橋 誠(医療法人社団輝生会 在宅拠点統括部長)

「共生社会づくりへの法人の取組と今後の医療経営のあり方」

磯本 豊志(一般社団法人是真会 法人本部長)

「共生社会における地域企業を活用した「共創」の実現」

小野寺 薫(株式会社ファーストプレス 代表取締役)

講演⑩ 社会づくり

13:00～14:00

「共生社会に向けたデザインの力」

座長:中村 春基(一般社団法人 日本作業療法士協会 会長)

演者:荒井 利春(Arai UD workshop 代表 金沢美術工芸大学 名誉教授)

シンポジウム5

14:00～16:00

「共生社会における療法士のあり方」

座長:岡野 英樹(医療法人真正会 本部付 部長 霞ヶ関在宅リハセンター)

シンポジスト:

「共生社会における療法士のあり方―理学療法士のあり方に関する一考察―

齊藤 秀之(日本理学療法士協会 副会長)

「共生社会における作業療法士のあり方」

西方 浩一(文京学院大学 保健医療技術学部 作業療法学科 准教授)

「共生社会の実現に向けて～言語聴覚士がつなぐ地域の和～」

内山 量史(春日井サイバーナイフ・リハビリ病院 言語療法部長)

講演⑫ 医療

16:00～17:00

「歩行のバイオメカニクスと装具の働き」

座長:宮田 昌司(初台リハビリテーション病院 教育研修部長)

演者:山本 澄子(国際医療福祉大学大学院 教授)



## 地域で取り組む健康社会 ～地域と保健・医療・福祉の響生～

特定医療法人社団勝木会 理事長 勝木 保夫

日本人の平均寿命はますます延びて、男女とも80歳を超えた。また、65歳を迎えれば、60%以上の方が90歳まで生存できる時代になった。一方、少子化や人口減少が進み、これを支える社会保障費が益々増加の一途で、地域社会の経済や医療介護福祉に大きな影響をもたらし始めている。将来日本の地域社会を守るため、地域医療構想が掲げられ、地域包括ケアの構築が進められてきているなか、専門職としては、一人ひとりの生活と健康を守り、地域と一体の健康社会を創造していくことで、持続可能な社会を築いていくことが求められる。

地域で取り組む健康社会のために、3つの要素がある。

- ①患者の削減と重症度の低減のための健康増進と介護予防
  - ②医療の効率化のための病院・施設の機能分担と再発予防の取り組み
  - ③リハビリテーションと在宅支援の構築による自立支援や自助・互助の再建
- 今回これらについて、急性期から生活期への連携を視点に入れながら説明したい。

①患者の削減と重症度の低減のための健康増進と介護予防  
患者の削減と重症度の低減は、医療費を抑え医療介護に伴う社会的損失を防ぐために重要である。これは、日常生活における適切な運動習慣や生活期における社会参加により達成される。これは、個人一人でなしうるのではなく、疾病のない若年世代から何らかの健康課題を持つ人々まで、地域ぐるみでそれぞれの活動の場を作り、自主的な活動に結び付くような支援が望ましい。

②医療の効率化のための病院・施設の機能分担と再発予防の取り組み  
病院・施設の機能分担としては、回復期リハビリテーションを担う施設の役割は大きい。回復期リハビリテーションを要する疾患の多くが生活習慣病を背景として持っている。したがって、回復期では急性期から生活期への機能訓練のみを行うのでは十分にその「回復期」の役割を全うできているわけではなく、生活習慣病に起因する疾患の再発予防を患者・家族に意識付けし、リハケアのアプローチの中に生活習慣は改善を導くことも必要である。行動変容を促し、生活期に移行しても運動習慣の継続のための連携が求められる。

③リハビリテーションと在宅支援の構築による自立支援や自助・互助の再建  
いつまでも自らの人生を自分自身がコンダクターとなって暮らすことが、充実し尊厳をもって生き抜くことにつながる。また、人口減少・高齢化とともに独居世帯が増加し、地域での支援構築が必要である一方で、医療介護に携わる人手にも限度があり、今後の医療介護需要をまかなうには不足すると見込まれる。これを補うためにできることは、地域住民が長く自立生活可能になる社会を築くことである。これらの達成のためには、高齢者が自己管理できること（自助）、地域で互いの生き甲斐をもち支え合うこと（互助）、介護保険など公的サービスの充実（共助）、障がいへの対策や人権擁護の福祉の対策（公助）が重要になる。これらに対し在宅での多職種チームによる地域社会へのかかわり、患者・利用者とサービス提供者の心が通い互いに響きあって共に生活の場を構築する、共生（響生）社会の構築が不可欠である。地域の力・家族の絆を支えに楽しみながら前向きに生きていくウェルネスマインドを基に、身体的健康のみならず、社会的健康・知的健康・情緒的健康・精神的健康を増進していくことを支援することが肝要と考える。

患者・利用者の喜怒哀楽を受け止め、共感し、最適なリハケアの適用を駆使して、持続可能な地域社会を支える響生社会を築きたい。

### 略 歴

- 1984年 3月 日本医科大学卒
- 1984年 4月 金沢大学整形外科教室入局
- 1995年10月 リハビリテーション加賀八幡温泉病院整形外科（現：やわたメディカルセンター）
- 2009年 4月 医療法人社団勝木会 理事長



## 通所リハビリテーションにおける前頭側頭型認知症を呈した症例への介入

○山田 早紀 (作業療法士)、酒井 有紀 (理学療法士)、酒井 広勝 (作業療法士)、  
後藤 伸介 (理学療法士)、西村 一志 (医師)

特定医療法人社団勝木会 やわたメディカルセンター

### 【はじめに】

今回、前頭側頭型認知症を呈し、脱抑制、常同行動をはじめとした行動障害がみられる症例を担当した。症状の行動を考察し、環境因子へ働きかけたことにより穏やかに通所リハの利用が継続出来たため、報告する。

### 【症例】

70歳代、男性、要介護3。

### 【初期評価】

HDS-R19/30点。認知症行動障害尺度(Dementia Behavior Disturbance Scale:DBD)30/112点。突然大声を出す、手を叩く様子あり。帰宅時間が待てない、通所リハには2度と来ないと怒ることが多い。フロア内を同じコースで歩き回る様子あり。

### 【介入】

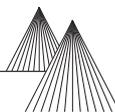
症例の行動障害を考察し、以下の1～3について対応した。1得意な作業や主体性がみられる作業、意識が集中する作業の特定2作業遂行評価の結果をもとに、日課表の作成・提示3行動を促すための物品配置の検討。また同時に職員の疾患の理解、ケア方法の統一を図るための勉強会の開催、日々の対応方法のずれや不具合など生じた場合はその都度ミーティングや申し送りなどで周知を行った。

### 【結果】

HDS-R14/30点。DBD10/112点。スケジュールに沿って自発的に移動し、目的なく歩くことは見られず。日中は自席で落ち着いて過ごし、行動障害の軽減が見られた。

### 【考察】

堀田らは、不安感や焦燥など心理的要因を生み出されるのを助長しているのが、認知症高齢者をとりまく環境因子であると述べている。今回、症状を考察し、環境を調整したことが行動障害の軽減に繋がったと示唆される。



## 当院における自立度判定評価表の導入前後での転倒件数の比較検討

○今井 美里<sup>1)</sup> (理学療法士)、坂中 良子<sup>2)</sup> (理学療法士)、池田 拓史<sup>2)</sup> (理学療法士)、  
後藤 伸介<sup>2)</sup> (理学療法士)

<sup>1)</sup>やわたメディカルセンター リハビリテーション技師部、<sup>2)</sup>やわたメディカルセンター リハビリテーション技師部

### 【背景】

当院では、患者様の移乗・移動自立の際に機能評価の基準は標準化されていなかった。そこで、2018年より当院病棟と在宅での運用を目指し自立度判定評価表を作成した。今回、自立度判定評価表の導入前後の転倒件数を抽出し、比較・検討を行った。

### 【方法】

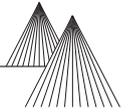
自立度判定評価表の導入前2017年、導入後2018年のそれぞれ6～7月期間の理学療法実施者を対象とした。その中で移乗・移動自立と評価された者は、導入前119例、導入後153例。同時期の当院転倒レポートから、移乗・移動自立と判定後の転倒件数を抽出し、カイ二乗検定を用い比較検討した。有意水準は5%未満とした。

### 【結果】

転倒件数は導入前7件(5.9%)、導入後3件(2.0%)と低下傾向にあったが、カイ二乗検定の結果、有意な関係は認めなかった。

### 【考察・結論】

今回、導入後の転倒件数は減少している傾向であった。転倒予防として、身体機能・動作能力、また動作に関連する周辺動作も合わせて評価を行っていく必要があると言われている。当院の自立度判定評価表は、動作・身体機能評価に加え、「適切な時にスタッフコールが行える」、「扉の開閉ができる」など、問題解決や環境適応・安全管理項目があり、その項目がすべて可能な方を自立と判定している。そのため、自立度判定評価表を用いることで、全スタッフが意識を持ち評価を行えるようになり、転倒リスクを軽減できた可能性があると思われた。



## 地域包括支援センターにおけるリハビリテーションコーディネーター活動の取り組み

- 中村 英史<sup>1)</sup>（理学療法士）、霜下 和也<sup>1)</sup>（理学療法士）、村田 明代<sup>1)</sup>（作業療法士）、  
山田 元<sup>1)</sup>（社会福祉士・精神保健福祉士（ソーシャルワーカー））、濱田亜希子<sup>1)</sup>（看護師）、  
山岸 晴子<sup>1)</sup>（社会福祉士・精神保健福祉士（ソーシャルワーカー））、上田 幸生<sup>2)</sup>（医師）、  
後藤 伸介<sup>3)</sup>（理学療法士）

<sup>1)</sup>丸内・芦城高齢者総合相談センター、<sup>2)</sup>特定医療法人社団 勝木会 芦城クリニック、

<sup>3)</sup>特定医療法人社団 勝木会 やわたメディカルセンター

### 【はじめに】

当法人では、石川県小松市の委託を受けて地域包括支援センター（以下、センター）を運営しているが、本体業務の中にはリハビリテーション（以下、リハ）に関連する相談が含まれることもある。そこで、センターに療法士を配置して以下の活動に取り組んできたため報告する。

### 【取り組み】

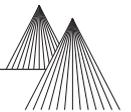
2019年1月より小松市の承認のもと、理学療法士・作業療法士を中心とした「地域リハビリテーションコーディネーターセンター」の活動をセンター業務に附帯した。主な活動は、リハに関する相談対応・情報提供、訪問調査等への同行、地域リハの啓発とし、市内全域のセンター等からの相談対応を行うこととした。

### 【結果】

2019年1～7月までの相談数は17件であり、そのうち16件は同行訪問による対応であった。相談元はセンター11件、居宅介護支援事業所6件であり、介護度は要介護1が3名、要支援が7名、申請中が2名、手続きなしが5名であった。主な相談内容は、身体機能やADL能力等に応じた環境調整方法の助言、必要なサービスの提案であった。

### 【考察】

これまでの活動から、センターが関わる介護予防ケアマネジメントやケアマネジャー支援、医療・介護連携、生活支援・介護予防の業務において、療法士が関わることで支援が円滑になる可能性が示唆された。今後は関連機関との連携をより深め、ネットワーク構築等の地域リハ推進の取り組みを実施していきたい。



## 変形性膝関節症において、骨粗鬆症の存在は身体機能低下に影響を与えているのか

- 池田 拓史<sup>1)</sup>（理学療法士）、山田 尚輝<sup>1)</sup>（理学療法士）、高木 洋之<sup>1)</sup>（理学療法士）、  
後藤 伸介<sup>1)</sup>（理学療法士）、岡本 義之<sup>2)</sup>（医師）

<sup>1)</sup>やわたメディカルセンター リハビリテーション技師部、<sup>2)</sup>やわたメディカルセンター 診療部 整形外科

### 【目的】

当院では、脊椎・下肢変性疾患の手術症例に対し術前後のロコモティブ・シンドローム（以下ロコモ）評価ならびに骨密度や筋力の評価を行っている。本研究の目的は、ロコモに該当した変形性膝関節症患者において、骨粗鬆症の有無が身体機能に影響を与えているのか検討することである。

### 【方法】

2018年9月から2019年6月に当院で変形性膝関節症に対する手術を予定し、術前に身体機能評価が可能であった女性47名（平均年齢70.7±8.6歳）を対象とした。調査項目は、年齢、BMI、身体機能評価はロコモ度診断、握力、最大歩行速度、膝伸展筋力、バランス評価（ファンクショナルリーチテスト；以下FRT）を行った。骨粗鬆症の診断は、DXA法を用いて測定され、骨粗鬆症の有無で2群間に分け、比較検討を行った。統計処理はIBM SPSS Statistics 20を使用し有意水準は5%とした。

### 【結果】

骨粗鬆症群13名（平均年齢75.5±6.8歳）、非骨粗鬆症群34名（平均年齢68.9±8.3歳）に分類され、年齢（ $p=0.009$ ）、BMI（ $p=0.521$ ）、ロコモ度（ $p=0.536$ ）、握力（ $p=0.029$ ）、最大歩行速度（ $p=0.609$ ）、膝伸展筋力（ $p=0.330$ ）、FRT（ $p=0.686$ ）であった。

### 【結論】

ロコモに該当する高齢女性患者の骨粗鬆症の併発は、握力低下の傾向であった。



## 人工股関節全置換術後12ヶ月でのQOLに關与する退院時の身体機能因子

○山田 尚輝<sup>1)</sup> (理学療法士)、池田 拓史<sup>1)</sup> (理学療法士)、後藤 伸介<sup>1)</sup> (理学療法士)、  
黒田 一成<sup>2)</sup> (医師)

<sup>1)</sup>やわたメディカルセンター リハビリテーション技師部、<sup>2)</sup>やわたメディカルセンター 診療部 整形外科

### 【目的】

股関節疾患の主観的評価法に日本整形外科学会股関節疾患評価質問票 (以下JHEQ)がある。人工股関節全置換術 (以下THA) 後6ヶ月までのJHEQを用いた患者満足度やQOLの報告は散見されるが、6ヶ月以降に關しての報告は少ない。今回JHEQを用いて、THA後12ヶ月でのQOLに關与する退院時の身体機能因子を明らかにすることを目的に検討した。

### 【対象】

2016年4月～2018年3月まで当院にてTHAを行い、術後12ヶ月のJHEQに回答した29例とした。性別は女性27例、男性2例、平均年齢は66.7歳、平均在院日数は37.8日であった。除外基準はJHEQ回答に不備がある、退院時の移動形態が独歩または片側T杖使用ではないものとした。

### 【方法】

術後12ヶ月でのJHEQ合計点を従属変数とし、退院時での歩行時痛 (VAS)、股関節可動域 (屈曲、外転)、筋力 (膝関節伸展、股関節外転)、歩行速度を独立変数として重回帰分析を行った。統計学的有意水準は全て5%とした。

### 【結果】

術後12ヶ月でのJHEQ合計点に影響を及ぼす因子として、歩行速度が選択された ( $p=0.031, R=0.432, R^2=0.187$ )。

### 【考察】

退院時の身体機能から術後12ヶ月のQOLの予測は困難だが、退院時での歩行速度が關与することが示唆された。歩行速度が向上することで外出など活動範囲が拡大し、QOLの向上に影響するのではないかと考えられる。退院後の外出や地域活動などの活動状態を把握する目的で、退院時や術後12ヶ月時でも継続した歩行状態の評価を行う有用性はあると考える。



## ピアサポートの効果が高い方の傾向について

○堀田めぐみ (作業療法士)、井家 歩美 (作業療法士)、城戸内有紀 (作業療法士)、  
古川 香 (作業療法士)、後藤 伸介 (理学療法士)

特定医療法人社団勝木会 やわたメディカルセンター リハビリテーション技師部

### 【はじめに】

当院では回復期リハビリテーション病棟において作業療法士介入のもとピアサポートの提供を行っている。今回、ピアサポートの満足度を聞き取り満足度が高い群の傾向を調査したので報告する。

### 【方法】

ピアサポートは週に1回40分間行う。2018年8月から2019年2月の期間にて毎回のピアサポート自体への満足度を10段階評価、参加の目的と感想を自由記載にて確認した。満足度との関連を調査する内容については、参加の主目的の有無、感想、テーマ、疾患名、年齢、性別、発症日からの日数、入棟日からの日数、参加人数、参加回数、FIMの運動項目・理解・表出・社会的交流・問題解決・記憶、の16項目とした。なお分析には最終参加日の満足度をデータとして使用した。

### 【結果】

30名延べ145件の有効回答を得た。満足度が高い群と低い群の有意な差がみられるものとしては女性、発症日からの日数が長い、病巣が左側、FIMの社会的交流が高いであった。テーマでは退院した方からの話が有意に高かった。

### 【考察】

満足度が高かった要因として、女性はコミュニケーションにより自分の意見を変えたり同調しやすい傾向があり、発症日からの日数が経過していたり左側の病巣のほうが障害や生活について主体的に考えられること、社会的交流が高い方はピアサポートの場をうまく活用できるからだと推測する。また、今後の生活への不安の払拭には同病者の体験談が効果的であると考えられる。



## 歩き回る利用者の不安を和らげる取り組み

○南 明子 (介護福祉士・ヘルパー・看護補助者)

特定医療法人 勝木会 やわたメディカルセンター

### 【はじめに】

今回、認知度が低下し、不安を抱えながら施設内を歩き回る利用者について、その原因や関わり方について、事例を通して考える。

### 【事例紹介】

90歳代、女性、要介護3

障害老人日常生活自立度：ランク A (歩行：歩行器使用自立、排泄：一部介助)

認知症高齢者日常生活自立度：3b 長谷川式簡易知能評価スケール：8点

### 【経過】

平成27年4月、排泄管理や活動低下、短期記憶の低下のため、生活リズムを整え、身体機能、精神機能維持を図る目的で通所リハビリテーションを週2回利用し、1日の予定に合わせて活動に参加していた。徐々に認知面の低下が目立ち、自宅で日中独居困難になり、今年6月から週5回の利用となる。

施設内レイアウトの変更があった同時期に、尿意や帰宅時間が気になることが増え、不定愁訴があり、表情も硬くなっていった。また様々な活動に集中できず、施設内を歩き回るが増加し、その都度職員の介入が必要になった。

### 【介護実践】

興味ある活動を個別的に支援し、集中できる活動の時間を作った。また歩き回る行動を肯定し、不安な訴えがある時は思いを傾聴した。

### 【結果】

不安な思いは軽減し、会話中に笑顔が見られるようになった。そして以前に比べ、歩き回る行動は減り、落ち着いて過ごせる時間が増えた。

### 【考察】

個別の支援により個人を尊重し、行動を個人の目線で解釈することで、その人らしさを引き出すことに繋がり、安心感や満足感を高められたと思われる。



## 肩関節固定装具装着による立位バランスの影響

○村中 巖太 (理学療法士)、高木 洋之 (理学療法士)、池田 拓史 (理学療法士)、後藤 伸介 (理学療法士)

やわたメディカルセンター リハビリテーション技師部

### 【はじめに】

近年、超高齢化社会を迎え、整形外科手術においても高齢者が急増している。当院の肩関節手術でも、転倒での受傷、肩関節固定装具 (以下、スリング) 着用時の転倒を経験した。本研究ではスリング着用・非着用の片脚立位平衡機能に相違が生じるか、重心動揺計を用いて検討した。

### 【方法】

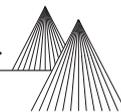
健常若年成人20名 (男・女10名) を対象に、閉眼片脚立位における重心動揺を計測した。計測はスリング着用時と非着用時の2回とし、スリングは左上肢に装着、右側下肢での片脚立位で姿勢を統一した。アニマ社製プレート式下肢荷重計 BW-6000 を用い、測定時間30秒、サンプリング周波数20Hzとした。その足圧中心の総軌跡長 (cm)、外周面積 ( $\text{cm}^2$ ) の平均値について、閉眼片脚立位のスリング着用時と非着用時を対応のあるt検定にて比較し、有意水準は5%未満とした。

### 【結果】

総軌跡長は閉眼着用群で209.7cm、閉眼非着用群で170.1cm、 $p < 0.05$ 。有意差を認めた。(外周面積：閉眼着用群：14.0 $\text{cm}^2$ 、閉眼非着用群：9.5 $\text{cm}^2$ 、 $p=0.16$ )

### 【考察】

スリング着用時、閉眼状態では有意に動揺が増強した。左上肢にスリングを装着、片脚立位をする事で、右側に足圧中心が変位する事が考えられる。伴い、体幹・下肢関節は普段と異なる肢位での使用が求められる。従って、スリングの着用により立位バランスの低下が生じたと考えられる。



## 通所介護での生活機能向上のための連携の取り組みと課題

○酒井 広勝<sup>1)</sup>（作業療法士）、佐々木詩織<sup>2)</sup>（作業療法士）、後藤 伸介<sup>3)</sup>（理学療法士）

<sup>1)</sup>訪問看護ステーション リハケア苜城、<sup>2)</sup>デイサービスセンターみのり倶楽部みつや、

<sup>3)</sup>特定医療法人社団 勝木会 やわたメディカルセンター

### 【はじめに】

平成30年度の介護保険改定で通所介護に生活機能向上連携加算が創設された。これは自立支援・重度化予防に資する介護を推進するために、通所介護事業所の職員と外部のリハビリテーション専門職が連携して、機能訓練等のマネジメントをすることが評価されたものである。当事業所でも2018年9月より当医療法人内の通所介護事業所へ療法士を派遣し、機能訓練指導員と共働し、個別機能訓練計画の作成を始めた。その記録内容を分析し今後の課題を検討したので報告する。

### 【方法】

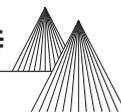
2018年9月から2019年3月まで通所介護事業所の機能訓練指導員とともに行ったカンファレンス記録を分析した。

### 【結果】

通所介護利用者47名、延べ114回カンファレンスを行った。男性18名、女性29名、平均年齢85.7歳であった。通所介護の平均利用期間は24.5か月であった。個別機能訓練計画に対するアドバイス内容で最も多かったものは役割・活動に関するものであった。次いでADL、認知面の評価、リスクに関するものであった。

### 【考察】

今回の調査の結果から派遣された療法士は自宅での役割やADL活動などの活動・参加を意識したアドバイスを多く行っていた。このことから住み慣れた地域に生活し続けるための、より個別性の高いプログラム作りや家族・地域・他サービスとの情報共有を求める関りが行われていたと推察され、今回の取り組みは有益なものであったと考える。



## 健康増進施設における集団型運動増進スクールの取り組み

○小池 順<sup>1)</sup>（健康運動指導士）、松儀 怜<sup>2)</sup>（理学療法士）、勝木 達夫<sup>3)</sup>（医師）、  
平下 政美<sup>1)</sup>（その他）、勝木 保夫<sup>1)</sup>（医師）

<sup>1)</sup>公益財団法人 北陸体力科学研究所、<sup>2)</sup>医療法人博俊会 春江病院、<sup>3)</sup>特定医療法人社団法人勝木会 やわたメディカルセンター

### 【目的】

昨今の健康意識の高まりや、高齢化による有疾患者の増加などにより、安全で効果的な運動療法の実施が望まれている。本研究ではメタボリックあるいはロコモティブ症候群を有する利用者に対して、当施設が提供する運動療法プログラムが適切か否かについて検討した。

### 【方法】

スクール形式で対象者を募集した。参加条件は年齢や疾患による制限を設けなく、自立して運動が実施できれば可とした。実施時間は準備・主運動・整理運動を含め60分とした。内容は、1. 週毎に異なる運動内容の実施 2. 少人数制 3. 定期的な栄養指導の実施 の3点を配慮した。

### 【結果】

2017年5月のスクール開始からの2年間で、延べ53名（性別：男性13名、女性40名）（年齢：71.1 ± 7.9歳）の方の入会があった。入会者の有疾患は、高血圧（49%）、心臓病（23%）、変形性膝関節症（26%）であった。体力測定結果は初回、2回目それぞれ、CS-30（16.3 ± 2.9回／19.5 ± 5.1回）であった。

### 【考察】

スクール開始から2年が経過し、定期的に運動内容を更新している。利点は、1. 様々な運動の実施 2. 少人数制により指導者の目が届きやすい 3. コミュニティの形成 などによって効果的な運動の実施と、継続性の向上が期待できると考えられる。今後も品質管理に努め、さらに効果的な運動を検討し会員の健康管理を行っていく。



## 病棟看護師として、退院支援に向けた看護のあり方に関する研究 —スクリーニングシートの活用を試みて—

○松村ひろみ (看護師)、大杉 美央 (看護師)、河南 昌美 (看護師)、小西あけみ (看護師)、  
安田 忍 (看護師)

やわたメディカルセンター

### 【目的】

A病棟では退院支援看護師が専従し活動している。看護師が主体的に退院に向けての課題提起や協議には至っていない現状の理由は、早期に患者の問題点の確認が出来ていない事や退院支援カンファレンスに参加する意識の低下がある。今回、現状の改善のためスクリーニングシートの導入を行った。本シートをツールとして導入するにあたり病棟独自にシートを修正し、課題を明確に関われるようにしたいと考えた。

### 【方法】

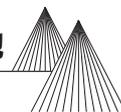
1.2018年12月～2019年2月のカンファレンス実施件数と参加した看護師数を抽出。2.2019年3月～5月にスクリーニングシートを導入後のカンファレンス実施件数と参加数を抽出。3.対象者は緊急入院対象と退院支援看護師を含む35名とした。

### 【結果】

本シート使用前後のカンファレンス参加人数の比較では、2018年12月～2019年2月は66件に対して参加人数の平均は6.4名であった。2019年3月～5月は72件に対して参加人数の平均は7.0名で参加人数は増えた。

### 【考察】

患者の問題の確認は本シートの活用で確認が出来るようになった。煩雑な業務の中で緊急入院の対応に時間が確保できず本シートのチェックが行えない状況であった。記載漏れの確認と日々の声かけを行ったが160件中52件のみの32.5%の活用であった。また、本シートの活用以降のカンファレンス参加が増加しているが、本シートで確認された問題を看護計画へ移行し、患者の問題を共通認識することが今後の課題となる。



## 皮膚損傷予防 ～患者の四肢を守るには～

○坂下 和美 (介護福祉士・ヘルパー・看護補助者)、吉村 洋子 (看護師)

特定医療法人社団 勝木会 やわたメディカルセンター

### 【目的】

A病棟の褥瘡委員会では、4年前より、皮膚科医師を中心に、皮膚損傷の予防として、レッグウォーマーやアームカバーの着用を推進してきた。

しかし、次第に職員の予防意識が希薄となり、皮膚損傷の報告が続いた。

A病棟は、重度の患者が多く、移乗・移動・入浴・更衣時などに皮膚損傷の危険性があり、主に四肢に発生しやすい現状である。

そこで、安全管理推進分科会で皮膚損傷予防班を設立し対策に取り組むこととした。

### 【期間】

2018年7月から2019年6月

### 【方法】

- ・安全管理推進分科会で皮膚損傷予防班を設立する。
- ・着用対象者や運用方法を定める。
- ・ポスターや発生件数を掲示し職員の意識向上を図る。

### 【結果】

- ・看護バスに取り入れたことで、入院時から予防が行えるようになりました。
- ・患者や家族にも着用性を理解してもらい、予防効果がありました。
- ・発生時には、すぐに報告があり素早い処置や対策がチームで行えるようになり、朝の申し送り時にも報告を行い全職員が情報共有し反省や振り返りができるようになりました。
- ・移乗や移動時の皮膚損傷はなくなりましたが、入浴や更衣時の発生はなくなりました。

### 【考察】

皮膚損傷予防班を設立し、大きな皮膚損傷もなくなったことから職員の意識向上に繋がったと考えられる。



# 日本 リハビリテーション 病院・施設協会誌



2020年  
特別号  
No.175

## リハビリテーション・ケア 合同研究大会 金沢 2019

### 響生

チームで奏でる保健・医療・福祉のハーモニー

開催日 2019年11月21日(木)～22日(金)

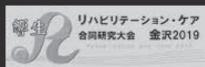
開催地 石川県金沢市 石川県立音楽堂/ホテル金沢  
もてなしドーム地下イベント広場/TKP金沢新幹線口会議室



大会長 | 勝木 保夫 (特定医療法人社団勝木会 理事長)  
副大会長 | 影近 謙治 (金沢医科大学 リハビリテーション 医学科 教授)  
勝木 達夫 (やわたメディカルセンター 院長)  
西村 一志 (やわたメディカルセンター 副院長)  
実行委員長 | 池永 康規 (やわたメディカルセンター リハビリテーション科 科長)

主催 | 一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会  
一般社団法人 回復期リハビリテーション病棟協会  
一般社団法人 全国デイ・ケア協会  
一般社団法人 日本訪問リハビリテーション協会  
全国地域リハビリテーション研究会  
全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会

写真提供：金沢市



大会事務局/特定医療法人社団勝木会 やわたメディカルセンター  
〒923-8551 石川県小松市八幡イ12番地7 TEL:0761-47-1212 FAX:0761-47-1941  
rehabcare2019@katsuki-g.com  
運営事務局/株式会社 オトムラ  
〒920-0342 金沢市秋田西4丁目67番地 TEL:076-268-3737 FAX:076-268-0212

# C O N T E N T S

日本リハビリテーション病院・施設協会誌 ■ 2020. 特別号 No.175

<b>巻頭言</b> リハビリテーション・ケア合同研究大会 金沢 2019 を終えて 勝木保夫 …………… 3
<b>大会長講演</b> 地域で取り組む健康社会—地域と保健・医療・福祉の響生 勝木保夫 …………… 6
<b>講演</b> リハビリテーションマインド 石川 誠 …………… 9
<b>講演</b> 災害後の生活不活発対策と早期自立・復興支援 栗原正紀 …………… 15
<b>講演</b> 地域包括ケアに資する地域リハビリテーション—病院・施設の地域づくり活動を中心に 浜村明德 …… 20
<b>主催団体シンポジウム</b> 動き出そう！明日からできる地域リハビリテーションの実践—地域リハ塾の取り組みから 佐藤英雄, 他 …………… 25
<b>シンポジウム</b> 共生社会の実現に向けた私たちのチャレンジ 雄谷良成, 他 …………… 35
<b>シンポジウム</b> 地域の人々と響きあう—共生社会のために医療機関ができること 石川賀代, 他 …………… 42
<b>公開講座</b> いきいき元気な高齢社会—5つの予防に自らが役立つ 大田仁史 …………… 50
<b>お知らせ</b> 事務局からのお知らせ …………… 55
<b>編集後記</b> 大野重雄 …………… 56

# 巻 頭 言

## リハビリテーション・ケア 合同研究大会 金沢2019を終えて

勝木保夫

特定医療法人社団勝木会やわたメディカルセンター 理事長／本大会大会長

### はじめに

リハビリテーション・ケア合同研究大会 金沢（以下、今大会）は、2019年11月21～22日の2日間、石川県金沢市にて開催させていただきました。特定医療法人社団勝木会やわたメディカルセンター（以下、当院）では、2013年3月の「全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会 第21回研究大会 in 金沢」以来、6年ぶりに全国学会を主管させていただきました。大会主管が決定した3年前より、研究大会のテーマを決める作業から始め、示したい方向性や会場運営などについて、実行委員全員で話し合いを重ねてきました。

### 大会に込めた思い

大会テーマは「響生」としました。障がいの有無にかかわらず、すべての人が地域社会の中で、その人らしく共に生きていくこと（共生）は重要です。さらに、少子高齢化時代のあり方として、地域の介護や支援が必要な方々と、医療・介護・福祉に携わるスタッフが、互いの理解と協働のもとにその生活や人となりに関心をもち、生活支援や生活習慣改善を持続して行えるためには、心と心を響かせ、これからの社会を生き抜く響生社会の構築が望まれると考えました。心が響き合うことが、持続可能なケアを生むと信じます。会場が石川県立音楽堂ですので、音の響きと心の響きを掛けて「響き合う」ことを一つのメッセージにして、共生からさらに地域社会で必要となることは、「響生」であるとお伝えしようと思いました。

準備をするにあたり、質の高い内容で参加者に満足いただけることを大前提に、金沢らしさを味わっていただける大会にしようと計画しました。

副大会長には、当院の勝木達夫院長、長年日本



開会式直前のオルガン演奏

テーマである「響生」を象徴するかのようすばらしいオルガンの響きで研究大会が始まりました。

リハビリテーション病院・施設協会の理事を務めてこられた当院の西村一志副院長、同じく副大会長に金沢医科大学リハビリテーション科の影近謙治教授（現：富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 院長）にお願ひし、実行委員長に当院リハビリテーション科の池永康規科長に就いていただいたうえ、石川県内で回復期リハビリテーション病棟を有する6病院（石川県済生会金沢病院、金沢赤十字病院、金沢西病院、金沢脳神経外科病院、木島病院、芳珠記念病院）に大会準備病院として参画していただき、大会組織を固めました。

### プログラム構成

齊藤正身会長をはじめ、全国のリハ・ケアにかかわる多くの先生方のご支援、ご協力により、「響生」の主旨にご賛同いただいた、ご高名な先生方や、地域で革新的なチャレンジを続ける想いの熱い方々を多数お招きすることが叶い、公開講座2、

講演12, 当院企画シンポジウム5, 主催団体シンポジウム6, ランチョンセミナー6を開催することができました。そして全国から785の一般演題の発表があり, 参加者は2,260名を数えました。

「共生社会の実現に向けた私たちのチャレンジ」をテーマとした当院企画のシンポジウムでは雄谷良成氏(社会福祉法人佛子園 理事長), 惣万佳代子氏(特定非営利活動法人デイサービスこのゆびと一まれ 理事長), 松井一人氏(株式会社ほっとリハビリシステムズ 代表取締役)の3氏にご登壇いただきました。「高齢者も, 若者も, 子どもも, 障害のある方もない方も, ごちゃまぜで楽しく暮らせる町」「老いても病めても, 安心して暮らせる街」など障がいの有無, 年齢に関係なくすべての人がお互いを尊重して生活できていることが紹介され, 「響生」が具現されている実例をじかに拝聴することができた大変有意義なシンポジウムとなりました。この他の講演, シンポジウムも内容が濃く意義あるものばかりで, 全部をご紹介できないのが残念ですが, 一般演題をも含めすべての会場が活気に満ちていたことが印象的でした。

公開講座は, 大田仁史先生(茨城県立健康プラザ 管理者)による「いきいき元気な高齢社会」と, 大山隆久氏(日本理化学工業株式会社 代表取締役社長)による「働く幸せ実現のために『社員から教わったこと』」との2題としました。

この2題は, これからの響生社会に欠かすことのできない, 高齢者と障がい者への自立支援のあり方, 自助共助のあり方の大きな教えになると考え, 一般市民に加え, 県内の各市町の介護関係行政窓口, ハローワーク, 高齢者総合相談センター, 図書館などにもポスターを持参したり, メールでチラシを配信したりして, 周知に努めました。

大田先生は, いつものように明るく楽しく生きていく高齢者の実例を語っていただき, ネガティブなイメージが付きまとう「老い」と「死」を真正面から捉え, その中でいきいきと生きていく日常での心持ちや習慣としやすい健康への取り組みについて, 元気よく語り掛けていただきました。参加者からは, 大変勇気づけられたとの感想が多数寄せられました。

働く社員の70%が知的障がい者である日本理化学工業株式会社では, 社員の長所を生かし, お互いが助け合い, 補い合い働くこと, 常に職場環境を配慮して働きやすくすることなど, 幸せな働き方についてご講演があり多くの反響がありました。仕事をすることが最大の社会貢献であり, それが

できればさまざまな社会的支援を堂々と受けられ, 自立生活が叶うことのすばらしさと意義をご教示くださいました。障がい者雇用は, 難しい側面がありますが, 響生社会のために積極的な取り組みとして, 広まっていくことを期待しています。

ご講演いただいた先生方, 発表して下さった皆様に運営スタッフ一同心より感謝申し上げます。

ところで, 学会などのイベントにはハプニングがつきものですが, 今回はシンポジストの一人が大会前日にインフルエンザに罹患して参加ができずと連絡が入りました。シンポジウムを取りやめるかどうかと焦りましたが, 急遽インターネット動画配信ソフト「Zoom」を使用したWEB講演にすることで対応することとしました。突然の想定外の対応で運営スタッフは前日夜遅くまで準備, リハーサルを行い不安の幕開けとなったのですが, 実際のシンポジウムではまるで最初からインターネット配信にすることが予定されていたかのようにスムーズに完結できました。学会は参加することに意義がありますが, 一方共生社会では必ずしも会場への参加が簡単ではない方々の参加も考えていくべきであり, 結果的には, 今回のWEB講演を交えたシンポジウムがうまくいったことは, 今後の学会のあり方に一石を投じる貴重な実例にできたと思います。

## 大会運営上, 力を入れたこと

参加者に多くの会場に参加し聴講していただくためには, 身軽なほうがより会場移動がしやすいと考え, 分厚い抄録集はやめよう決めました。抄録集を作成しないことに関しては, 紙媒体でないと広告協賛が得られにくいなどの懸念を指摘され, 運営委員の中でも賛否両論あり迷いました。しかし, 重い抄録集がなくて良かったと喜んでくださった参加者も多数おられたほか, WEB抄録集の場合, 大会ホームページ開設から大会終了後まで広告がずっと掲載されているため, 紙媒体よりも何度も目に留まる機会があることがわかり, 広告協賛企業様の中には高く評価して下さった会社もありました。

企業展示ブースにも楽しんで立ち寄っていただくため, 各学会で行っているスタンプラリーを今大会でも実施しました。およそ4割の方はなんらかの記念品をゲットできたと思いますが, 皆様はいかがだったでしょうか。記念品をゲットできなかった方にもセカンドチャンスとして, 抽選による温泉旅館宿泊券を2名分ご用意しました。大会

後の抽選にて、和倉温泉加賀屋の宿泊券は埼玉県の方、加賀温泉百万石の宿泊券は福岡県の方が当選されました。おめでとうございます。

大会初日の夜は、恒例の会員懇親会を行いました。食の都金沢での開催ですので、能登牛ステーキ、金沢おでん、金沢カレー、治部煮、寿司、加賀棒茶など地元のお料理をがっつりご用意しました。特に、大会日程は冬の味覚の王様ズワイガニ（石川県産の中でも高級品は「加能ガニ」というブランドになります）が解禁になっている期間を意識して決めたため、是が非でも大勢の方に「加能ガニ」を召し上がっていただくことと計画しました。今年は暖冬のため、ことのほか「加能ガニ」の水揚げが少ないうえ、連続台風などの影響で海が荒れて直前数日は漁に出られない状態であり、大変気を揉みましたが、会場のホテル金沢をはじめ多くの地元のご支援で、「加能ガニ」を十分ご用意ができたと思います。

さらに県外では手に入りにくい地酒・地ビール・地ワインの銘柄を大会長が自らの好みで独断厳選して集め、存分にご用意しました。皆様和やかにご歓談いただき、加能ガニや用意したお料理は全部すっかり皆様のお腹に収めていただいたほか、地ビールや能登ワインのヌーボーなどはあつという間に飲み干されてしまいました。

大会翌日には、初めての試みであるポストカンファランス「セラピストマネージャーミーティング」を開催しました。これにも、14演題47名のご参加をいただき、熱い意見交換がなされ、密度の濃い意見交換ができました。支えてくださいました関係者の皆様、本当にありがとうございました。

## おわりに

2日間の大会を無事終えることができましたが、大会直前の大型台風で北陸新幹線の車両基地が水浸しになり、運転がストップしてびっくりしたこと、開会式で主催団体会長のご紹介順番を間違えてアナウンスしたこと、ご講演の最中にスライド映写機がオーバーヒートして画像がダウンしたこと、座長の先生に急に時間配分の変更をお願いし



研究大会終了直後の音楽堂大ホールステージでの集合写真

大変多くの皆様の協力のおかげで研究大会を成功裏に終了させることができました。ありがとうございました。

でご迷惑をおかけしたことなど、舞台裏ではアクシデントや失敗など反省すべきところが多々ありました。しかし、運営スタッフ、協力病院の皆様、協賛いただいた企業の皆様、その他大会の運営に協力していただいたすべての皆様のおかげで責務をまっとうすることができました。

大会後には、「大会運営にかかわった皆さんの英知が結実した、記憶に残る素晴らしい大会であったと思います」とのお言葉もいただき、大変実りの多い研究大会となったと感謝しております。

今大会で経験した大会準備の課題をもとに、次回大会長の宮井一郎先生（社会医療法人大道会森之宮病院 院長代理）のご提案もあって、大会期間中に主催団体会長会議を開催していただき、主催団体と主管施設との役割分担、発表者資格の確認、大会準備のための機関意思表示期日の決定などを行っていただきました。今後の大会運営に役立つことができると期待しております。

大会準備に関して、日本リハビリテーション病院・施設協会の事務局の皆様には大変親身になって支えていただきました。この誌面をお借りして心からお礼申し上げます。次回大会は、大阪です。また、皆さん大阪でお会いしましょう。

（※新型コロナウイルス拡大の影響で大阪大会は中止になりました：編集室註）

## 地域で取り組む健康社会 —地域と保健・医療・福祉の響生

講師

勝木保夫

特定医療法人社団勝木会 やわたメディカルセンター 理事長

### 包括的な地域健康社会の体制づくりの 必要性

長寿社会に生きる私たち日本人は、2016年には平均寿命が男女ともついに80歳を越え、世界2位の長寿国になりました。また、65歳に達した方が、特定の年齢まで生存する確率の試算が2018年の第5回社会保障審議会年金部会資料で出されましたが、2015年に65歳を迎えた方は、男性35%、女性60%が90歳まで生存し、1990年生まれになると男性44%、女性69%の方が90歳まで生存すると試算されました。今後、少子高齢化がますます進み、かつてのように大勢で一人の高齢者を支えていた時代から将来は一人か二人で高齢者一人を支えなければならない時代になっていきます。

このような時代背景の中、国家の一般歳出における項目別割合では、年金や医療と介護の社会保障費が著しく増加していく一方、文教および科学振興費や公共事業費などが抑制され続けており、現状の社会が将来も持続可能かどうかの懸念が広がってきています。これに対し、国は地域医療構想を策定して対策を講じ始めています。

この地域医療構想の目標は、①医療提供体制の適正化、②切れ目のない円滑な地域連携、にあるのだと考えます。医療体制の適正化に向けて、まずは病床（入院機能）の再編から取り組まれており、在宅サービスを拡充して地域包括ケアシステムを構築し医療・介護・福祉の連携を画策しています。

つまり、地域包括ケアシステムは、地域社会における総合的な医療・介護・福祉のチームを作って、地域一体となった健康社会を作ることが目的になります。その目的達成には、住まいを軸とす



勝木保夫 大会長

る生活者の視点があること、それぞれの地域に合った形であることが必要です。また、持続可能な社会保障制度を維持するためには、地域包括ケアシステムを構築して社会保障費の増加を減らすことが重要です。

社会保障費の中でも大きな比重を占める医療費は、患者数（人数）×重症度（単価）×入院・通院日数（数量）で決まります。したがって、患者数を削減すること、医療の効率化を図ること、リハと在宅支援の整備を図ることにより、医療費の削減が期待できるでしょう。これらを満たすためには、包括的な地域健康社会の体制をつくるほかありません。そのためには、①患者削減のための健康増進や介護予防の取り組みを進めること、②医療の効率化のため、医療機関・介護施設の機能分担と再編を進めること、③リハと在宅支援の強化に向けて、自立支援や自助互助の再建を進めることの3つの課題が考えられます。

## 健康増進や介護予防の取り組みの推進

現在、健康寿命と平均寿命の差が、男性が8年余り、女性は12年余りあり、なかなかその差が縮まりません。その背景として、健康習慣に関する実態調査で、国民全体では約半数が特別な取り組みをしていないと報告がされています。一方、1日1時間以上歩行する習慣があれば、平均余命が伸び、生涯医療費も削減できるという報告があるほか、歩行により糖尿病発症リスクが減ることや高血圧が改善すること、歩行距離にともなって認知能力低下が防止できることが明らかとなっています。さらに近年高齢者では運動習慣のある割合が増加傾向で、高齢者の体力スコアも向上し続けてきています。運動には明らかな健康増進効果が期待できるため、高齢者などに運動習慣の機運が高まってきているという良い傾向を、さらに全世界へ拡大していくことが求められています。

以前はメタボリックシンドローム（以下、メタボ）が生命予後にかかわるとして盛んに啓発されていましたが、近年フレイルのほうがメタボよりも生活自立度が低下しやすいことが報告されています。また、要介護となる原因は男女ともに認知症、フレイル、転倒・骨折が大きな割合を占めていますが、これらは運動習慣により改善が期待できることが証明されています。さらに、社会参加がフレイル予防に大きな効果があることも、明らかになってきました。

特定医療法人社団勝木会（以下、当法人）では芦城クリニックにおける基準緩和型通所サービス「はつらつ倶楽部」による介護予防サービスを実施し、一定の成果を上げています。基本コンセプトはその人の生活を本人が主体的に選び行動できる「自律活動を支援する」ことで、介護予防から健康増進までを担うものです。スタッフはあくまで指導者ではなく支援者としてかわり、個人ごとに包括的なアセスメントを行って運動講座と教養講座の2本立ての基本プログラムを作成します。このプログラムを提供した結果、半年後の介護度が、維持または改善であった利用者が98%と大変優れた成果が得られています。特に、運動器能力や閉じこもり改善で有意な成果でした。

一定の成果が上がった利用者は本サービスから卒業しますが、その後も自主的に健康増進施設に通うとか、利用者同士でグラウンドゴルフやカラオケなどのサークル活動を開始するなど、「はつらつ倶楽部」参加を機会に自主的な社会参加が増え、閉じこもりや孤食の改善につながっています。さらにこれらが発展し、利用者がピアサポートの会

を開催し、現在入院中の患者さんと交流して闘病生活を共有し退院支援に結びついたり、閉じこもりがちな失語症の方のためのカフェを開催して社会的フレイル予防に役立ったりして、介護予防の枠を超えた、これまでにない新たなコミュニティづくりが始まっています。このように、これからの健康社会づくりには、まずは健康増進や介護予防で患者の削減や重症度の低減を図るため、行政・専門職・地域住民一体となって健康への啓発を行い、共にお互いの心が響きあって生きる新しいコミュニティづくり（響生）が重要だと思います。

## 医療効率化のための医療機関・介護施設の機能分担と再編

急性期医療提供体制はドクターヘリの導入や医療技術の進歩があり、急性期治療や救命率が向上しています。しかし、疾病により大幅に生活機能が低下してしまうため、それを回復期リハビリ棟で向上させたいと自宅に復帰することが必要です。回復期病棟の数的整備はかなり進み、急性期病棟からの転入から生活期への復帰に一定の効果と評価が得られてきました。

しかし、回復期を経て生活期になると脳血管障害では再発率が20%と高く、大腿骨頸部骨折も骨折既往者が26%であるほか、再骨折率も5%以上あります。これらの回復期リハを必要とする疾患のほか、フレイルの原因として多い変形性膝関節症や心不全、誤嚥性肺炎も、その基礎には肥満、糖尿病などの生活習慣病や喫煙、口腔内衛生不良など好ましくない生活習慣を持っている場合が多く、回復期リハから生活期へ移行した後の再発リスクが高い場合が多くみられます。

このため、回復期ではリハの提供によるADL向上と家庭復帰を図るだけではなく、再発を予防するために生活習慣に行動変容をもたらす介入が必要です。行動変容をもたらすには、人からの関心の有無がその成否に大事な役割になっているとの実験結果があります。個人が自立できるよう努力すること、住み慣れたところで暮らし続けられる環境整備をすること、そして、行動変容をもたらすことが大切で、これらには人の関心が必要で、人と人とのつながりを地域ぐるみで作ることが求められます。

当法人ではグループ企業である公益財団法人北陸体力科学研究所と連携し、循環器、脳血管障害や運動器疾患の急性期・回復期治療の後、生活期の運動療法の連携を行い、再発予防に努めています。ここでは、退院後も関心をもって行動変容を

見守り、地域の方々がスポーツを通してコミュニティを作り、有疾病者であっても楽しんで前向きに生きるウェルネスの考えを普及・実践しています。

## 自立支援や自助互助の再建の推進

現在、在宅支援の問題として、在宅生活者への支援が行き届いていない現状があります。緊急入院の患者の持参薬をみると、驚くほど大量の残薬があるなど在宅での服薬管理が十分に行えていないケースが散見され、かかりつけ薬局の意義が問われています。また、在宅支援に必要な情報が多岐にわたるうえ、膨大なため、特に急変時などに介護と医療との連携がうまくいっていないなどの問題も出てきています。これらを解消するには、日ごろから互いにFace to Faceでつながっていくことが肝要でしょう。患者・要介護者と医療・介護・福祉のスタッフが、互いに共鳴し共感し、心を響かせ合って住みやすい地域社会を作っていくことが肝心だと思います。

今後の日本は、老年人口が増加して生産年齢人口は減少します。現状で高卒者の10%以上が医療・介護・福祉系の道に進学・就職していますが、介護人材のさらなる必要数の増加が見込まれる中、人員を満たそうとすればこの割合をさらに高める必要が出ます。しかし、他の産業もこれ以上就労人口が減るわけにもいかないため、将来は医療・介護の深刻な人手不足時代がやってくることにならざるを得ません。

この対策には、ICTの利用はもちろん、地域でのチームアプローチを駆使し、生産性と質を上げていくこと、女性や障がい者、高齢者の就労促進が不可欠です。障がい者、高齢者は、経験や技能豊かな存在であり重要な社会の一員です。これらの方々が仕事を行うことは、仕事が最大の社会貢献であると感じ尊厳をもって社会的サービスを受けられる環境になるほか、自立生活が継続できて社会的孤立を防ぐことにもなります。

やわたメディカルセンター（以下、当院）でも、障がい者が活躍できるよう取り組みを始めています。病院食は治療の根幹であるとの理念から、当院では栄養課業務は委託や外注はせず、すべて自社職員で運用しています。業務内容を整理し就労課題を明らかにし、一般的な障がいの特性を知ることや自閉症などの特徴と対応を研修したうえで、障がい者総合相談センターのジョブコーチ制度を

導入した知的障害雇用を進めています。現場でも、業務内容を段階的に付加したり、自動車免許取得や障がい者施設から自立生活へ移行する際に臨時休暇を付与したりなどの支援を行い、就労安定の調整を行ってきました。結果、職場としては、一人ひとりの障がいの特性を知って業務の適性を見極めてマニュアルにすること、褒めて育てる文化が醸成できたこと、特異なルールをつくるかえって業務が滞ることがあることを学んだほか、部署全体の業務効率が向上し、石川県優秀勤労障がい者賞を受賞するなど評価もいただけました。

今後、高齢人口はさらに増え、独居老人が増加し、自動車の利用者や保有者も高齢になれば減少します。加えて、北陸三県では特に他の地域よりも共働き率がおおよそ70%と高く、市内中心部もシャッター通りと化し、患者さんが病院・施設・買い物などに来られない状態が出ています。このような中で、安心安全で持続可能な生活を継続するには、歪んだ生活習慣の改善を図るために、患者も家族も一体となって対応し、地域の絆を結集して行動変容をもたらす生活習慣の是正を図っていくことが求められます。この実現には、地域の中でお互いのところが響き合って共に生きること、それを「響生」と呼んで、健康づくり同盟を作り上げていくことが、これからの地域健康社会を築く大きなカギとなるでしょう。

## 地域健康社会づくりに役立つ講演やシンポジウムを用意

本研究大会では、これらに対して参加者のほか地域社会全体で考え実行できるように期待して、多数の12題の教育講演と5つのシンポジウムに加え、2題の公開講座を準備しました。

茨城県立健康プラザ管理者の大田仁史先生からは「いきいき元気な高齢社会」と題して、高齢者の自立生活への取り組みについてご指導いただきます。また、知的障がい者が社員の70%を占める日本理化学工業株式会社の大山隆久社長からは「働く幸せ実現のために社員から教わったこと」と題して、多くの知的障がい者が高い技術を要する粉の出ないチョークを手作業で生産し、国内チョークシェアナンバーワンの会社を支え、生き生きと活躍する取り組みについてお話いただきます。

本研究大会が、ご参加の皆様への明日からの地域健康社会づくりに役立つホットな意見交換の場になることを祈念しております。

# リハビリテーション・ケア 合同研究大会 金沢 2019

## 響生

チームで奏でる保健・医療・福祉のハーモニー

開催日 2019年11月21日(木)～22日(金)

演題登録期間 2019年4月10日～2019年6月30日

大会長 | 勝木 保夫 (特定医療法人社団勝木会 理事長)

副大会長 | 影近 謙治 (富山県リハビリテーション病院こども支援センター 病院長)

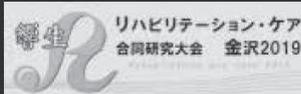
勝木 達夫 (やわたメディカルセンター 院長)

西村 一志 (やわたメディカルセンター 副院長)

実行委員長 | 池永 康規 (やわたメディカルセンター リハビリテーション科 科長)

主催 | 一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会  
一般社団法人 回復期リハビリテーション病棟協会  
一般社団法人 全国デイ・ケア協会  
一般社団法人 日本訪問リハビリテーション協会  
全国地域リハビリテーション研究会  
全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会

写真提供：金沢市



大会事務局／特定医療法人社団勝木会 やわたメディカルセンター  
〒923-8551 石川県小松市八幡イ12番地7 TEL:0761-47-1212 FAX:0761-47-1941  
rehacare2019@katsuki-g.com

運営事務局／株式会社 オトムラ  
〒920-0342 金沢市欽田西4丁目67番地 TEL:076-268-3737 FAX:076-268-0212



▲HPはこちら

# リハビリテーション・ケア 合同研究大会 金沢 2019

開催日 2019年 11月21日(木)・22日(金)

開催地・会場 石川県金沢市

石川県立音楽堂/ホテル金沢  
もてなしドーム地下イベント広場/TKP金沢新幹線口会議室

演題登録期間 2019年 4月10日(木)～6月30日(日)

事前参加登録期間 2019年 4月10日(木)～10月21日(日)

メインテーマ **響生** チームで奏でる保健・医療・福祉のハーモニー

11月21日(木)

石川県立音楽堂 コンサートホール	石川県立音楽堂 邦楽ホール	ホテル金沢 ダイヤモンド
開場 (9:00～)		
パイプオルガン演奏(9:15～)		
開会式(9:30～)		
開場(9:45～)		
<b>大会長講演</b> 「響生」 講師：勝木 保夫 特定医療法人社団藤木会 理事長	<b>講演①(社会づくり)</b> 「高次脳機能障害および 認知症患者の自動車運転」 講師：武原 格 東京都リハビリテーション病院 リハビリテーション部長	<b>シンポジウム 1</b> 「共生社会の実現に向けた 私たちのチャレンジ」 講師：雄谷 良成 社会福祉法人佛子園 理事長 講師：惣万佳代子 特定非営利活動法人デザイナーズ このゆびとーまれ 理事長 講師：松井 一人 株式会社ほっとリハビリシステムズ 代表取締役
<b>講演②(リハ・ケア)</b> 「リハビリテーションマインド」 講師：石川 誠 医療法人社団輝生会 会長	<b>講演③(医療)</b> 「地域の食を支える」 講師：中村 悦子 社会福祉法人弘和会 訪問看護ステーションみなぎ 管理者	
		<b>シンポジウム 2</b> 「地域の人々と響きあう ～共生社会のために医療機関ができること～」 講師：石川 賀代 社会医療法人石川記念会 理事長 石川ヘルスケアグループ総院長 講師：室谷ゆかり 医療法人社団アルペン会 アルペンリハビリテーション病院 理事長 講師：岡本 隆嗣 医療法人社団朋和会 西広島リハビリテーション病院 理事長
<b>主催団体 シンポジウム 1</b> 回復期リハ棟協会	<b>主催団体 シンポジウム 2</b> 全国デイケア協会	<b>シンポジウム 3</b> 「これからの診療・介護報酬改定に 向けたリハ・ケアのあり方」 講師：園田 茂 藤田医科大学 七葉記念病院 病院長 講師：仲井 培雄 医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院 理事長 講師：池端 幸彦 医療法人池慶会 池端病院 理事長
<b>講演④(リハ・ケア)</b> 「共生社会に向けた リハ・ケアの課題と展望」 講師：斉藤 正身 医療法人真正会 霞ヶ関南病院 理事長	<b>主催団体 シンポジウム 3</b> 日本訪問リハ協会	
<b>講演⑤(医療)</b> 「運動器疾患の治療と予防」 講師：土屋 弘行 金沢大学附属病院 整形外科 主任教授	<b>主催団体 シンポジウム 4</b> 全国地域リハ研究会	
<b>講演⑥(社会づくり)</b> 「災害時の生活不活発対策と 早期自立・復興支援」 講師：栗原 正紀 一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院 理事長・院長		
<b>講演⑦(社会づくり)</b> 「共に生きる」 講師：青木 隆明 高野山沙門 岐阜大学大学院 医学系研究科 骨関節再建外科学先端医療講座 リハビリテーション科 特任准教授	<b>講演⑧(医療)</b> 「相手の心に響く言葉選び」 講師：北岡 和代 公立小松大学 保健医療学部 学部長	
		<b>18:30 懇親会</b>

11月22日(金)

石川県立音楽堂 コンサートホール	石川県立音楽堂 邦楽ホール
開場 (8:45～)	
<b>主催団体 シンポジウム 5</b> 日本リハ病院・施設協会	<b>講演⑨(リハ・ケア)</b> 「地域リハビリテーション」 講師：浜村 明徳 医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院 名誉院長
<b>主催団体 シンポジウム 6</b> 全国リハ支援事業連絡協議会	<b>シンポジウム 4</b> 「共生社会における 医療経営のあり方」 講師：高橋 誠 医療法人社団輝生会 サポート部在宅拠点統括部長 講師：磯本 豊志 一般社団法人是真会 法人本部長 講師：小野寺 薫 株式会社ファーストプレス 代表取締役
<b>ランチョンセミナー①～⑥</b> ※一部ホテル金沢にて開催	
<b>講演⑩(リハ・ケア)</b> 「医療制度改定とリハ・ケア」 講師：厚生労働省	<b>講演⑪(社会づくり)</b> 「共生社会に向けたデザインの力」 講師：荒井 利春 荒井利春実験工房 代表 金沢美術工芸大学 名誉教授
<b>演奏</b> ：石川県立ろう学校 風神太鼓	<b>シンポジウム 5</b> 「共生社会における 療法士のあり方」 講師：斉藤 秀之 日本理学療法士協会 副会長 講師：西方 浩一 文京学院大学 保健医療技術学部 作業療法学科 准教授 講師：内山 量史 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 言語療法部長
<b>公開講座①</b> 「いきいき元氣な高齢社会」 講師：大田 仁史 茨城県立健康プラザ 管理者	<b>講演⑫(医療)</b> 「歩行のバイオメカニクスと 装具の働き」 講師：山本 澄子 国際医療福祉大学大学院 教授
<b>公開講座②</b> 「働く幸せ実現のために 「社員から教わったこと」」 講師：大山 隆久 日本理化学工業株式会社 取締役社長	
<b>閉会式</b>	
<b>18:00</b>	

※タイトル・講師・時間などは変更になることがあります。ご了承下さい。

## 金沢へのアクセス



鉄道

東京 ▶ 東京駅 — (北陸新幹線) — 金沢駅  
大阪 ▶ 大阪駅 — (特急サンダーバード) — 金沢駅  
名古屋 ▶ 名古屋駅 — (特急しらさぎ) — 金沢駅



航空機

東京 ▶ 羽田空港 — 小松空港  
・小松空港から金沢駅は特急バスにて約40分  
・小松空港発着の他都市/札幌・仙台・福岡・那覇



自家用車

東京 ▶ 関越自動車道 — 上信越自動車道 — 北陸自動車道 — (455km) — 金沢東I.C.  
大阪 ▶ 名神高速道路 — 北陸自動車道 — (282km) — 金沢西I.C.  
名古屋 ▶ 東名高速道路・名神高速道路 — 北陸自動車道 — (252km) — 金沢西I.C.  
・いずれのI.C.からも会場周辺まで車で約20分



## EVENT REPORT

### 「リハビリテーション・ケア合同研究大会金沢 2019」

リハビリテーションとケアに関わる全国 6 つの団体が一同に集まるリハビリテーション・ケア合同研究大会が 2019 年 11 月 21、22 日の 2 日間、石川県金沢市にて当院が主幹となり開催しました。当院では 2 年以上前から研究大会で示したい方向性、具現化したいビジョンなどについて運営スタッフ全員が時間をかけて熟考し話し合いを重ね、大会テーマを決める作業から開始しました。

～要支援介護者が増加した日本では障害のありなしにかかわらず、全ての人が地域社会の中でその人らしく生活していくことが重要となる。そのためには、すべての人が社会で共に生きる「共生」社会の構築が大きな力となる。障がいのある方だけでなく医療・介護・福祉のスタッフ、そして社会全体が心を響かせ互いの理解と協働のもとに良いチームとなって一つにまとまると上手く行くのではないか？すなわち「共生」からお互いの心の響きも大切にする「響生」を目指し、明日の共生社会を支える多くの成果が得られる大会にしたい。～

こんな思いにまとめられ大会テーマを「響生」と決めて準備を進め、全国津々浦々から「響生」の構築にチャレンジを続ける著名な講師を招聘することが出来ました。最終的に公開講座 2、講演 12、当院企画によるシンポジウム 5、主催団体によるシンポジウム 6、ランチョンセミナー 6 を開催することが出来ました。そして 785 の一般演題の発表があり参加者は 2000 名を超え、大変実りの多い研究大会となりました。

公開講座は日本理化学工業株式会社、代表取締役社長である大山隆久氏による「働く幸せ実現のために社員から教わったこと」と茨城県立健康プラザ管理者、大田仁史先生による「いきいき元気な高齢社会」のご講演をいただきました。働く社員の 7 割が知的障がい者である日本理化学工業株式会社。社員の長所を生かしお互いが助け合って補い合い働くこと、常に職場環境を配慮して働きやすくすること、など幸せな働き方についてご講演があり多くの反響がありました。大田仁史先生はネガティブなイメージが付きまとう「古い」と「死」を真正面から捉え、明るく楽しく生きていく高齢者の実例が語られ参加者から大変勇気づけられたとの感想が寄せられました。

「共生社会の実現に向けた私たちのチャレンジ」をテーマとしたシンポジウムでは社会福祉法人佛子園理事長雄谷良成氏、特定非営利活動法人デイサービスこのゆびと一まれ理事長惣万佳代子氏、株式会社ほっとリハビリシステムズ代表取締役松井一人氏の 3 氏に御登壇頂き「高齢者も、若者も、子どもも、障害のある方もない方も、ごちゃ混ぜで楽しく暮らせる町」「老いても病めても、安心して暮らせる街」など障がいの有無、年齢に関係なく全ての人がお互いを尊重して生活できていることを紹介していただき「響生」が具現化されている実例を直に拝聴することが出来た、大変有意義なシンポジウムとなりました。紙面の都合上すべて紹介出来ませんがその他の講演、シンポジウム

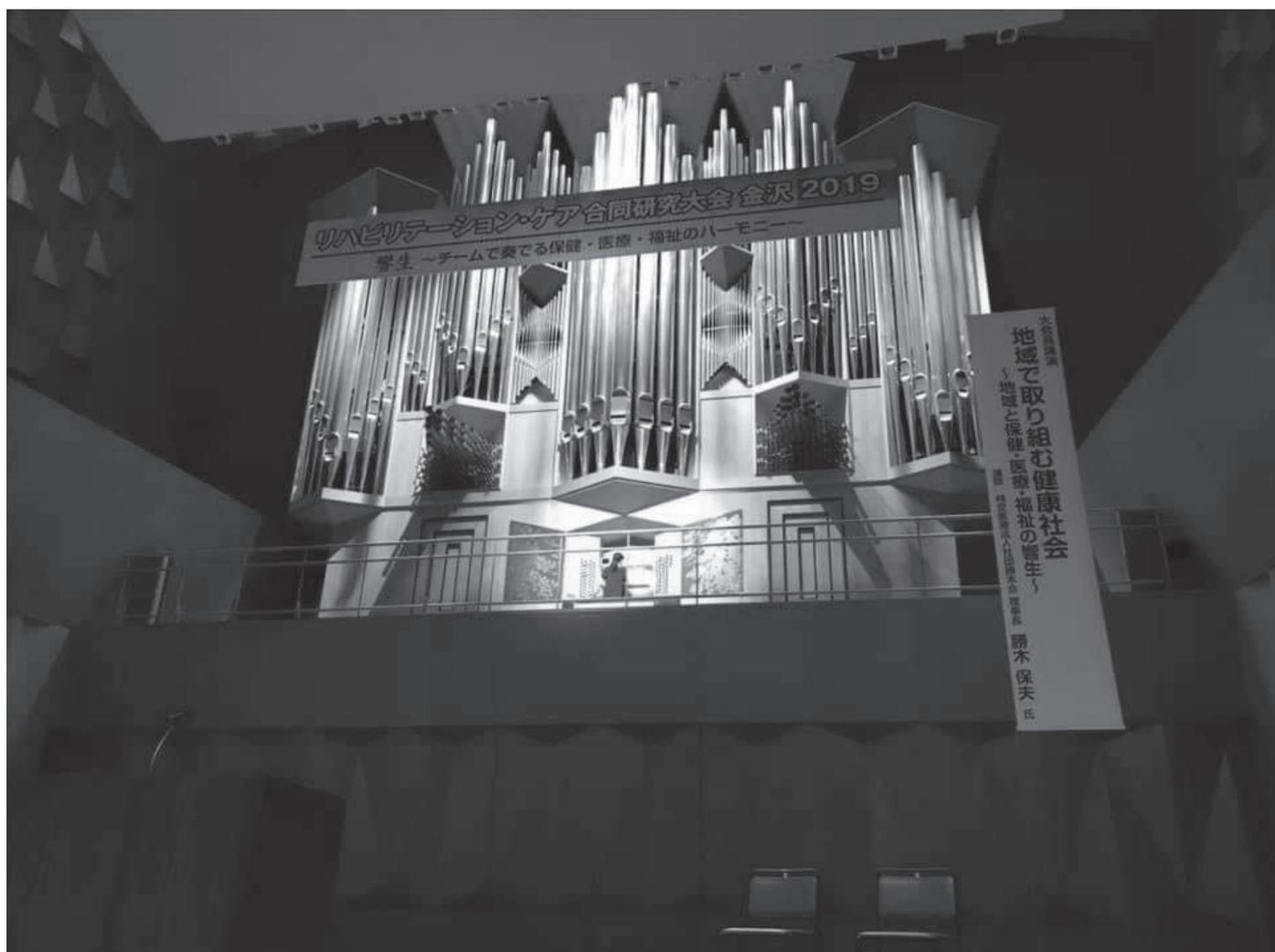
も内容が濃く意義あるものばかりで、一般演題含め全ての会場が活気に満ちていたことが印象的でした。発表して下さった皆様に運営スタッフ一同心より感謝申し上げます。

またシンポジウム3では、シンポジストの一人がインフルエンザに罹患し急遽 Zoomを使用したインターネット配信にすることが本番前日に決まりました。突然の方針決定に運営スタッフは前日夜遅くから準備、リハーサルを行いました。まるで最初からインターネット配信にすることが予定されていたかのようにスムーズであったとの感想があり、結果的に今後の学会のあり方に一石を投じる貴重な事例にすることが出来ました。

運営スタッフ、協賛頂いた企業の皆様、協力病院の皆様、その他大会の運営に協力していただいた全ての皆様のおかげで成功裏に終了することが出来ました。心より感謝申し上げます。有り難うございました。

写真 1

開会式直前のオルガン演奏。テーマである「響生」を象徴するかのような素晴らしいオルガンの響きで研究大会が始まりました。



## 写真 2

開会式の様子。大会長勝木保夫が「響生」について発信しました。石川県知事谷本正憲氏、金沢市長山野之義氏が来賓として出席。超高齢社会を迎える日本においてはリハビリテーションとケアの重要性がますます高まっていくことを強調されました。

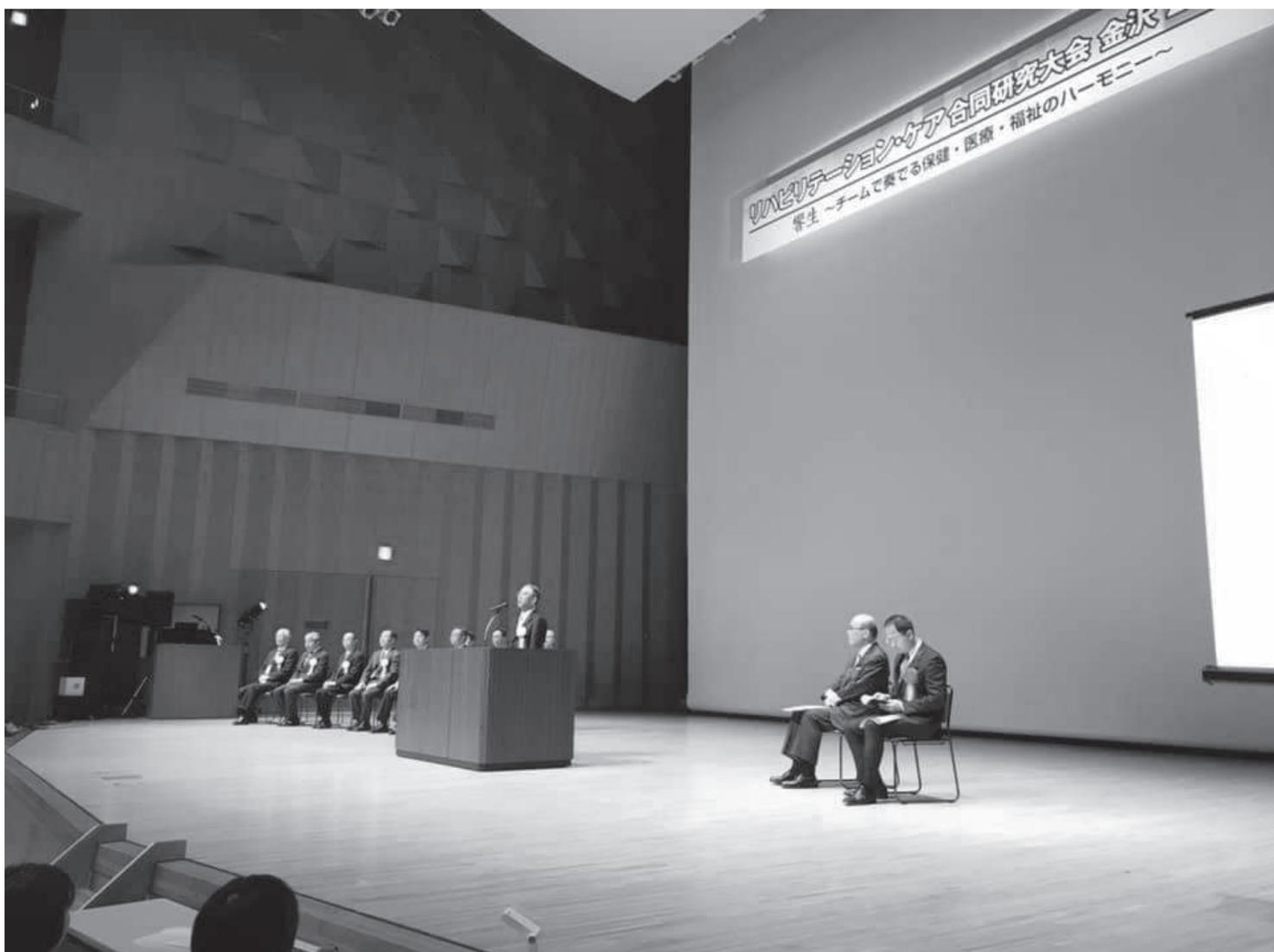


写真 3

講演 2 石川誠氏による「リハビリテーションマインド」の講演。1560 席ある大ホールの 3 階席まで聴講者が入る盛況でした。



写真 4

研究大会終了直後のスタッフ集合写真。大変多くの皆様の協力のおかげで研究大会を成功裏に終了させることが出来ました。有り難うございました。



# 勝木会



# 書籍・論文



書籍・論文

氏名	共同著者	タイトル	雑誌名	巻号	年月
Yukari Miyamoto	Kaoru Kyota , Keiko Tsukasaki (Kanazawa University)	Factors influencing practices among ward nurses that support ongoing independent community living after discharge: a cross-sectional study	Contemporary Nurse	59 1	2019年2月
田畑 悦子	中村立一、藤田健司、高橋祐樹、黒田一成、堂下雅雄	診療放射線技師が高位脛骨骨切り術を最大限にサポートするための手術介助マニュアルの作成	日本診療放射線技師会誌	66 797	2019年3月
山口 宏美	高木さおり、勝木達夫、岩佐和明、今井美里、池田拓史、澤田美紗緒、居軒功、琴野巧裕、喜田恵、坂下真紀子	糖尿病性腎症患者の外来心臓リハビリの効果—透析予防指導管理との関連から	心臓リハビリテーション(JJCR)	24 3-4	2019年3月
勝木 達夫		心臓リハビリテーションの対象、施設の運用、体制、スタッフ、費用対効果、採算性	循環器ジャーナル	67 2	2019年4月
池永 康規		摂食嚥下機能と障害合併症予防とリスク管理	リハビリナース 2019秋季増刊	82	2019年9月
池永 康規		・急性期リハビリテーションとの連携 ・組織間連携の円滑化、連携パスの作成と改善	回復期リハビリテーション病棟における看護実践看護の質を高めるEBPの実装		2019年10月
中村 美紀	勝木達夫	心不全患者に考慮すべきナトリウム含有医薬品についての調査	心臓リハビリテーション	25 1	2019年
宮本 由香里	京田薫、塚崎恵子(金沢大学)	病棟看護師と訪問看護師による退院患者の事例検討会が退院支援能力に及ぼす影響	日本プライマリ・ケア連合学会誌	43 1	2020年4月
橋本 恵		回復期リハビリテーション病棟における理学療法士・作業療法士の早出評価の取り組み	回復期リハビリテーション	19 3	2020年10月
堀田 陽平	中村英史、奥村美稀、霜下和也、後藤伸介	介護予防事業における基準緩和型通所サービスの効果とサービス修了者と継続者の比較	石川県理学療法学会雑誌	19 1	2020年
福田 智恵子	勝木 保夫	配置部署とローテーション	医師事務作業補助 実践入門 BOOK 2020—21年版		2020年
池永康規		ID-Linkを用いた加賀脳卒中地域連携クリニカルパス運用が業務効率化に及ぼす影響	日本クリニカルパス学会誌	22 3	2020年

氏名	共同著者	タイトル	雑誌名	巻号	年月
黒田一成	中村立一、岡本義之、池淵香瑞美、勝木保夫	大腿骨骨幹部非定型不全骨折に対する予防的プレート固定-骨シンチによる術前後の評価-	中部整災誌	63 3	2020年
勝木 達夫		心疾患患者にとって5METsの運動耐用能を有することの意義	心臓リハビリテーション	27 1	2021年3月
橋本 恵		回復期リハビリテーション病棟における理学療法士・作業療法士の早出評価の取り組み	リハビリナース	14 2	2021年3月
林 真紀		保健医療と福祉 保健医療領域における支援 の実際	最新 社会福祉士養成講座		

# 学会発表



## 学会発表

年/月/日	氏名	共同研究者	発表演題名または講演題名	学会名(会場)
2019/5/24	吉田 桃子	吉田莉緒、中山絵美子、巽友里恵、上村真由美、山森直美、喜田恵、坂下真紀子	SMBG点検を通した糖尿病チーム医療における検査技師の関わり	第68回日本医学検査学会 下関市民会館 他(下関市)
2019/6/9	三苦 純子		脊髄梗塞患者について	神戸コンベンションセンター
2019/6/11	池永 康規		・石川県南加賀地区でとれている地域連携 ・ID-linkを用いて連携パスを運用することにより業務時間が短縮すること	神戸国際会議場 他
2019/6/12	東 利紀		Factors affecting the japanese kneeinjury and osteoarthritis outcome score(J-KOOS)after high tibial osteotomy	札幌コンベンションセンター(札幌市)
2019/6/28	北川 敦子	宮本由香里、元地志津香、後藤伸介	訪問介護への療法士の同行アセスメントの取り組み	朱鷺メッセ(新潟県新潟市)
2019/7/14	勝木 達夫		一般口演/7演題(精神・心理セッション)座長	第25回心臓リハビリテーション学会学術集会
2019/7/14	勝木 達夫		一般口演/7演題(精神・心理セッション)座長	第25回心臓リハビリテーション学会学術集会
2019/8/14	林 武弘		三次除菌およびペニシリン過敏例に対する除菌と胃X線検査におけるH.pylori感染例の拾い上げ	愛知県名古屋市
2019/9/20	岡本 義之	勝木保夫、黒田一成、池淵香瑞美、西村一志	脊椎、下肢変性疾患における術前ロコモティブシンドロームとサルコペニアの有病率	第133回中部整形外科災害外科学会
2019/9/21	高橋 祐樹		大腿骨骨幹部非定型不全骨折に対する予防的プレート固定～骨シンチによる術前後の評価～	第133回中部整形外科災害外科学会
2019/10/6	池永 康規		頸髄損傷者とその家族との関係に介助犬が及ぼした変化:ライフストーリーインタビュー研究	第12回日本身体障害者補助犬学会
2019/10/19	堀田 陽平		下肢筋力評価を用いた虚弱高齢者のサルコペニアのカットオフ値について	広島国際会場
2019/11/9	山田 竜也	浅ノ川総合病院 加藤伸一、富山県立中央病院 山崎真由美	日本医療経営実践協会北陸支部が提言する地域活性化のあるべき姿	ホテルメルパルク宮城
2019/11/11	釜場 海		石川県言語聴覚学術集会	金沢医科大学病院

年/月/日	氏名	共同研究者	発表演題名または講演題名	学会名(会場)
2019/11/16	上野 佳美		興味のある作業の導入により、自宅生活の活動範囲拡大が図れた事例	アクトシティ浜松
2019/11/16	西田 紘規		高次脳機能障害者の就労支援	アクトシティ浜松
2019/11/16	酒井 有紀	勝木達夫	心臓リハビリテーション室開設15年の今取り組むこと～10年前との比較により考察	日本心リハ学会北陸地方会
2019/11/17	宮下 高雄	平加保彦 池瀨香瑞美	骨折の発見に超音波検査が有用であった足関節捻挫の3症例	第3回 北陸超音波研究会:厚生連高岡病院
2019/11/17	西田 紘規		一般就労が可能となった高次脳機能障害患者の一例～外来作業療法士ができる医療と福祉の連携～	第19回東海北陸作業療法学会(アクトシティ浜松)
2019/11/17	吉田 円	羽場俊広、高橋祐樹	学童期野球指導者に対する投球数、練習量に関する経年的なアンケート調査	第30回日本臨床スポーツ医学会
2019/11/20	吉田 円		野球検診についての発表	パシフィコ横浜(神奈川県)
2019/11/21	山田 尚輝		人工関節全置換術後12カ月でのQOLに関する退院時の身体機能因子(ポスター発表)	リハビリテーションケア合同研究大会
2019/11/21	中村 英史		地域包括支援センターにおけるリハビリテーションコーディネート活動の取り組み	リハビリテーションケア合同研究大会
2019/11/21	池田 拓史		脊椎・下肢関節の変形疾患に対する手術療法のロコモ改善効果(ポスター発表)	リハビリテーションケア合同研究大会
2019/11/21	坂下 和美		病棟で取り組んだ皮膚損傷予防(ポスター発表)	リハビリテーションケア合同研究大会
2019/11/21	山田 早紀		通所リハビリテーションにおける前頭側頭型認知症を呈した症例への介入(ポスター発表)	リハビリテーションケア合同研究大会
2019/11/21	村中 巖太		肩関節固定装具着用によるバランス機能の影響(ポスター発表)	リハビリテーションケア合同研究大会
2019/11/21	今井 美里		当院における自立度判定評価表の導入前後での転倒件数の比較検討	リハビリテーションケア合同研究大会
2019/11/21	上野 弘樹		当事業所における短期集中予防サービスの現状と課題	リハビリテーションケア合同研究大会
2019/11/21	酒井 広勝		通所介護での生活機能向上のための連携の取り組みと課題	リハビリテーションケア合同研究大会

年/月/日	氏名	共同研究者	発表演題名または講演題名	学会名(会場)
2019/11/21	南 明子		歩き回る利用者の不安を和らげる取り組み(ポスター発表)	リハビリテーションケア合同研究大会
2019/11/21	松村 ひろみ		「病棟看護師として退院支援に向けた看護の在り方に関する研究」—スクリーニングシートの利用を試みて—	リハビリテーションケア合同研究大会
2019/11/21	上野 弘樹		当事業所における短期集中予防サービスの現状と課題	リハビリテーションケア合同研究大会
2019/11/21	酒井 広勝		通所介護での生活機能向上のための連携の取り組みと課題	リハビリテーションケア合同研究大会
2019/11/21	南 明子		歩き回る利用者の不安を和らげる取り組み(ポスター発表)	リハビリテーションケア合同研究大会
2019/11/21	松村 ひろみ		スクリーニングシートの利用	リハビリテーションケア合同研究大会
2019/11/22	堀田 めぐみ		ピアサポートの効果が高い方の傾向(ポスター発表)	リハビリテーションケア合同研究大会
2019/11/22	堀田 めぐみ		ピアサポートの効果が高い方の傾向(ポスター発表)	リハビリテーションケア合同研究大会
2019/11/23	後藤 伸介	中山さやか、池田拓史、橋本 恵、上地本高	業務時間調査からみた療養士の労働生産性に関する考察	リハビリテーションケア合同研究大会 金沢2019ポストコンGRESS・第1回セラピスト
2019/11/26	岩佐 和明		心臓リハビリテーションにおける病院連携(ポスター発表)	石川県地場産業振興センター
2019/11/27	池永 康規		ID-Linkを用いた加賀脳卒中地域連携クリニカルパス運用が業務時間短縮に及ぼす効果	日本医療・病院管理学会第380回例会
2019/12/1	岡本 義之	勝木保夫、池淵香瑞美、黒田一成、高橋祐樹、浅亮輔	トシリズムブ使用中に化膿性脊椎炎を発症した1例	第30回北陸脊椎骨髄外科研究会
2020/1/26	宮下 高雄	平加保彦 池淵香瑞美	足関節捻挫の初回検査で見落とされた第5中足骨基部骨折の1例	第38回東海超音波研究会:ウインク愛知
2020/2/16	平加 保彦		当院における放射線検査の説明について	北陸3県診療放射線技師学術大会
2020/2/16	平加 保彦		当院における放射線検査の説明について	北陸3県診療放射線技師学術大会
2020/2/20	黒田 一成		第50回日本人口関節学会にて研究発表ポスター発表	福岡国際会場

年/月/日	氏名	共同研究者	発表演題名または講演題名	学会名(会場)
2020/2/20	黒田 一成		第50回日本人口関節学会にて研究発表ポスター発表	福岡国際会場
2020/2/21	高橋 祐樹		関節温存手術を行ったが人工関節に至った症例の検討	第50回日本人工関節学会
2020/2/24	池田 拓史		第50回日本人口関節学会にて研究発表	福岡国際会場
2020/2/24	池田 拓史		第50回日本人口関節学会にて研究発表	福岡国際会場
2020/2/28	石川 雄一		退院後に短期集中予防サービスを利用し生活拡大が図れた症例	石川県理学療法士協会
2020/7/18	今井 美里	岩佐 和明、勝木 達夫、金田朋也	ACS患者を対象とした病病連携による心臓リハビリテーションの取り組み	第26回心臓リハビリテーション学会学術集会
2020/7/18	山口 宏美	勝木 達夫、岩佐 和明、高木 さおり、喜田 恵、坂下 真紀子、中村 美紀、酒井 有紀	ICTツールを媒介とした心臓リハビリテーション—地域連携・重複疾患管理システムとの連携	第26回心臓リハビリテーション学会学術集会(Web)
2020/9/6	小松 奈保子	藤本光	2012-2020年における当院のマダニ咬傷、及び恙虫咬傷の実態	日本皮膚科学会北陸地方会
2020/9/27	堀田 陽平	石川雄一、霜下和也、後藤伸介	総合事業における基準緩和型通所サービスの修了者・継続者の比較と、サービス修了を検討するための基準値作成の試み	全国予防理学療法学会
2020/10/5	山口 宏美		疾病管理MAPを活用した糖尿病重症化予防への取り組み—市中病院での7年間の成果から	第63回日本糖尿病学会年次学術集会(Web)
2020/10/24	今井 美里	今井美里、岩佐和明、山口宏美、勝木達夫、金田朋也	地域中核病院との病病連携による心臓リハビリテーションの運用について	心臓リハビリテーション学会 第6回北陸支部地方会
2020/10/24	岩佐 和明	今井美里、山口宏美、勝木達夫	コロナ禍における当院外来心臓リハビリテーションの運営報告	心臓リハビリテーション学会 第6回北陸支部地方会
2020/10/24	山口 宏美	山口 宏美、勝木 達夫、岩佐 和明、今井 美里、高木 さおり、喜田 恵、坂下 真紀子、中村 美紀、酒井 有紀	外来心臓リハビリテーションにおける「心リハ管理MAP」の有用性—地域連携・重複疾患管理との関連から	心臓リハビリテーション学会 第6回北陸支部地方会(Web)
2020/11/6	中島 和歌子		シンポジウムⅡ 周術期管理チームに必要な多職種連携と看護記録	日本手術看護学会年次大会:WEB開催
2020/11/20	池永 康規		回復期リハビリテーション病棟に入院した経管栄養依存脳卒中患者における胃瘻栄養と経鼻経管栄養の比較	第4回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会(神戸国際会議場)

年/月/日	氏名	共同研究者	発表演題名または講演題名	学会名(会場)
2020/12/17	黒田 一成	高橋祐樹、勝木保夫	膝関節変性疾患に対する手術療法のロコモ改善効果	JOSKAS- JOSSM2020
2020/12/17	高橋 祐樹		高位脛骨骨切り術と鏡視下Centralizationを併用した内側半月板後根断裂修復術の短期成績	JOSKAS- JOSSM2020
2020/12/18	田畑 悦子		高位脛骨骨切り術の術中助ツールの開発とその有用性の検討	第12回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
2020/12/19	宮下 高雄	平加保彦 高橋祐樹	小松市学童期野球検診における超音波検査の結果と今後の課題	第45回日本超音波検査学会:WEB開催
2021/1/24	宮本 由香里		メデイカルスタッフ参画 チーム医療セッション「高齢者心不全(在宅ケアのポイントと地域連携)」	日本循環器学会 北陸地方会
2021/2/7	高橋 祐樹	勝木保夫、岡本義之、黒田一成、池淵香瑞美、浅亮輔、高誠治郎	上腕骨小頭後方の陥没骨折に対して骨軟骨移植術を行った2例	第49回北陸骨折研究会
2021/2/14	近藤 啓司		感染症発症後廃用症候群となった症例～独歩でのトイレ動作獲得を目指して～	新人症例発表県士会
2021/2/14	島田 滯		右脳梗塞により左上肢に強い麻痺を呈し左上肢のADL参加増加を目指した症例～机に左上肢を上げる際の疼痛に着目して～	新人症例発表会 県士会
2021/2/14	津田 直輝		急性期DLOの理学療法～免荷期間中に生じる筋力低下に着目して～	新人症例発表会 県士会
2021/2/14	廣瀬 愛奈		左THAを施行し術後の歩行時痛に対して介入した症例	新人症例発表会 県士会
2021/2/14	河元 ほのか		重度呼吸障害患者のトイレ獲得を目指した取り組み～運動・呼吸練習が有効だった一例～	新人症例発表会 県士会
2021/2/14	平沢 晶		下肢に重度感覚障害を呈し杖歩行獲得を目指し介入した症例	新人症例発表会 県士会
2021/2/14	山田 康貴		麻痺側下肢伸展筋の活動性向上により下衣操作を獲得した脳血管障害右片麻痺の一症例～立位保持に着目して～	新人症例発表会 県士会
2021/2/28	渡邊 陽祐	東利紀、高橋祐樹	小松市少年野球選手における内側型野球肘の超音波Type別での身体的特徴	第29回石川県理学療法学会大会
2021/2/28	角谷 昇一郎	上野弘樹、橋本実、中村彩香、吉田円、酒井有紀、後藤伸介	虚弱高齢者のAssitepの試用に関する報告	第29回石川県理学療法学会大会

年/月/日	氏名	共同研究者	発表演題名または講演題名	学会名(会場)
2021/2/28	堀田 陽平	石川雄一、霜下和也、 上田幸生	クリニック併設型疾病予防 施設(医療法第42条施設) 開設後1年の歩みと、理学療 法士としての取り組み	石川県予防理学療 法学会
2021/2/28	上野 弘樹	坂中良子、古河丈治、 酒井有紀、後藤伸介	理学療法士による介護予 防・日常生活支援総合事業 単独の新規事業所の開設と その効果	第29回石川県理学 療法学術大会
2021/2/28	上野 弘樹	橋本実、角谷昇一郎、 中村彩香、酒井有紀、 後藤伸介、西村一志	当事業所における短期集中 予防サービスの効果と課題	第29回石川県理学 療法学術大会

# 講演会講師



## 講演会講師

年/月/日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2019/4/3	山田 竜也	かしこい病院のかかり方	小松ライオンズクラブ定例会	ホテルサンルート小松
2019/5/12	漆原 真姫	リハビリテーションと栄養サポート	回復期リハ病棟専従医師研修会	品川フロントビル
2019/6/12	池永康規	リハビリテーション科専門医が動く地域が動く！～地域包括ケアシステム構築のために明日から出来ること～	第56回日本リハビリテーション医学会学術集会	神戸コンベンションセンター
2019/6/12	池永康規	地域連携クリニカルパスによる病院・施設間連携～情報量と質の向上・教務改善・全病期連携を中心に～	第56回日本リハビリテーション医学会学術集会	神戸コンベンションセンター
2019/6/13	北森 友里恵	当院におけるCPAP治療への検査技師の関わり	睡眠時無呼吸症候群診療連携ミーティング	やわたメディカルセンター8階会議室
2019/6/14	後藤 伸介	セラマネに必要な力 論理的で創造的な業務改善力	愛知回復期の会セラマネスキルアップ研修会	中部リハ専門学校(愛知県)
2019/6/20,27,7/4,11	酒井有紀	循環器疾患の理学療法	内部障害講義	専門学校金沢リハビリテーションアカデミー
2019/6/20	宮本 由香里	入院する患者の在宅療養移行支援を考える	退院支援研修会	石川県看護協会
2019/7/7	後藤 伸介	医療記録	回復期リハ病棟協会セラピストマネージャー認定コース	AP浜松町(東京都)
2019/7/20	田畑 悦子	膝周囲骨切り術に対するX線撮影と透視操作のコツ	osteotomies around the knee Basic educational course	サッポロファクトリー
2019/7/22	後藤 伸介	リハビリテーションマインド	藤井脳神経外科病院職員勉強会	藤井脳神経外科病院(金沢市)
2019/7/26	宮下 高雄	救急での症例提示	石川県放射線技師会 読影セミナー	金沢循環器病院
2019/7/27	堀 美希	PSGのレポートの見方	北陸PSGセミナー	石川県地場産業センター
2019/8/2	琴野 巧裕	動脈硬化を抑えて健康寿命UPを目指そう！	出前講座	沖町会館

年/月/日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2019/8/31	後藤 伸介	評価項目の解説と留意点	日本医療機能評価機構 高度・専門機能リハ(回復期)研修会	日本医療機能評価機構(東京都)
2019/9/8	酒井有紀	高齢者医療最前線フレイル～いま求められる多職種協働による早期からの予防と対応～運動療法からフレイル予防および対策	第13回看護実践学会学術集会 シンポジスト	金沢医科大学病院
2019/9/13	後藤 伸介	PT5か条	回復期リハ病棟協会セラピストマネジャー認定コース	AP浜松町(東京都)
2019/9/13	後藤 伸介	セラピストによる早出・遅出を考える	回復期リハ病棟協会PT・OT・ST研修会	
2019/9/18	片山 伸幸	たかが風邪、されど風邪	出前講座	若杉町公民館
2019/9/26	池永康規	チーム医療を円滑にすすめるために必要なICFの考え方と嚥下機能評価	日本精神科医学会学術教育研修会栄養士部門	ANAクラウンプラザホテル富山
2019/9/28	酒井有紀	臨床指導者のあり方	臨床実習指導者講習会	専門学校金沢リハビリテーションアカデミー
2019/9/29	漆原 真姫	リハビリテーションと栄養サポート	回復期リハ病棟専従医師研修会	三田NNビル
2019/9/29	後藤 伸介	理学療法士の役割	回復期リハ病棟協会第18回専従医師研修会	ココヨホール(東京都)
2019/10/4	小松 奈保子	こんな時どうする？	第一小学校1年生父母会健康講座	第一小学校
2019/10/5	宮本 由香里	訪問看護ステーションにおけるリハビリテーション専門職との協働	第10回訪問リハビリテーション研修会	石川県リハビリテーションセンター
2019/10/5	後藤 伸介	PT5か条 その理解と深化に向けて	鶴飼リハ病院職員勉強会	鶴飼リハ病院(愛知県)
2019/10/6	橋本 典子	医療被ばく低減施設認定について	石川県診療放射線技師会	金沢大学付属病院 CPDセンター
2019/10/8	漆原 真姫	障がいのある人の雇い入れ、その後の職場定着の実際	障がい者雇用セミナー	小松サンアビリティーズ

年/月/日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2019/11/3	城戸内駿	「子どもロコモ」	石川県教育委員会主催 小松市教育事務所管内 タウンミーティング	第一コミュニティ センター
2019/11/7	佐分 稲子	インフルエンザ、感染予防について	出前講座	白松町会館
2019/11/9	高島 朋子	スポーツする子の食事	野球肘健診	弁慶スタジアム
2019/11/21	勝木保夫	地域で取り組む健康社会～ 地域と保健・医療・福祉の響 生～	リハビリテーションケア合 同研究大会	石川県立音楽堂
2019/11/23	酒井有紀	回復期の心臓リハビリテー ションと在宅でのフォロー アップ	リハビリテーションケア合同研究 大会 ポストカンファレンス セラ ピストマネジャーミーティング	TKP金沢
2019/12/15	池永康規	石川県における地域包括ケ アシステム構築の取り組み	富山県地域リハビリテー ション従事者研修会	富山サンシップ
2020/1/17	池永康規	軽量テキスト分析を用いた 加賀脳卒中地域連携クリニ カルパスと従来型診療情報 提供書との情報量比較	第20回日本クリニカルパ ス学会	熊本城ホール
2020/1/23	勝木保夫	フレイルとは	第2回小松市健康づくり推 進協議会	すこやかセンター
2020/1/25	後藤 伸介	これからの時代の回復期リ ハ病棟で理学療法士がすべきこと	船橋市立リハ病院職員勉 強会	船橋市立リハ病 院(千葉県)
2020/1/25	勝木保夫	臨床工学士に期待すること	第2回シーズ・ニーズマッ チングシンポジウム	公立小松大学末 広キャンパス
2020/2/2	池永康規	地域連携クリニカルパスに よる病院・施設間連携:情報 量と質の向上・業務改善・全 病期連携を中心に	高知・高幡・安芸医療圏 脳卒中地域連携の会	高知大学医学部
2020/3/4	勝木保夫	令和は健康経営時代	小松ライオンズクラブ定例 会	ホテルビナリオ KOMATSUセント レ
2020/8/5	池永康規	高次脳機能障害の医学的 知識	石川県高次脳機能障害 者支援者研修会	石川県リハビリ テーションセン ター
2020/9/27	田畑美香	失語症概論	失語症者向け意思疎通支 援者養成講習会	金沢市ものづくり 会館
2020/9/29	上野 弘樹	いつまでも動ける身体づくり ～自宅のできる体操を学ぼう～	令和2年度かがやき予防 塾(第8期)	加賀市文化会館

年/月/日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2020/10/17	田畑美香	外出同行支援実習	失語症者向け意思疎通支援者養成講習会	金沢市ものづくり会館
2020/10/29	勝木達夫	コロナと暮らす時代に正しく恐れて楽しいダイナミックライフを	北陸体力科学研究所会員セミナー	スポーツコミュニティダイナミック
2020/12/7	後藤 伸介	回復期リハ病棟と地域包括ケア病棟(床)の意義と役割	回復期リハ病棟協会PT・OT・ST特別研修会	*リモート
2020/12/8	上野 弘樹	短期集中予防サービスによって社会参加を目指した左全人工膝関節置換術後の事例	令和2年度第1回加賀市地域リハビリテーション活動支援連絡会	健康プラザさくら及びリモート
2020/12/13	田畑美香	コミュニケーション支援実習I	失語症者向け意思疎通支援者養成講習会	金沢市ものづくり会館
2020/12/18	石田美幸	新型コロナウイルス感染対策 やわたメディカルセンター	南加賀医療圏がん薬物療法研究会	WEB研修
2021/1/15	勝木達夫	新しい生活様式の中でリハ専門職としてどう取り組むべきか	リハビリテーション医療専門職研修会(石川県リハビリテーションセンター主催)	WEB開催
2021/1/20	勝木保夫	新型コロナウイルス時代を楽しく健やかに過ごすために	小松市スポーツ指導者講習会	こまつドーム
2021/1/22	勝木達夫	当院における高強度インターバルトレーニングを取り入れた心臓リハビリテーション	心臓病トータルケアセミナー	WEB開催
2021/1/25	上野 弘樹	セラバンドを使った運動について～地域高齢者の介護予防のために～	令和2年度地域型元気はつらつ塾受託事業所職員向け講習会	加賀市役所別館
2021/2/21	勝木保夫	新型コロナに負けない地域健康社会づくり～市民によるフレイル予防と養生～	2021年はつらつ健幸推進大会	こまつ芸術劇場うららLIVE
2021/2/24	後藤 伸介	セラピスト10か条の成り立ちと現在	回復期リハ病棟協会PT・OT・ST研修会	*リモート
2021/2/24	後藤 伸介	理学療法士の役割	回復期リハ病棟協会第1回専従医師研修会	*リモート
2021/3/6	後藤 伸介	評価項目の解説と留意点、ほか	日本医療機能評価機構高度・専門機能リハ(回復期)選考・研修会	*リモート
2021/3/11	勝木達夫	あなたの疑問に答えます。新型コロナウイルスワクチンについて	北陸体力科学研究所会員セミナー	スポーツコミュニティダイナミック

その他



その他

年/月/日	氏名	共同研究者	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2019/5/27	勝木達夫		循環器系統講義1		公立小松大学
2019/6/3	勝木達夫		循環器系統講義2		公立小松大学
2019/7/6	松本 政宏		減塩嚥下食デモンストラーション	専門学校授業	金沢調理師専門学校
2019/7/14	勝木達夫		精神・心理2 座長	第25回日本心臓リハビリテーション学会	大阪国際会議場
2019/8/4	勝木達夫		睡眠時無呼吸症候群と慢性疾患の重症化予防 座長	JMAPサマーセミナー	エッサム神田ホール2号館
2019/8/31	勝木達夫		循環器・心リハ・その他 座長	第38回日本臨床運動療法学会	新潟大学医学部有壬記念館
2019/10/8	高島 朋子		スポーツする子の食事	辰口中学校講義	辰口中学校
2019/11/6	勝木 準		言語聴覚士の仕事	県立看護大学講義	県立看護大学
2019/11/18	丸田 美穂		調理実習「糖尿病食」	小松准看護学院講義	小松准看護学院
2019/11/25	丸田 美穂		調理実習「糖尿病食」	小松准看護学院講義	小松准看護学院
2019/12/2	加納 いくみ		調理実習「糖尿病食」	小松准看護学院講義	小松准看護学院
2020/6/11	勝木達夫		循環器系統講義1	公立小松大学講義	
2020/6/25	勝木達夫		循環器系統講義2	公立小松大学講義	
2020/8/5	勝木 保夫	福田 智恵子	医師事務作業補助実践入門BOOK 2020-21年版	(株)医学通信社	
2020/8/21	高島 朋子		特殊栄養法・病院食	授業	小松准看護学院
2020/9/25	松下 美穂		摂食嚥下障害	授業	小松准看護学院
2020/9/27	勝木 準		失語症のある人の日常生活とニーズ	石川県委託事業失語症者向け意思疎通支援者養成講習会	金沢市ものづくり会館

年/月/日	氏名	共同研究者	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2020/10/3	勝木 準		コミュニケーション支援方法	石川県委託事業失語症者向け意思疎通支援者養成講習会	金沢市ものづくり会館
2020/10/3	勝木 準		「話す」、「飲み込む」に関わるプロセス コミュニケーションを円滑にする為の留意点	錦城特別支援学校 中学部教職員対象 勉強会	
2020/10/24	勝木達夫		心不全患者の骨格筋と栄養から見た運動処方	第6回日本心臓リハビリテーション学会北陸支部地方会教育講演	WEB
2020/11/4	漆原 真姫		回復期リハビリテーションの栄養管理	授業「小松大学 成人看護」	WEB
2021/1/20	勝木 準		言語聴覚士の仕事	県立看護大学講義	県立看護大学
2021/2/5	上田幸生		ディスカッション:高齢患者のサルコペニア・フレイル予防について考える(パネリスト)	石川県臨床内科医学会 第191回中央地区研修会	石川県医師会館 またはWEB

# 事業所実績



事業所実績(抜粋)

やわたメディカルセンター

患者数	2019年度	2020年度
延外来患者数	113,285人	94,008人
延入院患者数	66,396人	59,432人
新入院患者数	3,688人	3,089人
病床平均稼働率	90.7%	81.4%
病床平均稼働率(3F)	95.6%	82.6%
病床平均稼働率(4F)	94.7%	82.9%
病床平均稼働率(5・6F)	86.7%	80.1%
平均在院日数(3F)	64.0日	68.1日
平均在院日数(4F)	23.4日	23.0日
平均在院日数(5・6F)	10.5日	11.4日
紹介・逆紹介		
	2019年度	2020年度
紹介患者数	3,987人	3,322人
紹介入院患者数	993人	917人
逆紹介患者数	5,822人	5,059人
放射線検査紹介数	864件	612件
手術件数		
	2019年度	2020年度
手術件数	1,257件	1,168件
救急・時間外受入		
	2019年度	2020年度
救急患者数(救急車除く)	1,334人	1,010人
救急車搬送患者数	618人	600人
入院になった患者数	408人	566人
放射線検査件数		
	2019年度	2020年度
MRI	4,256件	4,042件
CT	8,053件	7,817件
ANGIO	292件	298件
エコー	2,884件	2,454件
内視鏡	3,338件	2,712件
リハビリテーション実施数		
	2019年度	2020年度
患者数(外来)	11,791人	4,434人
患者数(入院)	63,643人	65,826人
単位数(入院)	25,357単位	8,698単位
単位数(入院)	160,612単位	176,516単位

薬剤関係	2019年度	2020年度
病棟服薬指導件数	2,856件	2,709件
DPC病棟 服薬指導件数	2,082件	1,936件
DPC病棟 退院時指導	340件	399件
外来化学療法1-A 件数	36件	106件
外来化学療法1-B 件数	1,125件	1,013件
無菌製剤処理料	42件	135件
後発医薬品割合	84.5%	85.5%

検体・生理検査関係	2019年度	2020年度
外来採血者数	33,955人	29,060人
血管エコー件数	837人	740人
心臓エコー件数	2,234人	1,907人
PSG/タイトレーション件数	203人	177人

栄養関係	2019年度	2020年度
栄養指導件数	2,136件	2,189件
NST介入患者数	72人	83人

在宅サービス Aスタジオ	2019年度	2020年度
延利用者数	11,181人	9,123人
1日利用者数	43.9人	36.4人

Bスタジオ	2019年度	2020年度
延利用者数	10,329人	8,602人
1日利用者数	33.0人	28.4人

みのり倶楽部みつや	2019年度
延利用者数	4,763人
1日利用者数	16.5人

健康スタジオ加賀温泉駅前	2020年度
延利用者数	1,014人
1日利用者数	4.3人

ヘルパーステーション	2019年度	2020年度
訪問回数	6,900回	5,943回
1日平均訪問回数	18.9回	16.8回

居宅介護支援	2019年度	2020年度
月平均利用者数	230.0人	250.9人

## 健診センター

健康診断	2019年度	2020年度
来館型	3,527人	3,397人
出向型	2,077人	1,420人
特定健診	1,718人	1,325人

## 健康ドック

	2019年度	2020年度
半日・1日ドック	2,067人	1,567人
宿泊ドック	226人	183人
協会けんぽドック	5,330人	5,212人
生活習慣病予防健診	1,099人	769人
脳ドック	502人	380人

## フォローアップ

	2019年度	2020年度
精密検査	1,387人	893人
労災保険二次	202人	166人

## 芦城クリニック

	2019年度	2020年度
1日平均患者数	79.1人	75.8人
1日平均初診	6.2人	6.2人
1日平均再診	72.9人	69.6人
1日平均リハ患者数	29.9人	30.1人
リハ実施単位数	13,725単位	13,841単位
健康スタジオ利用者数	2,245人	2,144人
居宅 ケアプラン作成数	879件	(2019年11月よりやわたに統合)

## 丸内・芦城高齢者総合相談センター

要支援ケアプラン作成数	2,103件	1,988件
相談件数	917件	1,116件

## 訪問看護ステーションリハケア芦城

介護保険	2019年度	2020年度
訪問看護利用者数	1,166人	1,072人
訪問回数	4,572回	4,184回
訪問リハ利用者数	1,036人	941人
訪問回数	3,461回	3,149回

## 医療保険

訪問看護利用者数	735人	736人
訪問回数	5,264回	5,127回
訪問リハ利用者数	489人	560人
訪問回数	1,724回	1,988回



# 北体研

(北陸体力科学研究所)



# 学会発表



学会発表

年月日	氏名	共同研究者	発表演題名または講演題名	学会名(会場)
2019/8/31	小池 順	松儀怜、平下政美、勝木保夫、勝木達夫	健康増進施設での集団型運動増進スクールの取り組み	第38回日本臨床運動療法学会学術集会(新潟大学医学部 有王記念館)
2019/8/31	釜場 なる子	城戸内駿、勝木達夫、平下政美、勝木保夫	通所型サービス事業Cの委託を受けての取り組み～二次予防高齢者における効果的な介入支援による改善例～	第38回日本臨床運動療法学会学術集会(新潟大学医学部 有王記念館)
2019/9/9	中崎 衣美	高畠 朋子、勝木保夫	運動をしている大学生におけるカルシウム自己チェック表の活用を検討	第66回日本栄養改善学会学術総会(富山県民会館 富山国際会議場)
2019/11/21	小池 順	松儀怜、平下政美、勝木保夫、勝木達夫	健康増進施設での集団型健康増進スクールの取り組み(ポスター発表)	リハビリテーションケア合同研究大会2019(金沢駅もてなしドーム)
2019/5/19、 2019/9/21	越原 祥栄	星野陽子、北田聡子、平下政美、勝木保夫	中学・高校運動選手の体成分と基礎体力の関係	第31回日本体力医学会北陸地方会(金沢星稜大学)、第74回日本体力医学会(つくば国際会議)
2019/5/19	中村 亮太	中井詔子、大久保祐一	こまつ子どもスポーツ大学の成果と課題	第31回日本体力医学会北陸地方会(金沢星稜大学)
2019/8/25	釜場 なる子	城戸内駿、勝木達夫、平下政美、勝木保夫	通所型サービス事業Cの委託を受けての取り組み～効果的な介入支援による改善例～	2019年度日本介護福祉学会 北信越地方会(上越市市民プラザ)
2020/9/5	東 香里	三井外喜和、中正二郎、勝木達夫、平下政美、勝木保夫	健康増進施設と健診施設との連携によるメタボリック症候群改善への取り組み	第39回日本臨床運動療法学会学術集会(オンライン)



# 講演会講師



## 講演ほか

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2019/1/26	中崎衣美、吉田純	川北町学童野球クラブ 栄養指導、トレーニング指導	JAIしかわスポーツめし プロジェクト	サンアリーナ川北
2019/2/5	森崎貴志	腰痛予防講座	公立学校共済組合石川 支部健康づくり講師派遣 事業	いしかわ総合ス ポーツセンター
2019/2/24	中崎衣美	栄養指導、スポーツバイ キング	いしかわジュニアアスリー ト発掘事業アスリートプロ グラム	いしかわ総合ス ポーツセンター
2019/4/4	大久保祐一	ボディコンバット	東振グループ新人研修	ダイナミック
2019/4/6	吉田純	ストレッチ&ウォーキング 指導	お花見ウォーキング	木場潟
2019/4/12 ~8/2	中崎衣美	スポーツ栄養学	金沢星稜大学講義	金沢星稜大学
2019/4/14	中崎衣美	スポーツ栄養講話	平成31年度スポーツ ファーマシスト薬育推進事 業研修会	石川県地場産業 振興センター
2019/4/17	中崎衣美	スポーツ栄養講話	陸上部・ハンドボール部栄 養講話	小松商業高校
2019/4/19	中崎衣美、大 久保祐一	ヘルシーバイキング、ボ ディコンバット	小松ウォール新人研修	やわたメディカル センター多目的 ホール
2019/4/24	山口裕子	ピラティス	ライオンパワー講師派遣	ライオンパワー株 式会社
2019/4/27	中崎衣美	スポーツ栄養講話	小松商業女子バレー部栄 養講話	ゴッツオーネ
2019/5/	酒井敬子	保健体育講義実技	小松准看護学院	小松准看護学院
2019/5/7	中崎衣美	身体づくりのための栄養 講話	小松大谷高校部活動サ ポート	小松大谷高校
2019/5/18	中崎衣美	保護者向け栄養講話	小松大谷高校部活動サ ポート	小松大谷高校
2019/5/20	中崎衣美	試合時の栄養講話	小松大谷高校部活動サ ポート	小松大谷高校
2019/5/20	名倉紀子	児童の体幹強化	那谷小学校講師派遣	那谷小学校

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2019/5/21	中村亮太、新家広大	格闘技エクササイズ、サーキットトレーニング、腰痛体操	コマツウエイ総合研修センター新人研修	小松市総合体育館
2019/5/23	大久保祐一	ボクシングエクササイズ	ライオンパワー講師派遣	ライオンパワー株式会社
2019/5/29	北田 聡子	脚の元気度アップ	2019年度ISC教養講座第1回	いしかわ総合スポーツセンター
2019/6/3	中村亮太	株式会社佐々木塗装工業 健康測定器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社佐々木塗装工業
2019/6/3～9/30	中崎衣美	食生活と栄養講義	小松准看護学院講義	小松准看護学院
2019/6/8	名倉紀子、中崎衣美	小松鋼機健康づくりセミナー	小松鋼機健康づくりセミナー	やわたメディカルセンター多目的ホール
2019/6/8	伴場若菜	ストレッチ&リズム体操	コマニー運動会	小松ドーム
2019/6/8	中井詔子	作業効率を上げる睡眠健康管理	誠和建設安全大会健康講話	誠和建設株式会社
2019/6/8,7/19	中村亮太	トレーニング指導	小松商業女子バレーボール部	小松商業高校
2019/6/12	三井外喜和		NHK金沢放送局かがのとイブニング収録	
2019/6/13	名倉紀子	姿勢改善ストレッチ	南加賀女性スポーツの会	ライオンパワー株式会社
2019/6/14	菊田泰子	森長電子株式会社 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	森長電子株式会社
2019/6/15	達優紀	サーキットトレーニング	コマツ粟津工場新人研修	やわたメディカルセンター多目的ホール
2019/6/20	伴場若菜	リズム体操	ライオンパワー講師派遣	ライオンパワー株式会社
2019/6/20	大久保祐一	運動で元気アップ:講話と実技	平成31年度学校保健委員会	松東みどり学園
2019/6/22	中崎衣美	食育プログラム	石川県体育協会ジュニア競技者育成事業(小学生)	いしかわ総合スポーツセンター
2019/6/24	伴場若菜	株式会社優・優 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社優・優

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2019/6/25	小池順	スポーツとケガ	犬丸小学校学校保健委員会講義	犬丸小学校
2019/6/27	小池綾子	みなみ設備工業株式会社腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	みなみ設備工業株式会社
2019/6/29	中崎衣美	栄養講話	能美市ウォーキング講習会	辰口福社会館
2019/6/29	小池順	馬場化学工業株式会社立ち上がりテストを活用した筋力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	馬場化学工業株式会社
2019/6/29,7/13	中崎衣美	トラックドライバーの生活習慣病予防対策を食から考える	西濃運輸安全委員会講演会	西濃運輸金沢支店
2019/7/3	森崎貴志	社会福祉法人やまびこ立ち上がりテストを活用した筋力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	社会福祉法人やまびこ
2019/7/4	瓦焼友美	腰痛肩こり体操	三島石油運動指導	三島石油株式会社
2019/7/8	達優紀	幼保連携型認定こども園蝶屋こども園腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	幼保連携型認定こども園蝶屋こども園
2019/7/10	竹内寛子	介護福祉保健施設和光苑腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	介護福祉保健施設和光苑
2019/7/11	森崎貴志	腰痛肩こり体操	三島石油運動指導	三島石油株式会社
2019/7/12	達優起	腰痛肩こり体操	三島石油運動指導	三島石油株式会社
2019/7/12、9/26、10/10、11/14、11/28	三井外喜和、大久保祐一、吉田純	運動指導	石川県教育委員会「体育の授業充実・体力向上アクションプラン事業」	錦城東中学校
2019/7/13	達優紀	株式会社なかの林業腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社なかの林業
2019/7/18	大久保祐一	ボクシングエクササイズ	ライオンパワー講師派遣	ライオンパワー株式会社
2019/7/19	三井外喜和	運動の必要性和疾患別運動療法	分校地区健康講演	加賀市分校地区会館
2019/7/19	長瀬麗	有限会社暖心腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	有限会社暖心
2019/7/19	達優紀	第一電機工業株式会社腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	第一電機工業株式会社

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2019/7/19	小池綾子	大同開発株式会社 健診日までに取り組む個人の健康宣言	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	大同開発株式会社
2019/7/22	名倉紀子	ボディバランス	公立学校共済組合石川支部「元気力アップセミナー」	小松市公会堂
2019/7/23	名倉紀子	ボディバランス	公立学校共済組合石川支部「元気力アップセミナー」	七尾サンライフプラザ
2019/7/24	菊田泰子	ボディバランス	公立学校共済組合石川支部「元気力アップセミナー」	金沢市保健所
2019/7/24	大久保祐一	社会福祉法人松原愛育会生活支援センター雪見橋 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	社会福祉法人松原愛育会生活支援センター雪見橋
2019/7/24	森崎貴志	社会福祉法人松原愛育会石川療育センター 健康測定器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	社会福祉法人松原愛育会石川療育センター
2019/7/25	竹内寛子	ボディバランス	公立学校共済組合石川支部「元気力アップセミナー」	金沢市保健所
2019/7/26 ~27	中井詔子、山口裕子、中崎衣美、三井外喜和		丸文通商宿泊型健康セミナー	白山一里野温泉ホテル牛王印
2019/7/28	釜場なる子	施設集客型健康づくりポセン からだメンテナンス講座	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	いしかわ総合スポーツセンター
2019/7/29	竹内寛子	株式会社アクシス 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社アクシス
2019/8/3	菊田 泰子/竹腰 清亮	こどもの時期に大切な運動はコレだ/お家で出来る親子体操	2019年度ISC教養講座第2回	いしかわ総合スポーツセンター
2019/8/7	名倉紀子	腰痛肩こり予防のためのストレッチ	公立学校共済組合健康づくり	勅使小学校
2019/8/8	伴場若菜	リズム体操	ライオンパワー講師派遣	ライオンパワー株式会社
2019/8/9~10	釜場なる子、中井詔子、中崎衣美、達優起		丸文通商宿泊型健康セミナー	妙高・山里の湯宿香風館
2019/8/10	山口裕子	株式会社中野製作所 立ち上がりテストを活用した筋力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社中野製作所

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2019/8/20	森崎貴志	施設集客型健康づくりダイナミック	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	ダイナミック
2019/8/21	大久保祐一	腰痛肩こり体操教室	公立学校共済組合石川支部健康づくり講師派遣事業	石川県立大学
2019/8/21	小池綾子	社会福祉法人郷保育園健康測定器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	社会福祉法人郷保育園
2019/8/24	伴場若菜	大協運送株式会社 健康測定器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	大協運送株式会社
2019/8/27	伴場若菜	いつでもできるリラックス&リフレッシュ体操	公立学校共済組合石川支部健康づくり講師派遣事業	森本中学校
2019/8/28	大久保祐一	株式会社ジェスクホリウチ腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社ジェスクホリウチ
2019/8/30	釜場なる子	腰痛肩こり体操	小松ガスお客様向けイベント健康セミナー	サイエンスヒルズ小松
2019/8/30	小池綾子	石川県学校生活協同組合 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	石川県学校生活協同組合
2019/8/31	越原祥栄	株式会社中村編織工業腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社中村編織工業
2019/9/3	竹内寛子	菱機工業株式会社 立ち上がりテストを活用した筋力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	菱機工業株式会社
2019/9/4	三井外喜和	運動と健康	イオンリテールヘルスケアカウンセラー養成研修会	大宮会場
2019/9/4	川口知江	株式会社宮西計算センター 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社宮西計算センター
2019/9/6	郷真里奈	ピラティスで脂肪燃焼	公立学校共済組合石川支部健康づくり講師派遣事業	県立小松特別支援学校
2019/9/7	三井外喜和	生活習慣病予防対策講話	ツキボシP&P健康づくり事業(健康経営)	株式会社ツキボシP&P
2019/9/10	小池順	腰痛肩こり予防エクササイズ	石川サンケン社内研修(健康経営)	石川サンケン株式会社志賀工場
2019/9/11	山口裕子	辰巳化学松任第一工場腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	辰巳化学松任第一工場
2019/9/12	越原祥栄	株式会社吉田倉庫 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社吉田倉庫

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2019/9/16	釜場なる子	施設集客型健康づくりかほく	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	河北台健民体育館
2019/9/18	中井 詔子/安川 千鶴	快眠で毎朝スッキリ目覚めよう/ぐっすりストレッチ	2019年度ISC教養講座第3回	いしかわ総合スポーツセンター
2019/9/18	三井外喜和	運動と健康	イオンリテールヘルスケア カウンセラー養成研修会	大阪会場
2019/9/18	森崎貴志	浅井鉄工株式会社 健康測定器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	浅井鉄工株式会社
2019/9/19	大久保祐一	ボクシングエクササイズ	ライオンパワー講師派遣	ライオンパワー株式会社
2019/9/19	中崎衣美	スポーツ栄養	能美市学校給食関係者連絡会	辰口中央小学校
2019/9/20	森崎貴志	簡単筋トレストレッチ	東レ石川工場健康セミナー	東レ株式会社石川工場
2019/9/26	森崎貴志	株式会社ソフトバンク金沢健康測定器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社ソフトバンク金沢
2019/9/26	竹内寛子	公益社団法人石川県シルバー人材センター連合会 立ち上がりテストを活用した筋力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	公益社団法人石川県シルバー人材センター連合会
2019/9/28	中崎衣美	栄養講話	健康講座	プロメディカル株式会社
2019/9/28	小池綾子	白山ビルサービス株式会社 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	ANAクラウンプラザホテル
2019/9/29	大久保祐一	走り方教室	串小学校3年親子レクリエーション	串小学校
2019/9/30	名倉紀子	医療法人社団丹生会 立ち上がりテストを活用した筋力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	医療法人社団丹生会
2019/10/4	中井詔子	健診結果の見方	小松シェアリング社内研修(健康経営)	小松シェアリング株式会社小松工場
2019/10/11	中井詔子	健診結果の見方	小松シェアリング社内研修(健康経営)	小松シェアリング株式会社能美工場
2019/10/16	森崎貴志	かんたん筋トレ	環境開発(株)運動教室	環境開発株式会社

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2019/10/16	菊田泰子	石川中央魚市株式会社腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	石川中央魚市株式会社
2019/10/17	伴場若菜	かんたんエアロ	ライオンパワー講師派遣	ライオンパワー株式会社
2019/10/18	達優紀	株式会社ヨシケイ石川健康測定器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社ヨシケイ石川
2019/10/23	郷真里奈	株式会社国土開発センター腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社国土開発センター
2019/10/23	三井外喜和	石川サンケン株式会社志賀工場立ち上がりテストを活用した筋力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	石川サンケン株式会社志賀工場
2019/10/24	森崎貴志	医療法人積仁会岡部病院腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	医療法人積仁会岡部病院
2019/10/29	菊田泰子	株式会社JA建設エナジー腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	農協教育センター
2019/10/29 ~12/10	三井外喜和、 山口裕子		小松市「60歳から始める健幸力アップ講座」	こまつサンアビリティーズ
2019/10/30	小池順	かんたんエクササイズ	自生園健康づくりイベント	自生園
2019/10/31	中村亮太	株式会社JA建設エナジー腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	農協教育センター
2019/11/1	三井外喜和	活動量を増やすポイントと簡単エクササイズ	ツキボシP&P健康づくり事業(健康経営)	株式会社ツキボシP&P
2019/11/1	菊田泰子	株式会社すず環境サービス腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社すず環境サービス
2019/11/2	吉田純	親子で楽しく体幹トレーニング	那谷小学校講師派遣	那谷小学校
2019/11/3	大久保祐一	こどもロコモ	小松教育事務所管内タウンミーティング講演	第一地区コミュニティセンター
2019/11/6	中井詔子、菊田泰子、中崎衣美		丸文通商株式会社女性向けウエルネスセミナー	しいのき迎賓館
2019/11/6	郷真里奈	株式会社佐々木塗装工業腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社佐々木塗装工業
2019/11/7	中井詔子、菊田泰子、中崎衣美		丸文通商株式会社女性向けウエルネスセミナー	長野市生涯学習センター

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2019/11/8	山口裕子	アローマヨガ	自生園健康づくりイベント	自生園
2019/11/10	中崎衣美	スポーツ栄養講話	スポーツナース講習会	木島病院
2019/11/10	三井外喜和	運動生理学に基づいたウォーキングの仕方	小松市ノルディックウォーク協会講習会	木場潟公園めだかハウス
2019/11/11	伴場若菜	米沢電気工事株式会社 立ち上がりテストを活用した筋力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	米沢電気工事株式会社
2019/11/14	大久保祐一	ボクシングエクササイズ	ライオンパワー講師派遣	ライオンパワー株式会社
2019/11/16	三井外喜和	ストップ！ザ・腰痛	長津グループ安全衛生大会	石川県立小松産業技術専門学校
2019/11/16	小池順	株式会社なかの林業 健診日までに取り組む個人の健康宣言	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社なかの林業
2019/11/17	中村亮太	有限会社あづま運輸 健康測定器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	有限会社あづま運輸
2019/11/18	伴場若菜	飛鳥住宅株式会社 立ち上がりテストを活用した筋力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	石川県青少年総合研修センター
2019/11/19	達優起	立ち上がりテストを活用した筋力測定	石川サンケン社内研修（健康経営）	石川サンケン株式会社志賀工場
2019/11/25	吉田純	株式会社大和 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社大和
2019/11/26	中村亮太	株式会社エム・ビデオプロダクション 健康測定器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社エム・ビデオプロダクション
2019/11/26, 27	中井詔子	株式会社ヨシケイ石川 健康機器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	ヨシケイ石川（金沢・金沢東）
2019/11/29	瓦焼友美	社会福祉法人能美市社会福祉協議会 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	社会福祉法人能美市社会福祉協議会
2019/12/3	長瀬 麗	かんたんエアロ	2019年度ISC教養講座第4回	いしかわ総合スポーツセンター
2019/12/3,4, 18	中井詔子	株式会社ヨシケイ石川 健康機器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	ヨシケイ石川（かほく・もりの里・小松）
2019/12/4	中崎衣美	栄養講話	小松ライオンズクラブ定例会	ホテルビナリオ KOMATSU センター

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2019/12/7	中崎衣美	栄養講話	小松明峰高校ボート部研修	小松明峰高校
2019/12/14, 2020/2/1	中村亮太	トレーニング指導	根上中学校トレーニング指導	根上中学校
2019/12/15	越原祥栄、菊田泰子	筋トレ、ヨガ	ジュニアソフトテニスU-14トレーニング指導	北陸電力体育館
2019/12/20	達優紀	幼保連携型認定あたかこども園 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	幼保連携型認定あたかこども園
2019/12/21	中崎衣美、小池順	小松クラブ、小松南エンジェルズ 栄養指導、トレーニング指導	JAIしかわスポーツめしプロジェクト	西南地区体育館
2019/12/23	中村亮太	腰痛肩こり予防のためのストレッチ	石川サンケン社内研修(健康経営)	石川サンケン株式会社志賀工場
2020/1、3	秋山奈津美、中崎衣美	腰痛予防、栄養講話	株式会社江口組働く世代の健康づくり支援事業(石川県応募事業)	株式会社江口組
2020/1/6	中崎衣美/越原祥栄	身体づくりに必要な栄養/効果的な筋トレ	2019年度ISC教養講座第5回	いしかわ総合スポーツセンター
2020/1/6	大久保祐一	株式会社北陸エレテック 健診日までに取り組む個人の健康宣言	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社北陸エレテック
2020/1/7	菊田泰子	なるわ交通株式会社 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	なるわ交通株式会社
2020/1/11	山口裕子	株式会社クリエート 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社クリエート
2020/1/13	中崎衣美、中村亮太	森本地区小学生バレーボールチーム 栄養指導、トレーニング指導	JAIしかわスポーツめしプロジェクト	森本中学校体育館
2020/1/14	達優起	株式会社飯田計算センター 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社飯田計算センター
2020/1/14,2/4,3/10	山口裕子	運動指導	「60歳から始める健幸カアップ講座」後の自立グループ(健幸サークル)活動	こまつドーム
2020/1/15	名倉紀子	アスリートヨガ	小松大谷高校部活動サポート	小松大谷高校
2020/1/15	吉田純	正美保育園 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	正美保育園
2020/1/15 ~1/17	中村亮太	トレーニング指導	辰口中学校部活動	辰口中学校

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2020/1/17	吉田純	腰痛肩こり予防	石川サンケン社内研修 (健康経営)	石川サンケン株式会社志賀工場
2020/1/17	東香里	特定非営利活動法人プ ウブ 健診日までに取 組む個人の健康宣言	協会けんぽ「職場にお ける健康出前講座」	特定非営利活動 法人プウブ
2020/1/18	達優起	日生運輸株式会社 健康 測定器を活用した体力測 定	協会けんぽ「職場にお ける健康出前講座」	日生運輸株式会 社
2020/1/18	小池綾子	ヨシオ工業株式会社 株式会 社 パープルテクノス 腰痛肩こり予 防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場にお ける健康出前講座」	ヨシオ工業株式 会社
2020/1/18	中崎衣美、中 村亮太	和倉温泉サッカー 栄養 指導、トレーニング指導	JAIしかわスポーツめし プロジェクト	和倉温泉グラウ ンド
2020/1/19	山口裕子	運動指導	「60歳から始める健幸力 アップ講座」後の自立グ ループ(健幸サークル)活 動	小松市芦城セン ター
2020/1/20	伴場若菜	有限会社山本製材 腰痛 肩こり予防のためのスト レッチ	協会けんぽ「職場にお ける健康出前講座」	有限会社山本製 材
2020/1/21	名倉紀子	アスリートヨガ	小松大谷高校部活動サ ポート	小松大谷高校
2020/1/21	達優起	特定非営利活動法人なた うち福祉会 腰痛肩こり予 防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場にお ける健康出前講座」	特定非営利活動 法人なたうち福祉 会
2020/1/23	中井詔子、中崎 衣美、達優起、伴 場若菜、長瀬麗		明祥株式会社ウエルネス セミナー	金沢市ものづくり 会館
2020/1/24	越原祥栄	丸健道路株式会社 腰痛 肩こり予防のためのスト レッチ	協会けんぽ「職場にお ける健康出前講座」	丸健道路株式会 社
2020/1/25	中崎衣美、森 崎貴志	根上中学校部活動 栄養 指導、トレーニング指導	JAIしかわスポーツめし プロジェクト	根上中学校
2020/1/28	名倉紀子	アスリートヨガ	小松大谷高校部活動サ ポート	小松大谷高校
2020/1/29	伴場若菜	株式会社佐々木塗装工 業 立ち上がりテストを活 用した筋力測定	協会けんぽ「職場にお ける健康出前講座」	株式会社佐々木 塗装工業
2020/1/29	中崎衣美、森 崎貴志	片山津中学校部活動 栄 養指導、トレーニング指導	JAIしかわスポーツめし プロジェクト	片山津中学校
2020/1/30	竹内寛子	株式会社共栄商会 腰痛 肩こり予防のためのスト レッチ	協会けんぽ「職場にお ける健康出前講座」	株式会社共栄商 会

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2020/1/31	菊田泰子	障害予防とパフォーマンス～アスリートのためのヨガ～	白山市体育協会指導者研修会	松任総合運動公園体育館
2020/1/31	秋山奈津美	特定非営利活動法人学童会つるぎ ピノキオクラブ 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	特定非営利活動法人学童会つるぎ ピノキオクラブ
2020/2/3	三井外喜和		NHK金沢放送局「きょうのマッスル」取材	
2020/2/8	名倉紀子	株式会社ソーコ流通サービス 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社ソーコ流通サービス
2020/2/12	小池綾子	株式会社オノモリ 立ち上がりテストを活用した筋力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社オノモリ
2020/2/12	中崎衣美、森崎貴志	加賀八幡少年野球クラブ 栄養指導、トレーニング指導	JAIしかわスポーツめしプロジェクト	加賀八幡公民館
2020/2/17	伴場若菜	単体体操&姿勢改善ストレッチ	石川サンケン社内研修(健康経営)	石川サンケン株式会社志賀工場
2020/2/18	北田聡子	株式会社アルパイン設計事務所 立ち上がりテストを活用した筋力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社アルパイン設計事務所
2020/2/19	菊田泰子	ライフプランニングセンター株式会社 健康測定器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	ライフプランニングセンター株式会社
2020/2/20	達優起	特別養護老人ホームあての木園 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	特別養護老人ホームあての木園
2020/2/23	中崎衣美	栄養講話	JAIしかわスポーツめしプロジェクトイベント	レオン野々市スポーツスクエア
2020/2/25	中崎衣美	ヘルシーバイキング	西日本旅客鉄道株式会社健康づくり事業	加賀温泉駅
2020/2/26	竹内寛子/川崎彰悟	姿勢改善のための3つのポイント/即スッキリ実感!! ストレッチポール	2019年度ISC教養講座第6回	いしかわ総合スポーツセンター
2020/2/27	伴場若菜	リズム体操	ライオンパワー講師派遣	ライオンパワー株式会社
2020/2/27	川崎彰悟	金沢機工株式会社 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	金沢機工株式会社
2020/2/28	達優起	石川県学校生活協同組合 健康測定器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	石川県学校生活協同組合

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2020/2/29	秋山奈津美	株式会社島田鉄工 健康測定器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社島田鉄工
2020/3/4	勝木保夫	令和は健康経営時代	小松ライオンズクラブ定例会	ホテルビナリオKOMATSUセントレ
2020/3/5	中崎衣美	栄養講話	ツエーゲン金沢栄養講習会	ツエーゲン金沢クラブハウス
2020/3/10	中村亮太	介護福祉保健施設百寿苑 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	介護老人保健施設百寿苑
2020/3/17	竹内寛子	株式会社清幸 健康測定器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社清幸
2020/3/19	秋山奈津美	ピラティス	健康講座	丸文通商株式会社
2020/3/19	達優起	株式会社飯田計算センター 健康測定器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社飯田計算センター
2020/3/24	山口裕子	ながらエクササイズ	小松商工会議所健康宅配便	ジェイ・バス
2020/4/2	中崎衣美	栄養講話	小松電子株式会社新人研修	小松電子株式会社
2020/4/10 ～8/7	中崎衣美	スポーツ栄養学講義	金沢星稜大学講義	金沢星稜大学
2020.6/1～ 2021.1/31	大久保祐一	走り方投げ方指導	令和2年度小松市体力向上推進事業	小松市立符津小学校
2020/6/10	森崎貴志	部活動におけるスポーツ傷害の予防	板津中学校運動部顧問研修	板津中学校
2020/6/22、 6/29、7/6、 2021/2/12、 2/17、2/26	名倉紀子	アスリートヨガ	小松大谷高校部活動サポート	小松大谷高校
2020/6/22 ～9/28	中崎衣美	食生活と栄養講義	小松准看護学院講義	小松准看護学院
2020/6/28 ～10/25	三井外喜和	ウォーキングと健康	いまだてノルディックウォーク&健康フェスタ	勝山ニューホテル
2020/7/8	中崎衣美	金沢機工株式会社 ビジネスパーソンのための食時・栄養学	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	金沢機工株式会社

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2020/7/10	山口裕子	有限会社暖心 ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	有限会社暖心
2020/7/11	名倉紀子	株式会社なかの林業 ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社なかの林業
2020/7/13	東香里	株式会社飯田計算センター ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社飯田計算センター
2020/7/17	山口裕子	ピノキオクラブ ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	ピノキオクラブ
2020/7/18	達優起	日生運輸株式会社 健康測定機器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	日生運輸株式会社
2020/7/20	伴場若菜	特定非営利活動法人なたち福祉会なたちニコニコホーム ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	特定非営利活動法人なたち福祉会なたちニコニコホーム
2020/7/22	秋山奈津美	株式会社ヤマニ ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社ヤマニ
2020/7/29	中井 詔子/菊田 泰子	快眠の秘訣/アロマストレッチ	2020年度ISC教養講座第1回	いしかわ総合スポーツセンター
2020/8/4	吉田純	株式会社榛南ツバタ 立ち上がりテストを活用した筋力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社榛南ツバタ
2020/8/19	中崎衣美	株式会社絹川商事 ビジネスパーソンのための食時・栄養学	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社絹川商事
2020/9/2	三井外喜和、大久保祐一、吉田純	運動指導	石川県教育委員会「体育の授業充実・体力向上アクションプラン事業」	富来小学校
2020/9/3	三井 外喜和	健康長寿の妨げとなるフレイルとはいったい何か	2020年度ISC教養講座第2回	いしかわ総合スポーツセンター
2020/9/11	中崎衣美	カガライト工業株式会社 ビジネスパーソンのための食時・栄養学	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	カガライト工業株式会社
2020/9/12	中崎衣美	スポーツ栄養講話	金沢向陽高校バドミントン部	金沢向陽高校
2020/9/16	東香里	株式会社北都鉄鋼 ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社北都鉄鋼
2020/9/18	三井外喜和、大久保祐一、吉田純	運動指導	石川県教育委員会「体育の授業充実・体力向上アクションプラン事業」	扇台小学校
2020/9/19	中崎衣美	栄養講習会	石川県ウエイトリフティング協会	小松工業高校

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2020/9/28	竹内 寛子	新しい刺激で脳の活性化 認知症のためにできること	2020年度ISC教養講座第 3回	いしかわ総合ス ポーツセンター
2020/10/	三井外喜和	保健体育講義実技	小松准看護学院	小松准看護学院
2020/10/5	三井外喜和、 大久保祐一、 吉田純	運動指導	石川県教育委員会「体育 の授業充実・体力向上ア クションプラン事業」	国府小学校
2020/10/6	竹内寛子	株式会社榛南ツバタ ヨガ	協会けんぽ「職場におけ る健康出前講座」	株式会社榛南ツ バタ
2020/10/6 ~2021/3/2	三井外喜和、 山口裕子		小松市「60歳から始める 健幸力アップ講座」	芦城センター
2020/10/8	山口裕子	社会福祉法人能美市社 会福祉協議会 ヨガ	協会けんぽ「職場におけ る健康出前講座」	社会福祉法人能 美市社会福祉協 議会
2020/10/12	竹腰清亮	走り方指導	西南部ミニバス少年団	西南部小学校
2020/10/12	小池順	株式会社飯田計算セン ター 腰痛肩こりストレッ チ	協会けんぽ「職場におけ る健康出前講座」	株式会社飯田計 算センター
2020/10/13	中崎衣美	株式会社榛南ツバタ ビ ジネスパーソンのための 食時・栄養学	協会けんぽ「職場におけ る健康出前講座」	株式会社榛南ツ バタ
2020/10/14	山口裕子	社会福祉法人松原愛育 会生活支援センター雪見 橋 ヨガ	協会けんぽ「職場におけ る健康出前講座」	社会福祉法人松 原愛育会生活支 援センター雪見橋
2020/10/17	達優起	松の実園 立ち上がり	協会けんぽ「職場におけ る健康出前講座」	松の実園
2020/10/17 ~11/21	中崎衣美	スポーツ栄養講習会(オン ライン)	石川県柔道連盟研修	オンライン
2020/10/22	達優起	介護老人福祉施設百寿 苑 ヨガ	協会けんぽ「職場におけ る健康出前講座」	介護老人福祉施 設百寿苑
2020/10/23	達優起	株式会社ジェスクホリウチ ヨガ	協会けんぽ「職場におけ る健康出前講座」	株式会社ジェスク ホリウチ
2020/10/24	中崎衣美	栄養講習	美川中学校バドミントン部	美川中学校
2020/10/26	森崎貴志	小学生・中学生に向けたト レーニング方法	川北町教員向け運動指導 セミナー	川北中学校
2020/10/26	菊田泰子	石川県学校生活協同組 合 ヨガ	協会けんぽ「職場におけ る健康出前講座」	石川県学校生活 協同組合

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2020/10/26	竹内寛子	石川サンケン株式会社志賀工場 ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	石川サンケン株式会社志賀工場
2020/10/27	竹腰清亮	公益社団法人石川県シルバー人材センター連合会 腰痛肩こりストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	公益社団法人石川県シルバー人材センター連合会
2020/10/27	菊田泰子	石川サンケン株式会社志賀工場 ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	石川サンケン株式会社志賀工場
2020/10/29		体感!!マインドフルネス 前向きな毎日を過ごすための新習慣	2020年度ISC教養講座第4回	いしかわ総合スポーツセンター
2020/10~ 2021/1	中正二郎		女性の健康づくり事業(レディースプラン)における「骨いきいきカラダ丈夫プラン」運営事業	ダイナミック
2020/11/4	菊田泰子	株式会社清幸 ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社清幸
2020/11/5	小池綾子	「子どもロコモ」講演実技	小松市立月津小学校学校保健委員会	小松市立月津小学校
2020/11/5	小池順	正美保育園 腰痛肩こりストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	正美保育園
2020/11/6,1 1/7	中正二郎、中井詔子、中崎衣美、達優起		丸文通商宿泊型ウエルネスセミナー	いこいの村能登半島
2020/11/10 、11/18	達優起	弁護士法人兼六法律事務所 腰痛肩こりストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	弁護士法人兼六法律事務所
2020/11/10 、11/20	達優起	株式会社オンワード技研 腰痛肩こりストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社オンワード技研
2020/11/12	菊田泰子、竹腰清亮	株式会社JA建設エナジー 腰痛肩こりストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社JA建設エナジー
2020/11/14	菊田 泰子	女性のための筋カトレーニング	2020年度ISC教養講座第5回	いしかわ総合スポーツセンター
2020/11/17	竹内寛子	株式会社榛南ツバタ ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社榛南ツバタ
2020/11/18	東香里	株式会社ソフトバンク金沢 ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社ソフトバンク金沢
2020/11/19	東香里	有限会社吉田製作所 腰痛肩こりストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	有限会社吉田製作所

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2020/11/19	秋山奈津美	株式会社嶋源木建	ヨガ 協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社嶋源木建
2020/11/20	山口裕子	株式会社宗重商店 肩こりストレッチ	腰痛 協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社宗重商店
2020/11/26	中村亮太	トレーニング	小松大谷高校部活動サポート	小松大谷高校
2020/11/27	名倉紀子	アスリートヨガ	小松大谷高校部活動サポート	小松大谷高校
2020/11/27	中正二郎、中井詔子、中崎衣美、伴場若菜		丸文通商女性職員対象日帰りセミナー	金沢港クルーズターミナル
2020/11/27	達優起	池田建設工業株式会社 ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	池田建設工業株式会社
2020/11/27	菊田泰子	株式会社ハートハウス ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社ハートハウス
2020/11/28	名倉紀子	アスリートヨガ	小松大谷高校部活動サポート	小松大谷高校
2020/12/1	中崎衣美	スポーツ栄養セミナー	令和2年度小松市スポーツ賞授与式	こまつドーム集会室
2020/12/2、12/3、12/9	中崎衣美	小松シェアリング株式会社 ビジネスパーソンのための食時・栄養学	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	小松シェアリング株式会社
2020/12/5	中崎衣美	小松鋼機株式会社 ビジネスパーソンのための食時・栄養学	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	小松鋼機株式会社
2020/12/9	山口裕子	社会福祉法人清湖の社 腰痛肩こりストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	社会福祉法人清湖の社
2020/12/10	中村亮太	トレーニング	小松大谷高校部活動サポート	小松大谷高校
2020/12/10	中崎衣美	栄養講話	小松商工会議所健康宅配便	小松シェアリング株式会社
2020/12/11	名倉紀子	アスリートヨガ	小松大谷高校部活動サポート	小松大谷高校
2020/12/12	中村亮太	トレーニング指導	美川中学校バドミントン部	美川中学校

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2020/12/13	名倉紀子	アスリートヨガ	小松大谷高校部活動サポート	小松大谷高校
2020/12/15	三井外喜和	運動不足の代償	金城大学教職員向け健康講座	金城大学笠間キャンパス
2020/12/15	達優起	石川サンケン株式会社 ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	石川サンケン株式会社
2020/12/16、 12/17	山口裕子	株式会社佐々木塗装工業 健康測定機器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社佐々木塗装工業
2020/12/17	山口裕子	ウエーブストレッチ	小松商工会議所健康宅配便	ライオンパワー株式会社
2020/12/19	大久保祐一	かんたんエアロ	ライオンパワー講師派遣	ライオンパワー株式会社
2020/12/25	中崎衣美	特定非営利活動法人プウ ビジネスパーソンのための食時・栄養学	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	特定非営利活動法人プウ
2020/12/26、 2021/2/20	中村亮太	トレーニング指導	根上中学校部活動	根上中学校
2021/1/12	伴場若菜	飯田計算センター ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	飯田計算センター
2021/1/13	山口裕子	株式会社タスク ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社タスク
2021/1/13、 2/3、2/17	伴場若菜	小松バス株式会社 肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	小松バス株式会社
2021/1/17	中崎衣美/竹腰清亮	高血圧予防のための食事/有酸素運動と筋トレの注意点	2020年度ISC教養講座第6回	いしかわ総合スポーツセンター
2021/1/19、 2/2	秋山奈津美	小松バス株式会社 肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	小松バス株式会社
2021/1/20	山口裕子	ライフプランニングセンター 腰痛肩こりストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	ライフプランニングセンター
2021/1/26	竹内寛子	金沢機工株式会社 ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	金沢機工株式会社
2021/1/26、 2/9、2/25	小池綾子	小松バス株式会社 肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	小松バス株式会社
2021/1/26	達優起	株式会社江口組 健康測定機器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社江口組

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2021/1/26	伴場若菜	小松ガス株式会社 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	小松ガス株式会社
2021/1/27	秋山奈津美	株式会社江口組 健康測定機器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社江口組
2021/1/27	東香里	小松ガス株式会社 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	小松ガス株式会社
2021/2/8	竹内寛子	株式会社中村編織工業 ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社中村編織工業
2021/2/10	山口裕子	株式会社タスク 腰痛肩こりストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社タスク
2021/2/12	森崎貴志		スポーツで作業効率を上げよう！	令和2年度Sport in Life推進プロジェクト(ターゲット横断的なスポーツ実施者の増加方策事業)
2021/2/13	中崎衣美	試合や普段の食生活について	石川県フェンシング協会 県強化選手研修会	松任高校
2021/2/13	森崎貴志	ケガ予防について	石川県フェンシング協会 県強化選手研修会	松任高校
2021/2/14	名倉 紀子	コアパワーヨガ	2020年度科学トレスペシャルセミナー	いしかわ総合スポーツセンター
2021/2/14	中崎 衣美	栄養講話	2021年度科学トレスペシャルセミナー	いしかわ総合スポーツセンター
2021/2/16	秋山奈津美	運動教室	小松商工会議所健康宅配便	三島石油
2021/2/17	伴場若菜	からだリセット(ストレッチ)	小松商工会議所健康宅配便	松井モーターズ
2021/2/17	山口裕子	株式会社イガム 健康測定機器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社イガム
2021/2/20	達優起	松の実園 腰痛肩こり予防のためのストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	松の実園
2021/2/21	中崎衣美、中村亮太	ディスフルート(サッカー) 栄養指導、トレーニング指導	JAいしかわスポーツめしプロジェクト	金沢市総合体育館
2021/2/23	山口裕子	株式会社中野製作所 ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社中野製作所
2021/2/24	達優起	石川サンケン株式会社 ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	石川サンケン株式会社

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2021/2/24	竹内寛子	石川サンケン株式会社 堀松工場 ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	石川サンケン株式会社堀松工場
2021/2/28	中崎衣美	栄養指導、スポーツバイキング	いしかわジュニアアスリート発掘事業アスリートプログラム	いしかわ総合スポーツセンター
2021/3/3、 3/9	達優起	弁護士法人兼六法律事務所 健康測定機器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	弁護士法人兼六法律事務所
2021/3/7	東香里	からだすっきり！～体脂肪を減らせ～	はくさんタニタ健康クラブ健康講座	健康センター松任
2021/3/14	中崎衣美、名倉紀子	小松ダイビングクラブ(飛込) 栄養指導、トレーニング指導	JAIいしかわスポーツめしプロジェクト	ダイナミック
2021/3/17	東香里	あさひ会ファミリー ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	あさひ会ファミリー
2021/3/17	菊田泰子	弁護士法人兼六法律事務所 ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	弁護士法人兼六法律事務所
2021/3/17、 3/19	山口裕子	株式会社北菱 立ち上がりテストを活用した筋力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社北菱
2021/3/18	山口裕子	株式会社ソフトバンク金沢 健康測定機器を活用した体力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社ソフトバンク金沢
2021/3/18	小池綾子	株式会社北菱 立ち上がりテストを活用した筋力測定	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社北菱
2021/3/21	中崎 衣美	栄養講話	スポーツナース講習会	木島病院
2021/3/21	中崎衣美	スポーツ栄養ミニ講話	JAIいしかわスポーツめしプロジェクト	石川県産業展示館3号館
2021/3/23	達優起	弁護士法人兼六法律事務所 ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	弁護士法人兼六法律事務所
2021/3/26	中崎衣美、越原祥栄	津幡南中学校ボート部 栄養指導、トレーニング指導	JAIいしかわスポーツめしプロジェクトイベント	津幡南中学校
2021/3/26	達優起	池田建設工業株式会社 ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	池田建設工業株式会社
2021/3/29	竹腰清亮	株式会社共栄商会 腰痛肩こりストレッチ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	株式会社共栄商会
2021/3/31	中崎衣美	スポーツ栄養講話	YKK陸上部長距離部講習会	YKK株式会社

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2021/3/31	達優起	弁護士法人兼六法律事務所 ヨガ	協会けんぽ「職場における健康出前講座」	弁護士法人兼六法律事務所

# 事業所実績



北陸体力科学研究所	2019年度	2020年度
会員数	1,247人	986人
入会数(月平均)	16人	8人
退会数(月平均)	25人	30人
ジュニアスクール会員数	423人	388人
カルチャースクール会員数	73人	54人
やわた倶楽部会員数	51人	43人
セミナー実施数	23件	15件
講師派遣	197件	151件
いしかわ総合スポーツセンター		
延利用者数	165,028人	97,307人
1日平均	459人	289人
ダイナミックHakusan		
個人会員数	432人	351人
法人会員数	240人	278人
延利用者数	31,185人	25,078人



# 職員勉強会



# 第6回業務活動発表会



## ～プログラム～

日時：2020年1月24日（金）17：30～19：30

場所：別館 5階 多目的ホール

部門の取り組みや業務改善、学会発表などの活動を発信、  
今後の運営に活かします

教育推進会議分科会 学術・年報部門

◆開会の挨拶◆

勝木 達夫 病院長

第一部 17:35～

座長： やわたメディカルセンター 診療技術部 放射線課 徳田 一輝

1. 「健康増進センターアエール芦城開設に至るまでの背景と現状報告」

芦城クリニック 健康増進室 堀田 陽平

2. 「スポーツコミュニティダイナミックにおける集団型健康増進スクールの取り組み」

(公財)北陸体力科学研究所 ダイナミック 小池 順

3. 「生活機能向上へのチャレンジ!!」

やわたメディカルセンター 在宅サービス部 訪問課 村中 誌奈

4. 「受付業務における業務改善への取り組み～より質の高いサービスを目指して～」

(公財)北陸体力科学研究所 ダイナミック 道端亜矢香

5. 「患者満足度向上への取り組み」

やわたメディカルセンター 医療サービス部 医事課 山本 史歌

6. 「脊椎・下肢関節変性疾患に対する手術療法のロコモ改善効果～術後半年の経過～」

やわたメディカルセンター 診療部 整形外科 岡本 義之

第二部 18:20～

座長： やわたメディカルセンター 看護部 稲田 智絵

7. 「皮膚損傷予防 ～患者の四肢を守るには～」

やわたメディカルセンター 3階病棟安全管理推進分科会 坂下 和美

8. 「臨床工学課（循環器）2019年度業務改善報告及び事例報告」

やわたメディカルセンター 診療技術部 臨床工学課 坂下 広樹

9. 「臨床工学課の業務と業務拡張について」

やわたメディカルセンター 診療技術部 臨床工学課 國嶋 宏幸

10. 「睡眠呼吸外来での CPAP 遠隔モニタリング診療における取り組みについて」

やわたメディカルセンター 診療技術部 検査課 北森友里恵

11. 「看護師による入院前支援開始後の現状報告及び課題」

やわたメディカルセンター 地域連携部 入院サポートセンター 室川梨恵子

12. 「認知症ケアサポートチームの活動報告」

やわたメディカルセンター 看護部 小西あけみ

第三部 19:00～

座長： やわたメディカルセンター リハビリテーション技師部 山崎 晋平

13. 「回復期リハビリテーション病棟における業務活動報告～集団コミュニケーション療法の取り組み～」

やわたメディカルセンター リハビリテーション技師部 3階 釜場 海

14. 「急性期リハビリテーションの再考～THA術後の高頻度介入の効果検証～」

やわたメディカルセンター リハビリテーション技師部 5階 池田 拓史

15. 「手術後当日のリハビリテーション介入の取り組み～安静による苦痛の軽減を目的に～」

やわたメディカルセンター リハビリテーション技師部 5階 上田 晶子

16. 「フレイル予防機能強化型センターの取り組み」

丸内芦城高齢者総合相談センター 中村 英史

◆ 講 評 ◆

勝木 保夫 理事長

◆閉会の挨拶◆

池永 康規 委員長

## 1. 健康増進センターアエール芦城開設に至るまでの背景と現状報告

芦城クリニック 堀田陽平、森安隆宗、瀧田絵美、石川雄一、上野勝也、西田紘規、奥村美稀、田畑美香、霜下和也、上田幸生、村中洋子、本田忍、若松裕美子、田谷詩織、志田久美子、捨田利昌代、中智子、東出友里奈、中田勉

### 【はじめに】

芦城クリニックでは2019年12月2日に健康増進センター「アエール芦城」を開設した。アエール芦城は医療法42条第1項で規定されている「疾病予防のために選任の職員の指導のもとで有酸素運動を行う施設」であり、全国に約200施設あり、石川県では4施設目となる。本発表ではアエール芦城開設に至るまでの背景と、開設後1か月経過した現状についての報告を行う。

### 【背景・目的】

アエール芦城開設に至るまでの背景として、これまでも芦城クリニックのリニューアル時から検討事項としてあったが、2017年4月の上田医師就任以降、内科診療の充実を図る目的で具体的な検討を開始した。開設に向けた院内プロジェクトを立ち上げ、トライアルとして管理栄養士による栄養指導や理学療法士による運動体験コースなどのメディカルのサポート体制の充実を図った。運動体験コースでは月1~2回程度生活習慣病患者に対して運動機会を提供するだけでなく、ウォーキングなどの運動習慣を持つことの重要性や地域の運動施設などについての情報提供を行ったことで、運動習慣の獲得や生活習慣病の改善に至った患者を認めたが、その一方で行動変容までは至らない患者も認めた。

また、芦城クリニックの通所サービスであるはつらつ倶楽部では2016年4月の開設以降59名のサービス修了者を輩出している。通所サービス修了後はいきいきサロンなどの体操教室や、グランドゴルフなどの自主サークルなど地域資源に移行する者を多く認めたが、修了者の中には交通手段や趣味・嗜好の問題から地域資源への参加に前向きではない者や、通所サービス修了に対して不安を訴える利用者を多く認めた。

こうした背景の中で①内科かかりつけ医機能の充実、②通所サービス修了者や外来リハビリテーション終了者の受け皿機能、③近隣の中高齢者の疾病・介護予防の場の提供などを目的にアエール芦城の開設に至った。

### 【サービスの現状】

開設時の入会者数は33名（男性8名、女性25名。平均年齢71歳（51~86歳））であった。入会経路は当院内科患者が13名、通所サービス修了者・利用者が11名、その他が9名であった。他の運動施設との相違点として、サービス利用者の平均年齢が高く、有疾患者（内科疾患、整形疾患、脳血管疾患など）の割合が高いことが挙げられた。サービス内容としてはサービス開始時に専任の健康運動指導士・理学療法士がメディカルチェックや体力測定を元にカウンセリングを行い、利用者にあった運動プログラムの立案を行う。その後も定期的に運動プログラムの再調整を行い、利用者の運動効果やモチベーションの維持・向上を図れるよう支援している。1回あたりの運動時間は約60~90分であり、マシンを用いた有酸素運動や筋力増強運動を基本とし、ストレッチや関節トレーニング、バランス運動なども利用者に合わせて適宜提案している。

### 【今後の課題・展望】

今後は当院の看護師と連携した健康教室の実施や、利用者のニーズに合わせた集団プログラムの開発などサービス内容の充実を図りたいと考える。また、やわたメディカルセンターやダイナミックなどとのグループ内連携だけでなく、地域のかかりつけ医や地域包括支援センターとの連携を深めることも重要であると考えている。

## 2. スポーツコミュニティダイナミックにおける集団型健康増進スクールの取り組み

(公財) 北陸体力科学研究所 運動指導員 小池順

昨今の健康意識の高まりや、高齢化による有疾患者の増加などにより、安全で効果的な運動療法の実施が望まれている。そこでダイナミックでは、メタボリックあるいはロコモティブ症候群を有する利用者に対して、集団型健康増進スクールを実施している。

参加条件は年齢や疾患による制限を設けず、自立して運動が実施できれば可とした。実施時間は準備・主運動・整理運動を含め60分とし、内容は、1. 週毎に異なる運動内容の実施 2. 少人数制 3. 定期的な体力測定の実施 4. 管理栄養士による定期的な栄養講話と食事会 が主な特色である。

現在はスクール開始から2年半が経過し、定期的に運動内容を更新している。このスクールの利点として、1. 様々な運動の実施 2. 少人数制により指導者の目が届きやすい 3. コミュニティの形成 などによって効果的な運動の実施と、継続性の向上が期待できると考えられる。また、「フレイル」に対して身体的（栄養講話によるオーラルフレイル含む）はもちろん、スクール内におけるコミュニケーションを通じて社会・精神的に対してもサポートできるのではと考えている。

今回、スクールの参加者や継続率、体力測定結果を中心に、ダイナミックにおける集団型健康増進スクールの現状と課題について報告する。

### 3. 生活機能向上へのチャレンジ

在宅サービス部 訪問課 ヘルパーステーションやわた 村中誌奈

#### I はじめに

2012年度介護報酬改定で訪問介護に生活機能向上連携加算が新設され、ヘルパーステーションやわたでは2019年4月より生活機能向上連携加算Ⅱの算定に取り組んでいます。加算算定の目的は、在宅のご利用者が自律した生きがいのある暮らしを送れるように、セラピストとサービス提供責任者がアセスメントし、協働でサービス計画を立てて、生活機能の向上を図るサービス提供を行っていく事です。今回の発表では、生活機能向上への取り組みを事例を用いてご報告いたします。

#### II 事例紹介

Aさん 70代男性 脳梗塞による左片麻痺 要介護5 2017年10月退院し在宅生活を始めると同時に排泄介助を目的として介入しました。介入当時は、左半身の痛みの訴えが強く、身体に触れなくても痛みを訴え寝返りも全介助でした。右側臥位は特に恐怖心が強く、怖さから痛みの訴えが激化し興奮して大声を出していました。スタッフは身体に触れる事で痛みの訴えを増強させるのではないかと不安に感じ、妻との二人介助で対応していました。訪問介入半年が過ぎ、スタッフ間で痛みを紛らわす工夫をしてケアを行っていくうちに何とか落ち着いてケアを受ける日もあるようになりました。

【生活機能向上への取り組み】自宅にセラピストと同行し、他職種の視点でアセスメントを行い、Aさんが自分の力を使う事で痛みや恐怖心が軽減できるのではないかと助言を基に、「安心してオムツ交換のケアを受けることが出来る」とカンファレンスで目標を立てました。更にオムツ交換時に部分的に自分で行う行為を増やしていけるように月毎の目標とケア方法を共に決めて取り組みました。結果、10ヶ月を過ぎた現在では、オムツ交換時に自分の力を使う事で痛みの訴えが減り、以前に比べて落ち着いてケアを受ける事が出来るようになりました。Aさんからは、「次どっち向けばいい？」とのケアへの協力の姿勢がみえ、「わしもがんばるよっ」と意欲的な言葉を聞くことができ、部分的な介助で寝返りが可能になりました。また4月から短期間の入退院を3回繰り返しても機能は衰えることなく維持できています。

#### 【スタッフが感じた変化】

- ・痛みの訴えが減った事で落ち着いてケアを提供できるようになった
- ・Aさんからケアに協力する言動が見え嬉しいと感じた
- ・ケアが上手く出来ない時は、ケアを振り返るようになった

#### 【担当サービス提供責任者の変化】

- ・Aさんの機能向上に繋がる為の動作を観察し、目標を立てる視野が広がった
- ・セラピストと共有し自律の必要性和機能向上の喜びを感じながら目標を立てる事ができた

#### III まとめ

生活機能向上に取り組むようになり、ご利用者の目の前のケアに留まらず、暮らしに向き合う事が以前より増え、ご利用者の思いに寄り添うことで介護職のやりがいを感じる事ができました。今後、記録面や、評価の方法等まだまだ見直しが必要ですが、スタッフ一人ひとりが住み慣れた場所での暮らしを支える一員であることを再確認し、ご利用者の生きがいのある暮らしをサポートしていきたいと思っております。

#### 4. 受付業務における業務改善への取り組み

～より質の高いサービスを目指して～

発表者：ダイナミック事務局 道端亜矢香

ダイナミック事務局フロントスタッフ：山岸優子、林千絵、馬場杏奈、河村優紀

##### 【はじめに】

ダイナミックでは、一般会員は1日平均612人が来館し、ジュニアスクール会員は440名が在籍している。

フロントでは来館されたお客様一人一人に、会員カードと引き換えにロッカーカードをお渡ししている。カード渡し以外にも、お問い合わせ、入退会手続きや見学体験対応がある。さらに事務作業など多くの業務があり、ミスに繋がることも多くあった。また、事務作業が優先される場面もあり、お客様とのコミュニケーションが十分に図れていないこともあった。

そこで、2019年度は事務作業の効率化と、お客様とのコミュニケーションを今まで以上に多くとるため3つの業務改善に取り組んだ。

##### 【取り組み】

- ・ダイナミック月会費前払い制度の廃止
- ・伝票記入作業の廃止、レジ業務の見直し
- ・PayPayの導入、キャッシュレス決済の積極的利用促進
- ・定期的に開催するフロントミーティングでの活発な意見交換と情報共有

##### 【結果】

- ・前払いによる返金件数が減り作業時間の短縮
- ・売上のレジ締作業が大幅に減少
- ・お客様のニーズに合わせた商品等の提供ができた。(プロショップの催事等)

##### 【今後の課題】

上記の取り組みにより、事務作業の効率化に成功した。今後は効率化できた分をお客様ファースト、お客様の声に耳を傾けていきたい。また、2020年度はジュニアスクールの会費前払い制度の廃止を予定している。

質の高いサービスを目指すため、接客研修やパソコンスキルなどのセミナーへの参加、サービス接客等の資格取得に努めることも重要となってくる。

また、さらなる効率化を目指し、将来的にはセルフチェックインの導入も検討する。

## 5. 患者満足度向上への取り組み

医療サービス部 医事課 山本 史歌

### 【はじめに】

医療サービス部では今年度の目標方針としては7つのプロジェクトを立ち上げた。その中でも病院の顔であるわれわれ医事課の接遇向上に向けた取り組みをここに報告する。

### 【目的】

病院に来院される全ての方が、心地よくご利用いただけるように、また笑顔でお帰りになっていただけるように、それぞれおひとりおひとりの立場にあった対応をする。

### 【方法】

- ・クッション言葉が身につくようポスターを作成
- ・前期に接遇再確認の目的で自己評価を実施
- ・後期は他者からの評価を実施し両者ともデータ化し比較  
他者評価シートには一言コメントも追加、頑張りや良い面を書くことでモチベーションアップにつなげた
- ・院内放送実施のための練習
- ・苦情を頂いた場合は、その内容を共有し改善策を検討

### 【結果】

受付窓口での問い合わせ内容は多岐にわたる。受付や診療、会計に関する事、待ち時間などのクレームも寄せられる。その時、患者さんや相手を第一に考え行動することはまず基本である事を認識した。ただ苦情は患者さんからの貴重な声であり、業務改善のチャンスになるという側面もある。苦情を受ける事が悪い事と捉えず、YMCに来てよかったという思いを持って頂ける方を増やしていくという事を目標にしていきたい。

患者さんが病院を選ぶ時代になった今、接遇の評価が低ければ、患者さんの病院を選ぶ際の選択肢から外される事を肝に銘じ、引き続き、他部署と連携を取りながら患者サービス向上に励み、患者満足度向上に努めたいと考える。

## 6. 脊椎・下肢関節の変性疾患に対する手術療法のロコモ改善効果

～術後半年の経過～

診療部 岡本 義之

### 【はじめに】

ロコモティブシンドローム（以下ロコモ）に対する治療の3本柱は運動療法、薬物療法、手術療法であるが、手術療法のロコモ改善効果を検証する研究は少ない。当院では2018年8月より脊椎および下肢関節変性疾患の手術症例に対し、ロコモ度テストの評価を行っている。

### 【目的】

本研究の目的は、脊椎・下肢変性疾患の手術患者における術前および術後半年でのロコモ度を評価し、手術治療の効果をロコモの観点から検証することである。

### 【方法】

2018年8月から2019年4月に当院で脊椎・下肢関節変性疾患に対する手術を施行し、術前および術後半年でロコモ度の評価が可能であった50歳以上の症例101例（男性26例、女性75例、平均70.8±7.8歳）を対象とした。手術の内訳は脊椎疾患（全例腰椎疾患）32例、THA12例、TKA20例、HTO37例であった。ロコモの判定は立ち上がりテスト、2 step test、ロコモ25を用い、術前・術後半年での評価を行った。

### 【結果】

術前101例中100例（99.0%）がロコモと診断され、より進行したロコモ度2が90例（89.1%）と大多数を占めていた。術後半年で32例（31.7%）が1段階以上のロコモ度の改善を認め、10例（9.9%）がロコモを脱していた。手術別にみると脊椎疾患40%、HTO35%、THA25%、TKA15%で1段階以上のロコモ度が改善を認めた。各ロコモ度テストは2 step test、ロコモ25では7割以上の患者で改善がみられたが、立ち上がりテストでは36%に留まった。

### 【考察】

術後半年で1段階以上ロコモ度が改善に至る例が3割を超え、手術による治療効果をロコモという視点から検証することができた。なかでも、腰椎疾患やHTOで改善率が高い傾向にあった。2 step testとロコモ25は術後に改善しやすいが、立ち上がりテストは改善率しづらく、膝OAの進行により立ち上がりテストが悪くなっている状況で行われるTKAではロコモ度の改善が乏しい傾向にあった。

今後は、手術により改善した症状を「さらに良くする」または「維持」するための努力も必要である。ダイナミックやアエール芦城との連携が、さらなるロコモの改善につながるのではないかと考える。

**【目的】**

病院では、褥瘡委員会で4年前より、皮膚損傷の予防対策として皮膚科医師を中心にレッグウォーマーやアームカバーの着用を推進してきた。しかし、次第に職員の対策意識が希薄となり、皮膚損傷の報告が続いた。病棟は、重度の患者が多く、移乗・移動・入浴・更衣時などに皮膚損傷の危険性があり、主に四肢に発生しやすい現状である。そこで、安全管理推進分科会で皮膚損傷予防班を設立し対策に取り組むこととした。

**【期間】** 2018年7月から2019年12月

**【方法】**

- ・安全管理推進分科会で皮膚損傷予防班を設立する。
- ・着用対象者や運用方法を定める。
- ・ポスターや発生件数を掲示し予防意識の向上を図る。

**【結果】**

入院時から予防対策が行えるようになり、家族や患者本人にも理解してもらい、予防効果がありました。また、発生時にはすぐに報告があり素早い処置や予防対策がチームで行えるようになり、朝の申し送り時もアクシデント報告を行い全職員が情報共有し反省や振り返りができるようになりました。

**【考察】**

皮膚損傷予防班を設立し、大きな皮膚損傷もなくなったことから職員の意識の向上に繋がったと考えられる。

## 1 はじめに

今年度、アブレーションに使用している CARTO システムのバージョンアップを実施した。バージョンアップにより焼灼度合の目安にアブレーションインデック（以下、AI）が追加された。AI を用いてアブレーションを実施した際に手技時間に影響があるか検討した。

また、大動脈内バルーンポンプ（以下、IABP）使用患者の搬送時に搬送先に到着した直後に電源が切れた事例について報告する。

## 2 業務改善

### 2.1 目的

最新の技術を用いることで業務が安全かつ効率的に実施できるか検討した。

### 2.2 内容

CARTO システムで表示している焼灼度合の目安を FTI から AI に変更した。

### 2.3 結果

初回 AF 症例においてアブレーション時間が短縮された。

### 2.4 考察

肺静脈隔離時のギャップ発生頻度の低下したためアブレーション時間が短縮された。

## 3 事例報告

### 3.1 目的

重大なアクシデントに繋がりをえた事例と今後の対策についての情報共有。

### 3.2 内容

IABP を AC 電源駆動にて搬送開始。搬送時に車内のブレーカが何度か落ちたため途中からバッテリー駆動に切り換えて搬送するが搬送先に到着した直後に電源が切れた。

### 3.3 結果

2 時間バッテリー駆動可能な機種であるが 1 時間程度しかバッテリー駆動しなかった。救急車の電流容量よりも IABP の消費電流が大きいためブレーカが落ちた。

### 3.4 考察

バッテリーの初期不良。バッテリーに負荷をかけないように搬送時はバッテリー駆動のみで使用する。

## 4 結論

今後も積極的に学会や勉強会に参加し業務に活かす。搬送時に使用が予測される医療機器の消費電流を把握する。医療機器に対する知識を深め、適正使用に努める。

**【はじめに】**

臨床工学技士の人員増加に伴い、業務の見直しおよび業務拡張を実施している。臨床工学課業務手順書を作成、マニュアルの新規作成と改訂、新人教育スケジュールも改訂を加えながら作成をすすめている。

上記の内容について業務活動発表を行うことで院内の臨床工学課業務についての認知度を高めることを目的とした。

**【臨床工学課業務手順書作成、マニュアル新規作成と改訂】**

臨床工学課業務手順書を作成、同時にマニュアルの新規作成と改訂を行うことで、正確な業務量の把握、業務内容についての臨床工学課内でのすり合わせを行った。

**【新人教育スケジュール作成】**

業務手順書とマニュアルを作成したことにより、新人に求められる基本業務が明確化されスケジュール作成につながった。

**【臨床工学課業務の紹介と2018年度以降の業務拡張について紹介】**

臨床工学課業務は大きく分けると臨床業務と機器管理（点検）業務の2つに分けられる。それぞれの内容についての紹介と、2018年度以降に臨床工学課がすすめてきた業務拡張について紹介する。

### 【はじめに】

睡眠時無呼吸症候群の治療としてCPAP療法がある。CPAP療法では病院からCPAP装置※2をレンタルする。レンタル料は医療保険の対象となっており、1～3ヶ月に1度の通院が必要である。

### 【医療情勢と当院の体制】

- 2012年4月 1ヶ月算定から2ヶ月算定が認められる（CPAP患者289名）  
2016年4月 3ヶ月算定が認められる（CPAP患者397名）  
2017年 学会等から情報を得、将来WEB対応機種と非対応機種とでは保険点数に差が出ると考えた  
2017年6月 WEB対応機種に変更開始（CPAP患者640名） 順次変更後、機器管理台帳更新  
2018年4月 診療報酬改定により、CPAP遠隔モニタリング加算新設  
8月 患者に遠隔モニタリング診療の同意を取り始める  
9月 施設基準取得、加算開始  
2019年6月 遠隔モニタリング診療における患者への報告に、メールシステム※3を利用開始

### 【遠隔モニタリング開始後の変化】

遠隔モニタリング対応機種に変更後は、患者からの電話や突然の来院等に、器械やデータカードが無くてもスムーズに対応できるようになり、診察前日に翌日のデータ解析や結果入力を行うことで、当日にカードでの解析は必要なくなった。遠隔モニタリング診療を開始してからは、受診のない月にデータを解析することで、医療者側からトラブルに気が付け、より迅速に対応することができるようになった。

また、必要時に医師から電話での指導を行うことで、患者のアドヒアランス※4低下を防いでいる。メールを開始してからは、指導の必要がない患者に対しても連絡できるようになった。

### 【考察】

遠隔モニタリングが可能になり、患者負担の軽減・待ち時間の短縮、医療従事者の業務の軽減につながった。遠隔モニタリング診療開始により全体の業務量は増加したが、メールの利用によって、医師が行う電話での指導が減った。しかし、メールを利用していない高齢者や若者が多く、今後他部署で利用する際には検討が必要と思われる。

※1. 遠隔モニタリング診療：受診のない月にWEB上に蓄積されたCPAPデータを確認し、得られた所見のみで行う診療。指導の必要がある場合は医師から指導を行う。

※2. CPAP装置：マスクを介して一定の風圧を送ることで気道を広げ、閉塞を防ぐ装置。

※3. メールシステム：情報部が作成したシステム。患者のメールアドレスを事前に登録し、電子カルテに入力した内容を登録したアドレスに送信する。

※4. アドヒアランス：患者が病気や治療の意義を理解し、患者自身が積極的に治療を行おうとする事。

## 1 1. 看護師による入院前支援開始後の現状報告及び課題

地域連携部 入院サポートセンター 室川梨恵子 川田智恵美 作井未来 清水恵子

[はじめに]

2019 年度より入院を予定している患者が入院生活や入院後にどのような治療過程を経るのかイメージし、安心して入院医療を受けられるよう、入院中に行われる治療の説明、入院生活に関するオリエンテーション、服薬中の薬の確認、褥瘡・栄養スクリーニング等を、入院前の外来において実施し、支援を行った場合の評価が新設されました。

当院では入院の約 60%が予定入院であり、入院前から退院を見据えた支援の介入が行いやすい状況にあります。そこで、今年度より入院サポートセンターでは、看護師による入院前支援を行っています。入院が必要となった患者や家族の方と看護師が面接を行い、患者の全体像を把握しています。また、入院後の治療や検査、入院中の生活環境について説明を行い、安心・安全に治療を受けるための環境づくりをしています。

[目的]

- ・入院前から患者・家族と入院目的や予測される課題を共有
- ・入院当日の病棟業務の軽減

[方法]

入院予定患者のオリエンテーション時に、看護師が面接を行います。面接時には患者や家族が入院目的をどのように理解されているのかを確認し疑問なことなどについては、再度説明を行っています。また、入院事前調査表を基に看護基礎情報、褥瘡リスク、転倒・転落リスク、内服管理について評価を行い看護データベースに入力しています。面接時に得た情報は必要時に主治医や他職種のスタッフに提供しています。

特に退院支援看護師・MSW には退院後の生活支援が必要と予測される場合、事前に連絡を行い入院時より速やかに介入が出来るよう調整しています。

[結果]

入院前に面接を行った件数は、整形外科入院患者が手術予定患者を含めて 823 件、循環器科入院患者が心臓カテーテル入院患者のみで 93 件、睡眠外来入院患者が 59 件の計 975 件でした。

病棟スタッフ（看護師・MSW・理学療法士・作業療法士）より、入院の時点で患者の思いや生活情報などが事前に収集されているので患者の全体像が把握でき、問題抽出に要する時間が短縮され、患者に関われる時間が確保出来るようになったとの意見がありました。

[考察]

看護師が入院予定患者の入院前面接を行うことで、入院当日の病棟での情報収集業務の時間短縮と入院日より患者・家族と、現状や今後の課題を共有することがスムーズになり退院後の支援等についても速やかに介入しやすくなったようである。短期間入院の患者が多くなり、個別性を考えた対応が困難になっている中では、入院時に必要な情報があることで個々のスタッフにも時間に余裕ができ、より質の高い看護・治療が提供できるようになるのではないかと考える。

[結論]

早期に全体像を把握できるようになったことで、更に質の高い医療や看護が提供できるように各々が善処する必要がある。

患者にとっては、自分が置かれている状況を理解・再確認し入院前に不安を解消できる場の 1 つとなっている。

## 12. 認知症ケアサポートチーム 活動報告

○小西あけみ、三苫純子、安田忍、谷口真由美、中山さやか、石田絵実、中出奈津子、橋本睦美、小嶋さおり、東祐美子、橋田理絵

### はじめに

看護部では 2016 年認知症ケア加算 2 取得のために必要となる研修受講をはじめ、手順書（マニュアル）と身体的拘束の実施基準の作成整備などの準備を開始した。2018 年 12 月には認知症ケアサポートチーム（Mental Support Team 略して MST とする）を設立し稼動している。現在の活動状況及び実績を紹介する。

### 認知症ケア加算 2 とは

「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」におけるランクⅢ以上の状態にある患者に対し、看護師等が看護計画を作成した日から算定できる。

施設基準には、全ての病棟に適切な研修を受けた看護師を複数名以上配置すること。認知症ケアマニュアルの作成と年 1 回の研修や事例検討を実施することとある。

### MST 活動までの経緯

2018 年 9 月、看護部に認知症ケア加算プロジェクトチームを立ち上げ、同 12 月に三苫医師が参加し MST を設立した。2019 年 1 月、理事長の支援をいただき、あわず神経サナトリウムの秋山医師をアドバイザーとしてお迎えした。同年 7 月からは言語療法士、薬剤師がチームメンバーとなり他職種によるチーム編成となった。

### MST 活動について

目的：医療スタッフの認知症に関する理解不足、適切なアドバイザーの不在による対応困

難等な問題に対応し、認知症ケアの対応力向上や支援のために活動する。

活動内容：①入院患者の認知症やせん妄状態の評価

②治療・ケアへのアドバイス

③認知症専門病棟への転院の適応判断

活動方法：事例検討、職員教育、マニュアル作成、病棟ラウンド、コンサルテーション

開催頻度：2 回/月

### 結果

検討した事例は 2019 年 1 月から 12 月で 73 事例、事例提出理由は多い順に、家族支援に関するもの 8 例、認知機能低下に関するもの 6 例、以下薬物療法、転倒リスクに関するものだった。

2019 年 7 月から認知症ケア加算 2 を取得することができた。12 月までの間で加算取得となった患者数は延べ 191 名、収益計は 426,580 円であった。

MST 活動の今後の課題は、退院後の地域での生活支援や連携にまで視野を広げていくこと、認知症ケアの質の向上に貢献することである。

### 13. 回復期リハビリテーション病棟における業務活動報告

#### ～集団コミュニケーション療法の取り組み～

リハビリテーション技師部 3階病棟 言語聴覚士 釜場 海

#### 【はじめに】

回復期リハビリテーション病棟では2019年6月より認知症、軽度の失語症・高次脳機能障害を呈した患者に、コミュニケーション能力の改善、対人交流による社会性の改善を目的に、集団コミュニケーション療法（以下集団療法）を実施している。今回その取り組み及び変化を認めた症例の評価結果について報告する。

#### 【対象・方法】

##### ①対象者

1名の言語聴覚士が複数の患者に対して訓練を行うことができる程度の症状の患者。集団療法が有効であると期待できる患者（除外対象はFIMコミュニケーション1点の患者）。

##### ②開催日時・場所

月～土曜日の毎日40分間、病棟ダイルームにて実施。

##### ③療法士

常勤する専任の言語聴覚士1名、作業療法士1名。

##### ④内容

曜日によってカルタ、リズムゲームなどにフリートークを交えた課題をスケジュール化し、課題の難易度は参加者の認知機能や高次脳機能障害の程度に応じて調整。

##### ⑤評価

言語療法室で作成した評価表を用いて入院時、退院時と設定し集団療法場面でいった。また個別療法場面での行動評価もいった。

##### ⑥項目

挨拶行動、聴く態度、返答の適切さ、話者交替、話の切り出し、話し方の変化である。1つの項目を最大5点で満点を30点とした。

#### 【結果】

集団療法を実施した結果、対象となった症例の言動に変化が見られた。変化した点として、挨拶を自らするようになった、話題の展開をするようになったなどが挙げられる。変化があった症例すべてに認知機能の維持を認め、さらにコミュニケーション能力向上の傾向があった。個別療法で見られる受動的な状況が、集団療法では能動的に活動・参加ができるようになった。

#### 【今後】

集団療法への参加が、非参加者と比較しコミュニケーション能力に差が生じるかの検証をしていく必要がある。また実生活場面でも、患者同士がコミュニケーションをとっている状況を把握していく必要がある。

## 14. 急性期リハビリテーションの再考 ～THA術後の高頻度介入の効果検証～

リハビリテーション技師部 5階病棟 池田拓史

### 【はじめに】

人工股関節全置換術（THA）は、股関節疾患に対する痛みやQOL改善のための手術として本邦でも広く普及している。当手術の進歩により、早期歩行練習が標準的となり、それに伴い平均在院日数が全国的にも短縮し、過去2ヶ月であった現在20日とされる。

### 【課題】

当院は2019年1月よりクリニカルパスが見直され予定在院日数は35日→28日となった。4月までのアウトカム達成日数は、歩行獲得14.8日、更衣・入浴動作獲得24.8日、在院日数33.2日であった。安全な退院のため、更衣・入浴動作の早期改善が重点課題である。

### 【原因調査】

- ・THAは、術後「脱臼を予防した生体動作」を新たに学習し獲得する必要がある。
- ・療法「時間」の増加は機能改善に有用だが、より早期にADL獲得するとはいえない。

### 【原因に対する取り組み】

急性期介入にて離床やADL獲得に有用とされる低負荷（短時間）・高頻度介入を立案。従来の療法に比べ安全で効果的とされており、当院で実践した膝術後の高齢心不全患者が過負荷とならず（術前BNP338.8→離床後340.2pg/mL）、安全な活動が確認された。標準的な介入回数は2回だが、2019年11～12月を高頻度介入の対象とし、術後翌日より20分ずつ1日6回（1時間に1度）療法介入するようスケジュール調整し術後4日間継続した。

### 【結果】

従来の方法と比較し、高頻度介入が痛みや炎症を助長させず、術後翌日の歩行開始は、従来71%→高頻度介入100%可能（n=10）、補助具無しで靴下着脱自立が平均16.0→10.0日（P=0.036）、平均在院日数28.9日（最短16日）であった。

### 【結語】

手術後の不安定な全身状態において、高頻度の介入が症状寛解を見極め段階的な活動促進可能となることが、術後早期の離床・ADL獲得に有益であったと推察する。THAの在院日数がさらに短縮する見通しである。低負荷・高頻度介入は、術後早期に苦痛が少なく、より安心して在宅復帰を果たせるプログラムの一つであると考えられる。

**【はじめに】**

鏡視下椎間板摘出術を施行後、術後3時間後にリハビリテーション介入し、早期離床するプログラムの標準化を行ったため報告する。

**【現状】**

- ・午前中に手術が終了した患者は翌朝まで約21時間の安静と床上での排泄が強いられる。
- ・手術当日の夜間と翌朝にかけて、起居できないことや介助なしに体位交換ができないことが、精神面や身体面において苦痛であるという意見が多く聞かれる。
- ・一部の術式や、本手術においても、状態が安定した方は、主治医指示で当日介入の実績があるが、対象や介入方法が標準化されていないことが課題である。

**【業務改善活動】**

5階病棟の業務改善班にて医師、看護部と共に当日介入の標準化について改善活動を行った。

**【改善内容】**

- ・病前ADLが自立しており、12時までには手術が終了した患者を対象とした。
- ・術後3時間以降に2単位（40分間）1回、理学療法介入し、足関節運動・介助のもとで起居動作・立位での足踏み運動を実施した。
- ・離床できれば、以降は看護師介助のもと、ポータブルトイレでの排便を許可した。

**【経験症例】**

11月から12月までの対象3例で実施した。(A:男性 B:男性 C:男性)

**【結果】**

全例においてバイタルサインの著明な変動や疼痛の増強なく、リスク管理のもと、手術当日に立位まで実施可能であった。術後翌日には、全例が歩行器で移動しトイレ排泄が自立した。術後当日の介入に関して、症例Aからは「術後当日1回起き上がったことですごく背中が楽になった。」症例Bからは「背中がすっきりとした。」症例Cからは「寝ているよりも立っている方が楽。」との、肯定的な意見が聞かれた。

**【結語】**

術後当日介入は、安静による苦痛の軽減に有効であったと考えられた。

## 16. フレイル予防機能強化型センターの取り組み

- 1) 芦城クリニック 総合相談課 丸内芦城高齢者総合相談センター  
中村英史、山田元、濱田亜希子、山岸晴子、霜下和也
- 2) 芦城クリニック  
上田幸生

### 【はじめに】

小松市では、高齢者総合相談センター（地域包括支援センター、以下センター）が、生活圏域ごとに、市内10箇所に設置されている。当法人では、小松市の委託を受けて、2012年よりセンターの運営を開始している。センターでは、高齢者に関する様々な相談対応を行っているが、その中には、リハビリテーション（以下、リハ）に関する相談も含まれている。一方で、センターの運営上、必要な人員配置は、保健師、社会福祉士、主任ケアマネとされており、リハ職種は必置とされていない。そこで、当センターでは、従来からリハ職種を兼務で配置してきたが、2019年8月より「フレイル予防機能強化型」の追加委託を受け、理学療法士を専従で配置した。従来のセンター業務に加え、以下の活動に取り組んできたため報告する。

### 【活動概要】

主な活動は、フレイル予防の啓発、いきいきサロン等通いの場の支援、地域ケア会議への参加、地域リハの啓発等とし、市内全域の各機関や地域住民からの相談対応を行っている。また、昨年度より、理学療法士・作業療法士を中心とした「地域リハコーディネートセンター」の活動をセンター業務に附帯しており、ここではリハに関する相談対応・情報提供、訪問調査等への同行を行っている。

※フレイルとは、健康な状態と要介護状態の中間に位置する虚弱な状態を指す概念である。フレイルの予防には栄養、運動、社会参加の3つの要素が大切とされており、啓発活動ではこの3要素を強調した。

### 【結果】

2019年8月から12月までの活動実績を報告する。地域リハコーディネートセンターの相談件数は17件であった。相談元はセンター9件、居宅介護支援事業所5件、医療機関3件であり、主な相談内容は、身体機能やADL能力等に応じた環境調整方法の助言、必要なサービスの提案であった。地域のサロン支援として、体力測定の実施やフレイル予防の講話等を14町で実施した。また、小松市のいきいき健康課と協働し、低栄養予防サポート事業を10町で実施した。ここでは、市の保健師と管理栄養士、食生活改善推進員が参加し、フレイル予防の啓発と低栄養を予防する食事の紹介、個別面談などを行った。その他、健脚推進ボランティアや食生活改善推進員に向けて、フレイル予防の講話を行い、支援者として必要な知識や考え方を発信した。

### 【考察】

これまでの活動から、センターが関わる介護予防ケアマネジメントやケアマネジャー支援、医療・介護連携、生活支援・介護予防の業務において、療法士が関わることで支援が円滑になる可能性があると考えられる。今後も、地域ケア会議への参加や地域リハコーディネートセンターの活動を中心として、地域の課題やニーズを整理していきたい。また、フレイルは多面的であり、その予防や改善には、様々な職種や機関、地域との連携が求められている。行政や各専門団体、そして地域と協働し、今後も種々の活動に取り組んでいきたい。



# 第7回業務活動発表会



## ～プログラム～

日時 : 2021年2月3日(水) 17:45～19:45

場所 : 別館 5階 多目的ホール

オンライン配信も行います

部門の取り組みや業務改善、学会発表などの活動を発信、  
今後の運営に活かします

教育推進会議分科会 学術・年報部門

◆開会の挨拶◆

勝木 達夫 病院長

第一部 17:50～

座長： やわたメディカルセンター リハビリテーション技師部 村上 拓也

1. やわた健康スタジオ Aスタジオの新型コロナウイルス感染症による影響について  
在宅サービス部 通所課 やわた健康スタジオ Aスタジオ 橋本 実
2. 健康スタジオ加賀温泉駅前の新規開設と地域での取り組みによる効果  
健康スタジオ加賀温泉駅前 上野 弘樹
3. コロナ禍における高齢者総合相談センターの取り組み紹介  
芦城クリニック 総合相談課 丸内芦城高齢者総合相談センター 中村 英史
4. 回復期リハビリテーション病棟における転倒転落事象の調査と活動提案  
リハビリテーション技師部 坂本 恭一
5. 病棟生活における転倒・転落を減らすために  
～「転倒・転落防止計画立案表」を用いた多職種協議の導入について～  
4階病棟 転倒転落プロジェクトチーム リハビリテーション技師部 多和田絵里奈
6. 高位脛骨骨切り術後のリハビリテーションの違いが大腿四頭筋筋力に与える影響  
リハビリテーション技師部 東 利紀
7. 6階病棟におけるADL維持向上体制の業務改善  
～心不全入院患者のADLケアによる重症化予防の効果～  
リハビリテーション技師部 森安 隆宗

第二部 18:30～

座長： やわたメディカルセンター 看護部 根上 剛

8. 入院支援看護師の新たな取り組み～整形外科手術予定患者への情報と安心の提供～  
地域連携部 入院サポートセンター 作井 未来
9. 整形外科と歯科との連携  
看護部 川岸美貴子
10. リハケア芦城の業務改善について  
訪問看護ステーション リハケア芦城 石田 香織

1 1. 院内コロナクラスター発生時、感染制御チームは何をしていたか

感染制御チーム 佐分 稲子

1 2. 腰椎・下肢関節変性疾患に対する手術療法のロコモ改善効果 ～術後1年の経過～

診療部 岡本 義之

第三部 19:00～

座 長 : 公益財団法人 北陸体力化学研究所 ダイナミック 中崎 衣美

1 3. CPAP 遠隔モニタリングにおけるアドヒアランスへの影響

検査課 表 貴文

1 4. 6階病棟における病棟薬剤師業務

薬剤課 中出奈津子

1 5. MRI 問診票の改善

放射線科 清水 悠暉

1 6. 協働への第一歩

健診事業部 松村ひろみ

1 7. 20、30歳代女性における隠れ肥満の実態と体格分類ごとの体力結果

公益財団法人 北陸体力科学研究所 いしかわ総合スポーツセンター 竹内 寛子

1 8. 臨時休館中および営業再開半年後の生活習慣アンケート調査結果について

公益財団法人 北陸体力科学研究所 ダイナミック 釜場なる子

1 9. ダイナミック Hakusan と健診センターとの連携によるメタボリックシンドローム改善への取り組み

公益財団法人 北陸体力科学研究所 ダイナミック Hakusan 東 香里

◆ 講 評 ◆

勝木 保夫 理事長

◆閉会の挨拶◆

池永 康規 委員長

## 1. やわた健康スタジオ Aスタジオの新型コロナウイルス感染症による影響について

やわたメディカルセンター 在宅サービス部 通所課 やわた健康スタジオAスタジオ  
橋本実

<はじめに>

新型コロナウイルスが国内の感染初確認から1年が経過した。今回、2020年4~5月で、新型コロナウイルス感染症への不安から健康スタジオAスタジオを1ヶ月以上休止した利用者の体力の変化について調査した。また、現在の健康スタジオで行っている感染症対策についても報告する。

<健康スタジオ Aスタジオの4~5月の休止状況>

登録者人数 日常生活総合事業 約150名 短時間通所リハビリテーション 約40名  
内、新型コロナウイルスの影響で健康スタジオを休止した利用者 約40名

<対象>

新型コロナウイルスの影響により、健康スタジオを1ヶ月以上休止した9名  
事業対象者 3名 (90歳代1名 80歳代2名) 要支援1 2名 (80歳代1名 70歳代1名)  
要支援2 4名 (80歳代2名 70歳代2名)

<方法>

休止前後の体力測定値 [握力、CS-30 (椅子からの立ち上がり)、5m歩行、TUG (歩行方向転換含む)]で、維持した者を維持群、低下した者を低下群とし、平均値を比較した。また、健康スタジオを休止中の活動状況についても聴取を行った。

<結果>

維持群は休止前の体力測定値が標準レベルの者が多い傾向にあったが、低下群は低値を示す傾向にあった。休止前後の比較では、再開後の体力測定値は維持群は各項目とも維持していたが、低下群は各項目ともに低下した。健康スタジオを休止中の活動状況は、維持群は散歩や買い物など屋外活動も積極的に取り組んでいたが、低下群では自宅内での活動にとどまっていた傾向にあった。

<考察>

体力が低下している利用者は、1ヶ月以上通所サービスを利用しなくなることで機能低下がさらに進行する可能性がある。また、このような利用者はもともと外出頻度が少なく、健康スタジオを利用することで外出機会、運動機会を確保し、心身機能を維持することができていたが、今回、その機会が無くなり機能低下が生じたと考えられる。

健康スタジオでは新型コロナウイルス感染症対策として送迎車乗車前、健康スタジオ入室前の体温測定、手指消毒、マスク着用などの習慣づけ、机の座席数を減らし密接、密集した環境を減らすなど三密を防ぐ環境作りなどを実施している。今後は、利用者が安心して利用できるという面からの環境やサービスの改善を検討していきたい。

## 2. 健康スタジオ加賀温泉駅前の新規開設と地域での取り組みによる効果

やわたメディカルセンター 在宅サービス部 通所課 やわた健康スタジオ加賀温泉駅前  
上野弘樹

### 【加賀市における介護予防サービスの課題】

加賀市では介護予防のための要支援認定や事業対象の認定を受けた場合に、その対象に特化した通所サービス事業所が非常に少ないため、要介護認定者と共同した生活を送りながら運動支援等のサービスを受けている。また、そのサービス利用時間は比較的長く、さらに介護予防・日常生活支援総合事業（以下、総合事業）の通所サービスに療法士の十分な関わりができていないと推察される。実際に、加賀市在住の高齢者より、サービス利用による効果が実感できないことや運動実施までの待機時間が非常に長いことで、サービス利用に対する不満の声を耳にする。このような状態が続けば、利用者の主体的な介護予防活動に至らず、加賀市住民の高齢化と共に要介護認定率も増加していくことが懸念される。

### 【勝木グループによる加賀市総合事業への新規参入と地域での取り組み】

勝木グループでは、2020年5月より加賀市において総合事業単独の事業所である「やわたメディカルセンター健康スタジオ加賀温泉駅前」を新しく開設した。当事業所では、地域の高齢者の虚弱化予防と健康増進を目的とした取り組みを行っており、総合事業の通所型サービスA（以下、A型）と通所型サービスC（以下、短期集中）のサービス提供により、要支援及び事業対象認定者に特化した支援を実施している。当事業所の特徴として、在籍職員が理学療法士のみであり、介護予防サービスとしては全国的にも稀な事業スタイルをとり、A型及び短期集中での通所支援では90分間/回の利用時間に集団運動と教養活動を行い、利用者が利用時間以外も地域で活動的な生活が送れるように支援している。また、短期集中では外出先等へ訪問支援も実施し、利用者の社会参加の実現を図っている。さらに、当事業所の理学療法士の加賀市一般介護予防事業への派遣や地域住民向けセミナーの開催、アビオシティ加賀内での健康・介護予防相談会の開催など、地域での取り組みは多岐に及んでいる。

### 【健康スタジオ加賀温泉駅前での利用効果の検証と結果】

開設時から6ヵ月間に当事業所のA型を利用し、利用開始時（以下、開始時）と利用1ヵ月後（以下、1ヵ月後）に各身体機能計測が可能であった21名（男性8名、女性13名）の効果検証を行った。検証方法は開始時と1ヵ月後の群間比較をWilcoxonの符号順位検定で行い、有意水準は5%未満とした。

対象者の平均年齢は76.0歳であり、介護度の内訳は事業対象者が9名、要支援1が6名、要支援2が6名であった。また、通所支援頻度は1回/週であった。次に、開始時・1ヵ月後の各身体機能計測の結果の平均値を列記する。右握力は22.3 kg・22.5 kg、左握力は18.2 kg・19.7 kg、右片脚立位保持時間は3.4秒・3.9秒、左片脚立位保持時間は2.6秒・4.8秒、5m歩行時間は7.6秒・6.9秒、Timed Up&Go test（以下、TUG）は20.9秒・17.5秒、30秒椅子立ち上がりテスト（以下、CS-30）は7.9回・9.4回であった。群間比較では、左握力、左片脚立位保持時間、TUG、CS-30において統計的な有意差を認めた。

上記の身体機能の改善効果以外にも、運動施設の利用や生花栽培、畑作業の再開などができた事例も認めており、予防だけでなく生活を改善させることができている。今後も引き続きサービス向上を図り、加賀市の高齢者の方々の介護予防と健康増進に努めていきたいと考える。

### 3. コロナ禍における高齢者総合相談センターの取り組み紹介

芦城クリニック 総合相談課 丸内芦城高齢者総合相談センター  
中村英史、山田元、濱田亜希子、山岸晴子、霜下和也

#### 【はじめに】

小松市では、日常生活圏域ごとに2カ所ずつ、計10の高齢者総合相談センター（委託型地域包括支援センター、以下センター）が設置されている。当法人においては、2012年よりセンターの運営を開始し、主に芦城中学校区を担当している。センターでは地域包括ケアシステムの構築にむけて、高齢者に関する様々な相談支援をはじめ、地域に密着した活動や、ネットワークの構築などを行っている。2020年初頭より、COVID-19の拡大により、高齢者においては、外出の自粛や、地域の通いの場などの休止によって、生活不活発によるフレイルの進行や、地域社会からの孤立が危惧された。このような状況において、従来のセンターの活動を発展させ、いくつかの取り組みを行ったため、以下に報告する。

#### 【取り組み①、フレイル予防のチラシの作成】

生活不活発やフレイルの予防を啓発するチラシを作成した。ここには、生活不活発による心身への悪影響を示し、自宅でも取り組めるフレイル予防のポイント（体操、栄養、趣味活動など）を記載した。

#### 【取り組み②、ハイリスク者への訪問活動】

圏域内約4500名の高齢者のうち、よりハイリスクな状態と予測される75歳以上の独居高齢者（介護認定を受けている方は除外）300人弱を抽出し、4～5月に訪問活動を行った。訪問時は、生活状況や、親族などの支援者の有無を確認し、今後不都合ができればいつでも連絡が欲しい旨を伝え、センターのチラシと名刺を渡した。不在、または十分な面談が出来なかった方については、民生委員に連絡をとった。

#### 【取り組み③、通いの場の再開にむけての支援】

緊急事態宣言の解除後、いきいきサロンの休止指示は解除されたが、その再開の判断については各町に委ねられ、代表者の精神的負担や不安な声が度々聞かれた。そこで、他センターや市と協業し、サロン運営の手引書を作成し、各町に配布した。また、各町の代表者に直接連絡をとり、再開状況や困りごと、要介護者の確認などを行った。その中で希望があった町には、公民館まで出向き、3密を避けた会場設営について代表者と共に確認し、適宜助言を行った。

#### 【結果、考察】

センター職員4人で、計235世帯を訪問した。比較的元気な方が多い印象であったが、訪問を起点にして、介護保険の申請に繋がった方や、受診行動に繋がった方、体操を始めた方などがみられた。いきいきサロンについては、1月現在、8割程度の町で再開されている。一方で、多くの町で参加者は減少しており、今後の課題となっている。

本報告の取り組みの一部は、これまでも標準的なセンターの活動として行っていたが、コロナ禍においては、より必要性が顕在化され、また、工夫も求められた。一連の活動を行う中で、住民同士の助け合いや、住民による工夫を凝らした活動もみられた。これまでは、町内会長や民生委員をはじめとする地域住民と、意見交換を目的とした連絡会を定期的に企画していたが、今年度は開催が困難であった。現在、オンラインでの開催にむけて方法を検討している。今後も平時と感染拡大期が交互に繰り返される事が予測されているが、引き続き、地域に根差し、住民により沿った活動を展開していきたいと考えている。

#### 4. 回復期リハビリテーション病棟における転倒転落事象の調査と活動提案

やわたメディカルセンター リハビリテーション技師部 3階病棟  
坂本恭一

##### 【目的】

回復期リハビリテーション病棟に在籍していた患者様の転倒転落および転倒転落患者の特性を明らかにすること。

##### 【対象と方法】

対象は2020年4月から10月に当院3階回復期病棟に在籍していた40名の患者様とした。

調査方法は、転倒に関する事故報告書(CLIP)をもとに、「場所・時間帯・発生要因や、入棟日、ADL変更後から転倒転落が発生するまでの日数」を抽出し、関連が多かった要因に対しては長谷川式簡易機能評価表(HDS-R)も加えて調査した。また、複数回転倒転落が発生した症例も件数に含めた。

##### 【結果】

半年間の回復期リハ病棟における転倒転落患者数は、33名であり転倒が24名(うち、認知機能低下の割合は63%)、転落が12名(同上83%)となった。転倒の発生場所は自室内で17名(同上60%)となった。時間帯は11時台に4件(同上75%)、17時台(同上80%)となった。発生要因は、スタッフのミスが10件(同上80%)。物を取ろうとした際が8件(同上50%)となった。入棟から転倒が発生するまでの期間は、入棟後1週目が6件(同上67%)。4週目、2ヶ月、3ヶ月以降で多い結果となった。ADL変更後から転倒が発生するまでの期間は、変更後1週間以内が25件(同上55%)となった。転落の発生場所はすべて自室ベッドサイドからの転落であり、物を拾う動作で4件(同上50%)となった。転落件数を時間帯別で見ると2時、7時18時で多い傾向がみられた。入棟から転倒が発生するまでの期間は、1、2週目に3件(同上100%)。2ヶ月に3件(同上60%)となった。ADL変更後から転倒が発生するまでの期間は、変更後1週間以内に5件(同上80%)、2週間以内に6件(同上33%)となった。

##### 【活動提案】

今回の調査から3階回復期リハ病棟では、転倒転落者の多くで認知機能が低下しており、自室内での動作時に転倒が多い事が分かった。また、ADL変更後の転倒件数が多い事から、自立度判定や自室内評価の見直しが必要と考えられた。よって、3階独自の移動・移乗の自立度判定評価表と入院時から使用する自室内での評価表の運用を提案した。

## 5. 病棟生活における転倒・転落を減らすために ～「転倒・転落防止計画立案表」を用いた多職種協議の導入について～

やわたメディカルセンター 4階病棟 転倒転落プロジェクトチーム  
リハ技師部 多和田絵里奈、上地本高、北山彩香、後藤伸介  
看護部 佐々木里美、坂本静江、森岡未来、上田美里、川端秀隆

### 【はじめに】

ベッド周囲環境の調整が不十分であったり、転入直後に転倒・転落対策を協議したり情報共有する機会が少ないという課題があるなか、4階病棟における転倒・転落を防ぐ目的で、2019年度に『転倒・転落プロジェクトチーム』が発足され、現在も活動を継続している。活動の一つとして、ベッド周囲の転倒・転落対策を標準化する目的で「転倒・転落防止計画立案表」を作成し、それをもとに4階転入時のベッド環境について多職種で検討する仕組みを導入した。取り組みの概要と現状について報告する。

### 【活動概要】

病棟での転倒・転落が発生している中で、転倒・転落対策について情報共有を多職種で行う機会が少ないという課題があった。そこで、転入時に生活状況（Barthel Index）の協議を行う際、当日の担当看護師と担当理学療法士がベッド周囲環境について一緒に協議する仕組みを構築した。協議を行う際、担当者の経験年数によらず転倒・転落対策を立案できるよう、指標となる「転倒・転落防止計画立案表（以下、立案表）」を作成した。立案表の認知機能と動作能力の二種類の項目について、それぞれ看護師、理学療法士が責任をもって評価を行い、その結果をもとに協議を行うことで、対策立案の標準化をはかった。また、協議した内容や判定を電子カルテの「転倒・転落アセスメントチャート（以下、チャート）」に記入し、情報共有が行えるようにした。2019年11月より、上記の転入時の転倒・転落対策を行う仕組みを、4階病棟に転入する全例に導入した。導入に際し、立案表をパウチし協議を円滑に行えるようにする、定期的にスタッフに呼びかけを行う、環境調整についての勉強会を行うなどの取り組みを実施し、多職種で協議を行う習慣の浸透をはかった。

### 【効果検証】

取り組みの効果を検証するため、導入前1年間（2018年11月～2019年10月）と導入後1年間（2019年11月～2020年10月）のチャート記入率と転倒・転落件数（転入7日以内、8日以降）を調べた。

### 【結果】

導入1年後のチャート記入率は100%だった。転入7日以内に発生した転倒・転落は、導入直後は3件/月だったが、徐々に減少する傾向が認められた。しかし転入時の病棟間の申し送り方法の変更があった4月には増加し、その後再び減少する傾向がみられた。また移動能力や活動性に変化がみられることが多い転入8日以降の転倒・転落件数は減少することなく、平均2.9件/月の発生が続いていた。

### 【考察】

転入時の転倒・転落対策について多職種で協議を行う習慣は浸透してきており、それにともない転入直後の転倒数は減少している。しかし転入8日以降の転倒・転落は減少しておらず、今後は定期的なアセスメントを行う仕組みの確立が必要である。

## 6. 高位脛骨骨切り術後のリハビリテーションの違いが大腿四頭筋筋力に与える影響

理学療法士：東利紀 上地本高 後藤伸介  
整形外科医師：黒田一成 高橋祐樹 浅亮輔

### 【はじめに】

当院の整形外科手術の中心である高位脛骨骨切り術（以下HTO）は、骨切り部への負荷を考慮しながら慎重に運動を進めることで、杖歩行獲得までに期間を要することが課題であった。同術式に対する当院のリハビリテーションは、2015年まで術後3週間は杖歩行を禁止し、低負荷での運動療法を中心にを行い部分的に荷重を開始した。その代償として、歩行や段差昇降に必要とされる大腿四頭筋の筋力低下が生じることから歩行獲得に期間を要した。術後に生じた筋力低下は、術後1年時点でも残存することが報告されており、術後の筋力低下をいかに予防するかが重要と考える。そこで、2017からは術後早期の骨折が認められないことが明らかとなり、術後翌日から痛みに応じて全荷重を行うERAS（Enhanced recovery after surgery）パスが開始された。更に、2019年にERASパスによる骨切り部の骨折などの術後合併症が認められないことが明らかとなった。そこで、術後の筋力低下を予防する為に運動量の増加と運動意欲改善を目的に集団リハビリテーションを導入した。本発表では、HTOに対するリハビリテーションの違いが歩行獲得日数・筋力改善に及ぼす影響を報告する。

### 【対象・方法】

対象は2015年から2020年の間に当院でHTOを施行した患者160例とした。160例を2015年から2016年にHTOを施行した免荷での個別リハ群（52例）、2017年から2019年までのERASパス群（50例）、2019年から2020年までの集団リハ群（58例）とした。個別リハ群とERASパス群では40分×2回/日の個別リハビリテーションを提供し、ERASパス群では翌日より全荷重を開始した。集団リハ群でも術後翌日から全荷重を開始し、15分0-2回の個別リハビリテーションと60分×2回/日の集団リハビリテーションを提供した。各群の術後の大腿四頭筋の筋力改善率、術後の杖歩行獲得日数を比較した。術前に対する術後3ヶ月の筋力の改善を従属変数に、各群のリハビリテーションプログラムを独立変数とし、各群の個体差（年齢・性別・体重・膝関節の重症度）の影響を除いた二項ロジスティック回帰分析を行った（有意水準は5%未満とした）。

### 【結果】

術前より術後3ヶ月に大腿四頭筋筋力が改善した者の比率は、全体の47%であり、その内訳は個別リハ群24%、ERASパス群52%、集団リハ群68%であり、集団リハ群において最も高い改善率を認めた（ $p<0.01$ ）。ロジスティック回帰分析を実施した結果、個別リハ群に対する筋力改善者のオッズ比はERASパス群で4.89、集団リハビリテーション群で10.41であった。

### 【結論】

HTO術後のリハビリテーションは、リスク管理に配慮しながらであれば術後翌日から荷重を行い、集団リハビリテーションで運動量を担保することで安全にかつ筋力低下の予防ができる可能性が示唆された。

## 7. 6階病棟におけるADL維持向上体制の業務改善 ～心不全入院患者のADLケアによる重症化予防の効果～

1) リハビリテーション技師部、2) 看護部 6階病棟  
森安隆宗<sup>1)</sup>、谷内香織<sup>1)</sup>、松本香菜子<sup>2)</sup>、柳井麻斐<sup>2)</sup>、北村世理香<sup>2)</sup>、高崎都<sup>2)</sup>、後藤伸介<sup>1)</sup>

### 【はじめに】

当院の急性期病棟では、2019年6月よりADL維持向上体制（以下：ADL体制）をとっている。この加算は、入院基本料加算の一つで、急性期病棟に療法士を専従配置し看護ケアと協業することで、当該病棟に入院している全ての患者のADL維持向上を図ることが目的である。今回、病棟看護師と業務改善を行い昨年度よりADL維持向上の効果を確認する傾向であったため、以下に報告する。また、ADL体制では定期的なADL評価、指導など9つの算定要件が定められているが今回の報告内容からは割愛する。

### 【対象とADL評価】

心不全（DPC病名）で6階病棟に入棟し、疾患別リハビリテーションの対象とならなかった患者（以下非該当者）を、2019年10月～2020年3月に入棟した17名を2019年群、2020年4月～2020年9月に入棟した11名を2020年群の2群に分けた。非該当者とは、BNP80未満、急性心不全、急性増悪のない慢性心不全などケアでの重症化予防が可能と判断された患者であり、死亡退院患者は除外した。両群をADL評価スケールのBarthel Index（以下：BI）の合計点で、病前、退棟時、病前と退棟時の差を平均値で比較した。また、群間の心不全重症度には著明な差は認めなかった。

### 【業務改善】

ADL体制についての理解を深めるため、制度やADLリスク低下判定基準などについて病棟会で説明を行った。さらに、昨年度から行っていた入棟時に看護師と、安静度の範囲内で可能な回復促進・重症化予防、転倒・転落防止のための環境調整、ケア計画の協議結果を口頭だけでなく、記録と書面化して行った。また、患者の変化に応じてケア場面での評価を合同で行いADLケアや予防に関する看護計画の変更に、療法士の観点から助言を行った。

### 【結果】

	病前 BI	退棟時	差	年齢	BNP値		
					80 以下	600 未満	600 以上
2019年群 患者数 17 人	64.7 点 (±30.4)	49.7 点 (±31.2)	15 点	86.8 歳	35%	41%	23%
2020年群 患者数 11 人	64.5 点 (±31.1)	62 点 (±30.9)	2.5 点	84.8 歳	36%	27%	36%

昨年に比べ、退棟時のBIの点数が病前との差が小さくなっている。

### 【考察】

ADL体制における専従療法士には、限られた人的資源で非該当者も含めた幅広い患者層に効率的に関わることが求められている。今回、良好な傾向に至ったのは、看護計画への反映が行えたことと現場の看護師が質の高いケアを継続的に行った成果であると考えられる。本体勢において重症化予防、ADL維持向上を行うには、療法士の技術だけではなく24時間ケアにあたる病棟看護師との協業が必要不可欠である。

## 8. 入院支援看護師の新たな取り組み～整形外科手術予定患者への情報と安心の提供～

やわたメディカルセンター 地域連携部 入院サポートセンター  
作井未来

【はじめに】2018年度より入院時支援加算が新設されたことに伴い、当院でも当初3名（現在4名）の入院支援看護師が配置された。整形外科の手術予定患者への介入支援から開始し、現在は循環器内科のカテーテル入院予定、睡眠外来の睡眠検査予定患者へ対象を拡大し支援を行っている。介入時には、患者から生活に関する様々な情報を収集し、アセスメントをした後に病棟看護師、必要時には退院支援看護師へと情報を伝えている。面接中、特に整形外科での手術予定患者からは、術後の様子や生活についての質問が度々聞かれた。これを機に、入院支援看護師が他にできることはないだろうかという疑問を持つようになり、整形外科手術予定の患者に対して新たな取り組みを開始したためここに報告する。

【目的】患者が術後のイメージを獲得できるような情報の提供

【方法】手術が決定した患者に対しては、主治医・麻酔科診察を始め、他科診察や外来看護師からの注意事項や指導、入院サポートセンターでの入院に必要な書類の説明や注意事項など、短期間に様々な情報が伝えられる。そのため、患者が混乱しないよう必要最小限の情報を、記憶に残りやすい形でアプローチができるよう配慮した。現在稼働中のクリニカルパスの内容に基づいて、見える化を意識したスライドを作成した。2020年7月1日より、入院前面接終了後にこれを使用したオリエンテーション（以下オリエンとする）を開始した。内容は患者からの質問が多かったものを中心に、帰宅時の状態・安静解除・飲食・保清・疼痛時の対応・退院の目安とした。オリエンの対象手術は以下の通りである。

- ①上肢：手根管・肘部管開放術／橈骨遠位端骨折／肘関節鏡／他手の手術
- ②肩：ARCR／バンカート／HHR／滑膜切除／授動術
- ③股関節：THA
- ④下肢：ACL／PCL／ERAS（HTO・TKA・UKA）／DFO／DLO
- ⑤頸椎：椎弓形成術／MEL
- ⑥脊椎：椎弓切除術／脊椎固定術／BKP／MED／MEL
- ⑦抜釘・関節鏡（膝・足関節）

【結果】2020年7月～2021年1月までの整形外科入院前面接実施310件の内、手術予定入院288件、内オリエン対象手術予定254件。対象者へのオリエン実施210件であり、整形外科手術入院予定患者の82%に対してオリエンを実施した。説明後患者からは、「手術の後こんな感じなんですね、わかりやすいです。」「結構心配だったけど、3時間で動けるようになるんだ」「こんな感じで固定がされるんですか」など、術後のイメージを得られた様子の反応も見られた。また、日本語の会話はできるが読み書きができないと言う外国の方からは「言葉で言われてもわからないけど、絵なら見ればわかるし助かる。」という声が聞かれたり、難聴の高齢者からは「説明されても聞き取りにくいから直ぐ忘れるんや、これならまだわかる」という声が聞かれた。

【まとめ】手術を控えている患者は、大小何らかの不安を抱えていると考える。しかしながら、これまで手術予定患者が入院前に術後の様子の説明を受け、自身が置かれる状況をイメージし不安の軽減を図る機会は少なかった。このため、今回の整形外科手術予定患者に対するアプローチは、術後のイメージ獲得ができる場の提供に繋がったと考える。また、手術予定の患者には、高齢で聴力や理解力に不安のある方や、未成年者、外国の方もいる中で、見える化を意識したスライドを使用し、視覚的にアプローチすることも効果的だと感じた。入院前から退院までを通し、患者が1入院中に最も関わる人数が多い職種は看護師である。今回の取り組みが「その場」だけで終わることがないように、各部門の看護師が入院前から入院中、そして退院後へと連携を強化していくことが今後の課題となる。入院支援看護師としてこれまで以上の「切れ目のない看護」をできるよう、今後も活動を続けていきたいと考える。

## 9. 整形外科と歯科との連携

やわたメディカルセンター 看護部 外来  
川岸美貴子

### 【目的】

リウマチの治療薬であるステロイド剤やメトトレキサート、生物学的製剤は免疫力を押さえる作用があるため、長期に服用していると、細菌感染に対する抵抗力が減弱して、虫歯になりやすく、歯周病が進行しやすい傾向にある。また、ステロイドには炎症を抑える作用があるため、歯周病が進行していても歯肉は腫れにくく、痛みがでにくく、自覚症状があらわれにくい傾向にある。骨粗鬆症では治療薬の中でも、ビスホスホネート製剤（BP 製剤）とデノスマブは、重大な副作用である顎骨壊死の危険がある。また口の中の衛生状態が悪くなると細菌が増えて、手術創部の感染を引き起こす危険性がある。

それらのことより、当院では特にリウマチ患者さんのメトトレキサートと生物学的製剤開始前、骨粗鬆症の治療開始前、人工関節の手術前に積極的に歯科受診を勧めている。その中で、歯に問題がありスムーズに治療を開始出来ないこともあるため、実際どれくらいの方が歯科受診して、結果はどうだったのか、歯科受診の調査を行なった。

### 【方法】

2019年1月から2020年2月に当院を受診したリウマチ患者519人のうち歯科受診した60人、2019年8月から2020年2月に受診した骨粗鬆症患者1058人のうち歯科受診した60人、2019年10月から2020年2月に手術前に歯科受診した60人の歯科受診の結果を調査した。

### 【結果】

リウマチ患者は問題なく治療開始可能が48%、歯の治療必要だが治療開始可能が15%、抜歯が37%であった。骨粗鬆症では問題なく治療開始可能20%、歯の治療必要だが治療開始可能が30%、歯の治療後に治療開始可能が15%、抜歯が35%。手術前の患者では、手術に問題なしが58%、歯の治療必要だが手術に問題なしが13%、抜歯が29%であった。

### 【考察】

自覚症状が何もないのに歯科受診をした結果、治療必要が半数以上もいたことは、歯に対する意識が低いことが分かった。

### 【まとめ】

リウマチと歯の関係、骨粗鬆症と歯の関係など定期的な指導や関わり、手術前の歯科受診の必要性の説明など重要だと改めて学んだ。

他部署と連携し、患者さんに歯科受診の重要性を指導し、口腔内のチェックや症状が悪化しないように、治療がスムーズに開始できるように、繰り返し指導や関わりが必要である。疾患により歯科受診のきっかけができ、

## 10. リハケア芦城の業務改善について

訪問看護ステーションリハケア芦城

石田香織

はじめに

2013年5月にリハケア芦城が誕生し、2014年12月には芦城本部、やわた、栗津サテライトの3か所体制になった。当初は看護師・療法士合わせスタッフ4名でスタートし、現在はスタッフ22名となった。利用者は訪問看護・リハ合わせて約230名、訪問件数は約1200件/月である。うち緊急対応登録者は140名前後で推移している。待機看護師は8名、夜間の緊急訪問は月平均10～15件ある。自宅で待機し、業務用携帯電話で利用者からの連絡に応じて訪問している。訪問看護ステーションは電子カルテと違い紙ベースであり、利用者の情報共有は難しく、待機スタッフへの負担となっている。

業務改善に取り組む中で、2020年は新型コロナウイルス感染症による時代の変化から新たな対策を講じてきた。それらのことを発表したいと思う。

取り組み

- ① 申し送りノート、利用者一覧、利用者の地図等ファイルしたものを一つのカバンに入れ、毎日待機者のサテライトまで運ぶ必要があったが、2020年度各サテライトに待機用タブレットが導入された。
- ② 毎週月曜日の朝にリハケア芦城の全スタッフがやわたに集まりミーティングを行っていたが、コロナ禍により集合ができなくなりチャット&メッセージを活用したミーティングに変更した。
- ③ 衛生面まで行き届かない訪問先や、発汗等で複数回の着替えが必要な事や、また夜間の緊急訪問に備え自宅に制服を持って帰る事もある。制服は各自が洗濯をしているという現状があり、感染対策について検討を重ねた。

結果

- ① タブレット導入後は紙の状態の利用者個人情報を持ち歩かなくてもよくなり、より安全になった。またカバンを運ぶ移動時間の短縮や、荷物の軽減にもつながった。
- ② チャット&メッセージを活用したミーティングに変更したことでスタッフの移動時間が短縮し、カンファレンスも30分間確保できるようになった。
- ③ 速乾性手指消毒剤はウエルホーム携帯へ変更、手洗い用液体石鹸や、ペーパータオルの携帯、ケアに合わせて布もしくはビニールエプロンもしくはガウンの着用とした。底面が清拭できる靴下カバーや訪問カバンを置く為の敷物にディスポデッキを利用するようになった。

今後の課題

一人暮らしや高齢者世帯、老老介護、認認介護など家族基盤の弱体化、複雑化した多問題を有する利用者の増加など訪問看護のニーズは変わってきている。またコロナ時代により入院中の面会制限から、終末期を自宅で迎える事を希望する人が増加、医療度も高く新しい機器を覚えることも増えてきた。訪問看護業務の効率化、情報共有がスムーズになるよう、訪問看護ステーションにもさらなるICT化を進める必要があると感じている。

## 11. 院内コロナクラスター発生時、感染制御チームは何をしていたか

佐分稲子（感染制御認定看護師）

坂下真紀子、喜田恵（検査課）

石田美由紀、道下孝恒（薬剤課）

坂下美穂（看護部）

小松奈保子、片山伸幸（診療部）

昨年8月のコロナ院内クラスター発生時に、感染制御チーム（ICT）の職員が、どのように活動していたかを紹介する。未経験の事柄を、事前に十分に想定仕切って予め準備することはできない。ICTも然りで、初動から手探りの状態で任務を行っていった。今回、クラスター時の活動状況を振り返り、今後、どのように改善すればよいのか、どのように病院全体で感染管理を行っていけばよいか、さらに、当院でのICTのあるべき形を考える。

## 12. 腰椎・下肢関節変性疾患に対する手術療法のロコモ改善効果

### ～術後1年の経過～

やわたメディカルセンター 診療部 整形外科  
岡本義之

#### 【はじめに】

ロコモティブシンドローム（以下ロコモ）に対する治療の3本柱は運動療法、薬物療法、手術療法であるが、手術療法のロコモ改善効果を検証する研究は少ない。当院では2018年8月より腰椎および下肢関節変性疾患の手術症例に対し、ロコモ度テストの評価を行っている。2020年9月からはロコモの新たな臨床判断値として、「ロコモ度3」が新設されており、ロコモ度3を含め検討した。

#### 【目的】

腰椎・下肢変性疾患の手術患者における術前、術後半年、術後1年でのロコモ度を評価し、手術治療の効果をロコモの観点から検証する。

#### 【方法】

2018年8月から2019年11月に腰椎・下肢関節変性疾患に対する手術を施行し、術前、術後半年、術後1年でロコモ度の評価が可能であった50歳以上の症例109例（男性32例、女性77例、平均70.4±8.1歳）を対象とした。腰椎疾患42例、THA12例、TKA19例、HTO36例であった。ロコモの判定は立ち上がりテスト、2 step test、ロコモ25を用い、術前、術後半年、術後1年での評価を行った。

#### 【結果】

術前109例中108(99.1%)がロコモと診断され、より進行したロコモ度2およびロコモ度3が102例(93.6%)であった。術後1年では109例中94例(86.2%)がロコモに該当していたが、70例(64.2%)で1段階以上のロコモ度の改善を認め、ロコモ度2およびロコモ度3は53例(48.6%)にまで低下していた。手術別にみると腰椎疾患42例中27例(64.3%)、THA12例中8例(66.7%)、TKA19例中8例(42.1%)、HTO36例中27例(75%)で1段階以上のロコモ度が改善を認めた。術前よりもロコモ度が悪化した症例は6例であった。

各ロコモ度テストでは、ロコモ25は82%の患者で術前より改善し、術前平均28.8点が術後平均15.3点であった、また2 step testも85%の患者で改善していたが、立ち上がりテストは52%に留まった。

#### 【考察】

術後1年で1段階以上ロコモ度が改善に至る例が6割を超え、手術による治療効果をロコモという視点から検証することができた。なかでも、HTOの改善率が高く、腰椎疾患、THAがそれに続いた。TKAでは、手術時の年齢が高く、立ち上がりテストの改善が不十分でありロコモ度が改善しない要因になっていると考えられた。

### 1 3. CPAP 遠隔モニタリングにおけるアドヒアランスへの影響

やわたメディカルセンター 診療技術部 検査課  
表貴文

#### 【はじめに】

当院に通院される CPAP 患者は毎月～3 ヶ月毎の間隔で対面診療を受けている。

従来、睡眠呼吸障害外来の受診がない月は患者の CPAP データの確認は行われなかったため、外来受診まで CPAP トラブルが発見できずリアルタイムな介入が困難であった。しかし、遠隔モニタリング診療（以下遠隔）の導入により、受診のない月においても CPAP データの確認が行われるようになった。結果、CPAP トラブルの早期発見、早期解決が可能となり、よりきめ細やかな診療を提供できるようになったと感じている。

#### 【目的】

2018 年度の診療報酬改訂により CPAP の遠隔モニタリング加算が新設され、当院でも同年 9 月より遠隔を開始した。今回、遠隔モニタリングによる CPAP アドヒアランスへの影響を検討した。

#### 【方法】

2018 年 9 月時点で CPAP を 1 年以上継続して使用している患者 457 名（年齢 64.2±27.4 歳、男性 363 名、遠隔に同意あり 289 名）に対し、遠隔への同意の有無と CPAP 使用時間の変化、CPAP の使用タイプ\*ごとの CPAP 使用時間の変化における関連を解析した。

#### 【結果】

遠隔を行っている群は遠隔開始直後から 1 年後まで継続して CPAP 使用時間の優位な増加を認めた。また、CPAP データを使用タイプ別に分類した場合、『不真面目型』、『使用日数不良型』、『後半使用型』で CPAP 使用時間の優位な増加を認めた。遠隔による使用時間の優位な減少は認めなかった。

#### 【考察】

一定の使用タイプ別の患者においては CPAP アドヒアランスが向上すると考えられる。

#### ※CPAP の使用タイプ分類

任意の 30 日間の CPAP データにおいて、

良好型 ……使用時間 4 時間以上の使用日数が 21 日以上ある。

不真面目型 ……使用時間 4 時間以上の使用日数が 21 日未満。

使用日数不良型……1 日の平均使用時間は 4 時間以上だが、使用日数が 21 日未満。

不良型 ……1 日の平均使用時間が 4 時間未満かつ使用日数が 21 日未満。

前半使用型 ……使用時間 4 時間以上の使用日数が 21 日未満かつ睡眠の途中で CPAP を外している。

後半使用型 ……使用時間 4 時間以上の使用日数が 21 日未満かつ睡眠の途中で CPAP を装着している。

頻回覚醒型 ……1 日に 2 回以上 CPAP を着け外ししている。

#### 1 4. 6 階病棟における病棟薬剤師業務

やわたメディカルセンター 診療技術部 薬剤課  
中出奈津子 東昌代 梅元晃美 石田美由紀

病院における薬剤師業務は、私が働き始めた 2000 年ごろから大きく変動を遂げています。病院の中で外来患者の薬を作って渡していた時代から、調剤薬局で院外処方箋を持っていき調剤してもらうよう変更になり、病院の薬剤師は、院内に入院している患者への服薬指導業務に重点をおくようになりました。また、単に服薬指導だけではなく、医薬品の適正使用と安全管理が求められています。近年では、患者の超高齢化に伴い、薬剤師として、服薬管理、アドヒアランス、残薬、ポリファーマシーなど問題点も山積みとなっているのが現状です。急性期病棟の入院患者について現在、当院薬剤課では、各病棟に薬剤師を常時配置して、病棟における薬剤師業務を行っています。

6 階病棟では主に循環器内科、消化器外科、呼吸器内科の急性期の患者を受け持っており、日々、緊急入院を含め、多くの患者が入院、退院しています。患者さんの状態も日々変化しており、病棟での看護師が、激務となっています。これまでも、6 階病棟における看護師の業務負担が重く、看護部を中心に業務改善が講じられていました。

この現状を鑑み、病棟看護師へアンケートをとり、病棟での薬剤師業務について模索し、また、看護部からの強い要望もあり、病棟薬剤師が入院患者さんの薬全般について主に関わることになりました。2020 年 5 月より、病棟薬剤師として 6 階病棟での看護師の業務負担軽減について取り組みを開始しました。

発表では、アンケート結果、取り組んだ業務内容について、またそこから見えてきたこと・課題などについて、報告を行いたいと思います。

## 15. MRI 問診票の改善

やわたメディカルセンター 診療技術部 放射線課  
清水悠暉

MRI では検査を受ける前に患者に問診票を渡して記入してもらっている。最近は問診票に記載されていないものやMRI 検査を受けるに当たっての質問が増えてきた。

そのため、より分かりやすい問診票を作成する必要が出てきた。

主な改善点を以下に記す

- ・ 金属類、機器類を持ち込んだ際の危険性を明記
- ・ 入れ墨、アートメイク、過度な化粧による発熱、変色の可能性、検査への影響を追加
- ・ 当日外してもらいものにネイルや金属イオンを含むものを追加
- ・ 視覚的に分かりやすいようにイラストの追加
- ・ 問診票欄に手術歴の有無の欄を追加
- ・ 問診票のレイアウトの変更など

また問診票に関するアンケートをMRI を受けた患者、外来Ns を対象に行った。

集計結果は当日スライドにて報告する。

## 16. 協働への第一歩

やわたメディカルセンター 健診事業部  
松村ひろみ

健診センターは年間を通して、さまざまな種類の健康診断を来館及び出向で実施している。特に秋時期は、通常の健康診断と健診結果帳票作成に加え、小松市特定健康診査・小松市胃がん検診、企業への出向による健康診断やインフルエンザ予防接種などの実施から、一時的に業務が過多となる。加えて、保健師は受診者に対する特定保健指導業務も実施しており、看護師とともに大幅な時間外業務を強いられることとなる。

今年度、時間外業務削減を目的として、企業への出向によるインフルエンザ予防接種事業を対象に、メディカルセンターからの看護師スタッフ応援を依頼し、20名近くの看護師が出向接種及びワクチンシリンジ詰め業務にご協力いただいた。また、小松市特定健康診査の時期から1名（午前中のみ）のアルバイト看護師も採用した。

接種者数は、昨年度の接種者数13,880名（うち出向11,479名・136企業）に対し、今年度は接種者数14,713名（うち出向12,444名・146企業（12月末現在））となり、出向による接種数は8.4%の増であった。出向接種班についても、昨年度は1日1組としていたが、今年度は2組はおろか、3組が出動する日もあり、応援看護師の協力がなければ、出向接種の業務実施そのものが危ぶまれ、結果として、当センター看護師の時間外業務の削減には至らなかった。

大幅な時間外業務は、スタッフと会社の両者に弊害を与えることになる。

スタッフに対する最も大きい弊害は、私生活の時間が減少することによる生活リズムの変化が心身共に悪い影響を与える可能性がある。会社に対する弊害は、支払賃金の負担増のみならず、生産性の低下やスタッフの離職にも繋がる可能性である。

今年度は、新型コロナウイルスの影響を受けて、健診センターとしても二度の業務休止等を余儀なくされ、ご利用者様の健康診断受診時期の変更・遅延等から、当該時期への健康診断受診者数の増加となった。

また、インフルエンザ感染予防についても、大幅な外的な要因の変化が見られない限り予防接種事業の需要は維持されると思われる。

次年度以降秋時期、時間外業務について、健診センター内で解決できることと、そうではないことの区別を明確にしたうえで業務に取組み、勝木グループに貢献し、グループ全体の利益を最優先に考えることが肝要である。

今年度、応援看護師の存在がなければ、健診センター看護師の時間外業務の更なる増、ややもすると、秋時期業務を乗り越えることすら難しい可能性も否定はできない。

メディカルセンターから応援して下さった看護師の皆さん、素直に感謝申し上げます。

## 17. 20、30歳代女性における隠れ肥満の実態と体格分類ごとの体力結果

公益財団法人 北陸体力科学研究所 いしかわ総合スポーツセンター  
竹内寛子、北田聡子

### 【背景と目的】

個人利用者の性別や年代別において、比較的若い年代の女性の利用者が少ない印象にあり、利用促進に繋がる体力的情報提供ができるものはないかと検討。そこで20、30歳代女性の基礎体力測定結果を調査した。

### 【対象】

2016年4月1日～2019年3月31日（3年間）に基礎体力測定を実施した、競技アスリート者を除く、一般女性（21歳～85歳）677名のうち、21歳～40歳の246名。

### 【方法】

- ①部位別直接インピーダンス測定法にて体脂肪率と骨格筋量を測定。自動身長計を用いBMIを算出。
- ②基礎体力測定はエアロバイク（脚のスタミナ）、背筋力、垂直とび。

### 【結果】

- ・BMIを用いた肥満度分類3分類では、「痩せ」が13%、「正常範囲」が74%、「肥満」が13%であった。
- ・BMIと体脂肪率を用いた5分類では、「痩せ」が13%、「正常範囲」が45%、「隠れ肥満」が29%、「肥満」が13%、「過体重」は0%であり、BMIのみでの3分類で正常範囲であったうちの約40%が「隠れ肥満」に該当した。
- ・体格分類ごとの体力結果は、エアロバイク（脚のスタミナ）と背筋力では、最も低かったのは「隠れ肥満」、次いで「痩せ」であった。垂直とびでは、最も低かったのは「肥満」、次いで「隠れ肥満」であった。

### 【考察】

- ・今回の対象者は、比較的運動に関心があると予想される集団でありながら、全体の約30%が「隠れ肥満」に該当した。運動習慣がなく、関心が低い層では、さらに「隠れ肥満」が存在するのではないかと推測される。
- ・体格分類ごとの体力結果において、「隠れ肥満」はエアロバイク（脚のスタミナ）と背筋力の2種目で一番低い結果となり、総合的に一番悪い結果であった。「痩せ」と「隠れ肥満」に骨格筋量の差がないにも関わらず、「隠れ肥満」の方が悪い結果となり、その要因の一つとして、日頃の運動習慣に差があるのではないかと考えられる。

### 【まとめ】

- ・健康リスクが低いと考えられている若い年代にも、将来の体調不良に繋がる低筋肉の状態が潜んでいる可能性があり、年齢が若い早い段階から、年をとっても筋肉量を維持できるような取り組みを推奨していく必要があることが確認できた。

・体重だけでは判断できない「隠れ肥満」の判定として、筋肉量を推定できる体組成測定を推奨し、「隠れ肥満」に該当した場合には、食事制限だけといった誤った体重調整を行うのではなく、筋肉量を増やすことや、運動不足に陥らないよう定期的な運動継続の重要性を伝え、合わせて正しい食事指導も行っていく必要がある。

以上、今回の調査結果を、運動促進、体力測定啓発のための情報提供のひとつとし、若い年代の女性の運動参加や利用促進へ繋げていきたい。

## 18. 臨時休館中および営業再開半年後の生活習慣アンケート調査結果について

公益財団法人 北陸体力科学研究所 スポーツコミュニティダイナミック  
釜場なる子

### 【背景および目的】

新型コロナウイルスは世界中に甚大な被害をもたらしたが、日本国内における感染拡大を受けて、人々の生活や意識にもさまざまな変化が生じている。政府による緊急事態宣言発令に伴い、(公財)北陸体力科学研究所スポーツコミュニティダイナミック(以下、ダイナミック)は、3月の半月間と4~5月の約2か月間、臨時休館となった。ダイナミックで健康づくりに励んでいた会員様は、運動実施場所を失い、不要不急の外出自粛も影響し、身体活動量の低下を招く状態となった。

そこで、臨時休館中の運動実施の有無や体調面、食事、睡眠などの生活状況を把握すると同時に、会員様により効果的な支援等を検討するため、及び営業再開から半年後の変化を把握するために、簡単なアンケート調査を実施したので調査結果を報告する。

### 【調査実施期間および対象者】

第1回目調査 : 臨時休館中の生活習慣について

6/20(土)~7/6(月)

10~90歳代 315名(男性177名、女性166名、無記名8名)

第2回目調査 : 営業再開から半年後の健康度について

11/18(水)~23(月)

10~90歳代 470名(男性240名、女性215名、無記名15名)

### 【主な結果】

第1回目の調査において、ほとんどの人が運動の必要性を感じていたが、実際に運動を実施していたのは66.7%であった。体重の増減については、「体重が1kg以上増加した」は47.8%。「食事内容に変化がなかった」が83.1%であった。休館中での不安要素については、「筋力・体力の低下」「体重増加」「コミュニティ関係」等、不安を感じていた。

第2回目の調査で、現在の体調について、「体調が良くなった」が23.0%、「筋力が向上した」が6.8%であった。臨時休館中と比べて体重が「減った、あと少し、元に戻った」が66.3%。運動再開後のトレーニングについてスタッフに「相談した」が17.5%、「相談する必要がなかった」が61.0%であった。

### 【まとめと今後の取り組み】

臨時休館中は、スタッフ一同、会員様に何ができるのかを真剣に考えてきた。6/1(月)から営業を再開するにあたり、日々の身体活動量をモニタリングできるサービス(ウェアラブル端末:カラモ)を立ち上げた。また、Youtube(ダイナミックチャンネル)を通して健康講座やトレーニング動画を配信、さらに、営業再開後は、新型コロナウイルス感染拡大予防対策として、一般社団法人日本フィットネスクラブ産業協会(FIA)のガイドラインに基づいた施設運営を行い、健康不安を解消すべく、様々な取り組みを実施してきた。今後も会員様に寄り添える存在として、また、会員様に有益な健康情報をSNS等も活用しながら情報発信し続けていきたい。

## 19. ダイナミック Hakusan と健診センターとの連携によるメタボリックシンドローム改善への取り組み

公益財団法人 北陸体力科学研究所 メディカルウエルネス ダイナミック Hakusan  
東香里

### 【はじめに】

当財団は、2019年3月に公立松任石川中央病院の健診センターに併設された健康増進施設「ダイナミック Hakusan」の運営委託を受けた。当施設では、健診センターと連携し、健康支援サービスを提供しており、今回、特定保健指導該当者で運動療法を希望した人に対して「3か月運動実践型メタボ改善サポート」を行った1事例を報告する。

### 【方法】

①**サポートの概要**：インピーダンス法体成分測定装置での筋肉量、脂肪量などを基に、対象者の運動プログラムの作成・指導及び生活習慣の改善目標を設定した。実施期間は3か月間。3か月後の目標体重を70kg以下とした。

②**対象者の身体的特徴**：61歳、男性（運動習慣なし）、身長173.2cm、体重71.8kg、BMI 23.9であった。対象者は週に2回健康増進施設を利用し、1か月毎に体成分測定を行った。それをもとに随時運動・食事内容の見直しを実施した。

③**運動負荷**：運動内容は有酸素運動（歩行やジョギング、ペダリング）を40分、運動強度はRPE12～13、筋力トレーニングは6種目2セットを実施した。施設の利用回数は週平均2回の計24回であった。

### 【結果】

体重は1か月毎に2kg程度減少し、71.8kgから65.2kgに至った。目標を大きく上回り、体脂肪率も27.3%から21.0%に減少した。筋肉量は49.4kgから48.7kgの僅かな減少にとどまり、運動の効果が確認できた。スタート時の収縮期血圧が160台であったが、3か月後は120～130台と安定し、血液検査ではT-cho値、LDL-C値、中性脂肪値の減少、HDL-C値の増加がみられた。

今回のことから、一人ではなかなか運動を続けられない人が多い中、このように健康増進施設と健診施設が連携することで、保健師、健康運動指導士のサポートが加わり、運動実践(継続)を容易に行うことが期待でき、効果が見込まれる。

2019年度 勝木グループ 研修計画

日程	対象 (★は業務)	テーマ・内容など	講師	場所	主催
4月1日(月) ～4日(火)	2019年度 新入職員 ★	新入職員研修 (毎年4月1日から4日間)	グループ内講師他	多目的 ホール他	人事部
5月14日(火) 17:30～	全職員	南加賀心臓リハビリテーションセミナー 「訪問心臓リハビリテーション」	ゆみのハートクリニック 理学療法士 鬼村 氏	多目的 ホール	地域連携部 第一三共共催
6月25日(火) 17:30～18:30 DVD:6/27、7/2 (詳細別途)	全職員 医療安全・感染① ★	「医療安全・感染対策職員研修会」 ①医療分野における電波の安全性について(仮) ②抗菌薬適正使用支援について ③当院における過去の事例から学ぶ感染防止対策	①総務省北陸総合通信局無線通信部 大石部長 ②抗菌薬適正使用支援チーム ③感染制御チーム	多目的 ホール	医療安全管理委員会 院内感染防止対策委員会
6月27日(木) 17:45～18:30	全職員	健康サポート作戦・ウェルネスセミナー①栄養講話 「夏に美味しいドリンクと正しい水分補給」	北体研 管理栄養士 中崎 衣美	やわた 倶楽部	安全衛生委員会
7月18日(木) 17:45～18:30	全職員	健康サポート作戦・ウェルネスセミナー②運動実技 「脂肪燃焼!サーキットトレーニング」	北体研 運動指導員 森崎 貴志	多目的 ホール	安全衛生委員会
7月19日(金) 16:30～17:30	全職員	「医療従事者の法的責任(民事)」	顧問弁護士 松本 哲哉	多目的 ホール	院長
7月26日(金) 13:30～17:30	3年目職員 ★	3年目研修 「TA(交流分析)研修」 (毎年7月第4金曜)	㈱ヒューマンスキル開発センター 笠井 徳子 氏	多目的 ホール	人事部
9月6日(金) 17:45～18:45	全職員	倫理委員会研修会 「患者参加型医療について」	滋慶医療科学大学院大学 教授 飛田 伊都子先生	多目的 ホール	倫理委員会
10月3日(木) 午後	2019年度 中途採用者 ★	中途採用者研修 (毎年10月第1木曜)	院内講師(教育推進委員他)	多目的 ホール	人事部
9月13日(金) 10月10日(木) 10月18日(金) 15:00～17:30	管理職研修 ★	①考課者研修 ②「働き方改革」の推進と留意点 ③「著作権」の基礎知識 ④「もしバナゲーム」で人生最後を考えるワークショップ	人事部他	多目的 ホール	人事部
10月17日(木) 17:45～18:15	全職員	「リハビリテーションスタッフの接遇対応」(仮)	西広島リハビリテーション病院 理事長 岡本 隆嗣先生 看護介護部長 杉本真理子氏 他	YMC 3F リハ室	リハビリテーション技 師部
10月26日(土) 8:30～17:30	2019年度 新入職員 ★	新人フォローアップ研修 (毎年10月第4土曜)	院内講師(教育推進委員他) オフィスワン 中川真由美氏	多目的 ホール	人事部 教育推進会議
10月30日(水) 12:30～13:30	全職員	地域包括ケアのための診療報酬WEBセミナー2019 「消費税増税による2019年改定と 2020年改定に向けての重要ポイント」	㈱リンクアップラボ代表 酒井 麻由美氏	多目的 ホール	法人事務局 (帝人ファーマ㈱)
10月31日(木) 17:30～	全職員	南加賀心臓リハビリテーションセミナー ①一般講演「在宅心臓リハビリテーションを考える」 ②特別講演「オンライン型在宅心臓リハビリが広がる未来」	①やわたMC 勝木達夫院長 ②大阪大学医学部附属病院 循環器内科 谷口 達典先生	多目的 ホール	地域連携部 (第一三共共催)
11月14日(木) 14:00～17:00	2年目職員 ★	「グループディスカッション:顧客サービスについて考える」 異なる部署や職種の事情を理解し、日常業務やプロジェクトを進める ことの大切さを学ぶ。(毎年11月第2木曜)	グループ内講師 (教育推進委員他)	多目的 ホール	人事部 教育推進会議
11月28日(木) 17:45～	全職員	接遇研修 「ホテル業から学ぶホスピタリティマインド」(仮題)	株式会社ホテルアローレ 代表取締役社長 太田 長夫氏	多目的 ホール	教育推進会議分科会 接遇部門
12月7日(土) 14:30～16:00	YMC・北体研 合同訓練	「災害対応訓練」(法定訓練)		YMC 北体研	救急・防災部門検討会
12月18日(水) 17:30～18:30	全職員 医療安全・感染② ★	「医療安全・感染対策職員研修会」	医療安全管理委員会	多目的 ホール	医療安全管理委員会 院内感染防止対策委員会
12月19日(木) 17:30～	全職員	心臓病トータルケアセミナー(第8回南加賀心リハセミナー) 「弁膜症のカテーテル治療と急性期心臓リハビリテーション ～不整脈合併例も含めて～」	金沢大学医学部循環器内科医局長 坂田 憲治先生	多目的 ホール	地域連携部 (第一三共共催)
1月17日(金) 17:45～18:45	全職員	「脊髄損傷患者に対する作業療法 ～福祉用具の適合や環境調整によるADL支援を中心に～」	兵庫県立リハビリテーション中央病院 作業療法士 柴田八衣子氏	多目的 ホール	リハビリテーション 技師部
1月24日(金) 17:45～19:15	全職員	第6回「業務活動発表会」 (演題応募締切:1月6日(月))	各部署発表者	多目的 ホール	教育推進会議分科会 学術・年報部門
2月6日(木) 19:00～20:30	全職員	南加賀生活習慣病セミナー ①一般講演「FGM(フロンティア・グローバル・モデル)への関与」 ②特別講演「糖尿病性腎症レジストリー(JDNCS)の運用と解析」	①YMC検査課 坂下真紀子課長 ②金沢大学保健管理センター 付属病院腎臓内科助教 清水美穂先生	多目的 ホール	地域連携部 小松市医師会 協和キリン(株)
2月14日(金) 17:45～18:45	全職員	大規模災害発生時の支援を目的とした 「JRAT」への参加活動について(仮題)	医療法人社団 輝生会 教育研修部長 池田 吉隆氏	多目的 ホール	大規模災害支援推進 会議
2月26日(水) 17:45～	全職員	2020診療報酬改定セミナー	日本経営	多目的 ホール	医療サービス部
3月4日(水) 19:00～ 【中止】COVID-19対策	全職員	小松・能美合同症例検討会	症例発表予定 ①琴野先生 ②浅先生 ③芳珠病院 職員	多目的 ホール	救急・防災部門検討会
3月19日(木) 19:00～20:00 【延期】COVID-19対策	全職員	第2回心臓病トータルケアセミナー 「心リハを軸とした高齢心不全患者における急性期治療戦略」	藤田医科大学 ばんだね病院リハビリテーション部 副主任 河野 裕治 先生	多目的 ホール	地域連携部 (第一三共共催)
3月4日(水) 5日(木) 6日(金)	全職員 ★	「個人情報保護の勉強会」(参加必須) 各日とも2回開催 ①12:30～13:00 ②13:30～14:00 計6回開催(同じ内容です)	情報統計部	多目的 ホール	情報統計部
3月24日(火) 17:45～18:45	全職員	「NST加算導入後の現状と課題～実績・症例報告～」	NST委員会	多目的 ホール	NST委員会

2020年度 勝木グループ 研修計画

日程	対象(★は業務)	テーマ・内容など	講師	場所	主催
4月1日(水) ～4日(土)	2020年度 新入職員 ★	新入職員研修 (毎年4月1日から4日間)	グループ内講師	多目的 ホール他	人事部
6月30日(火) 7月1日(水) 7月4日(土)	全職員 ※看護師・看護補助 者は別途個別受講 医療安全・感染①	医療安全・感染対策職員研修会 ◆要予約：各回50名まで ○医療安全：ヒューマンエラー対策 ○院内感染防止：標準予防策 と感染経路別予防策	e-ラーニングによるビデオ視聴	多目的 ホール	医療安全管理委員会 院内感染防止対策委員会
9月5日、7日、8日、 9日、10日、11日 11回開催	全職員 ★	「感染対策職員研修会」 ○濃厚接触にならないために ○濃厚接触の考え方	診療部皮膚科医長 小松奈保子先生	多目的 ホール	院内感染防止対策委員会
11月25日(木) 18:00～	全職員	心臓病トータルケアセミナー 「新たなstageを迎えた心不全治療術 ～心臓リハビリテーションの重要性を含め～」	横浜南共済病院総括部長 鈴木誠先生	YMC新館 1F外来	地域連携部 (「ハ」財「イ」財「マ」 大塚製薬共催)
12月1日(火) DVD 12/4、5、8 10回開催	全職員 医療安全・感染 ★ ②	「医療安全職員研修会」 ○患者誤認・内服誤注入防止他 ○医薬品の取り扱い ○医療被ばくの安全管理 ○輸液ポンプの取り扱い	医療安全管理委員会	多目的 ホール	医療安全管理委員会 院内感染防止対策委員会
①② 12月10日 ③④ 12月11日	全職員	災害対応訓練(感染対策のためDVD視聴) 「病院における初期消火、避難誘導」 ①③ 12:30～13:00 ②④16:00～16:30 第2回心臓病トータルケアセミナー(WEB講演会)	DVD視聴	多目的 ホール	救急・防災部門検討会
1月22日(金) 18:00～19:00	全職員	「10歳若返る！インターバル速歩 -そのリハビリテーション医学への応用の可能性-」	信州大学医学部 特任教授 能勢 博先生	多目的 ホール	地域連携部 (第一三共共催)
2月3日(水) 17:45～19:45	全職員	第7回「業務活動発表会」 (感染対策としてサテライト会場設置)	各部署発表者	多目的 ホール	教育推進会議分科会 学術・年報部門
2月17日(水) 17:30～	全職員	石川県肝疾患専門医療機関認定 『肝炎・肝疾患に関する研修』	消化器内科 林 武弘 先生	多目的 ホール	診療部・人事部
2月26日(金) 3月1日(月)	管理職研修 (課長級) ★	「育成・面接技法、働き方改革関連、等」	人事部	多目的 ホール	人事部
3月9日(火) 3月11日(木)	全職員 ★	「個人情報保護の勉強会」(参加必須) 各日とも9:00～17:00 20分×34回	企画統計部	多目的 ホール	企画統計部
3月24日(水)	全職員	やわた生活習慣病セミナー 「口コモ、フレイルの問題点とその対策」	金沢大学附属病院整形外科 助教 加藤仁志 先生	多目的 ホール	地域連携部 (科研製薬株式会社)

## 編集後記

2019・2020年度の年報がようやく完成の運びとなりました。2020年度は感染予防対策やクラスター対応へ思慮をめぐらせ行動せねばならず、学会参加や講演活動においても制限がありましたが、情勢に応じたやり方で続けた活動がこの一冊にまとめられました。日々変化していく状況の中、いかに地域社会に貢献するかという意匠惨憺は、今後の発展にもつながっていくと感じています。ぜひ2019・2020年度の年報に目を通していただき、勝木グループ職員の熱意を感じとっていただければと思います。

最後になりましたが、年報作成にあたりお忙しい中、原稿をお寄せ頂いた皆様、研究に携わった全ての皆様、そして、原稿の収集等、協力いただいた学術・年報部門の委員に心から感謝申し上げます。

教育推進会議 学術・年報部門

北陸体力科学研究所 管理栄養士 中崎衣美

2019・2020年度 年報誌

発行日 2022年3月1日

編集 教育推進会議 学術・年報部門

委員長 池永康規

委員 出雲路朋 上野勝也 高木洋之 谷口美幸 中崎衣美

根上剛 福村龍也 古河丈治 宮岸宗太朗 山田竜也

制作 木場フォーム印刷株式会社





## 特定医療法人社団 **勝木会**

---

### やわたメディカルセンター

やわた健診センター

やわた健康スタジオ

健康スタジオ 加賀温泉駅前

ヘルパーステーションやわた

やわた居宅介護支援事業所

### 芦城クリニック

芦城クリニック健康スタジオ

丸内・芦城高齢者総合相談センター

健康増進センター アエール芦城

訪問看護ステーション リハケア芦城

## 公益財団法人 **北陸体力科学研究所**

---

### スポーツコミュニティダイナミック

やわた倶楽部

指定管理施設

いしかわ総合スポーツセンター

運営受託施設

ダイナミックHakusan